

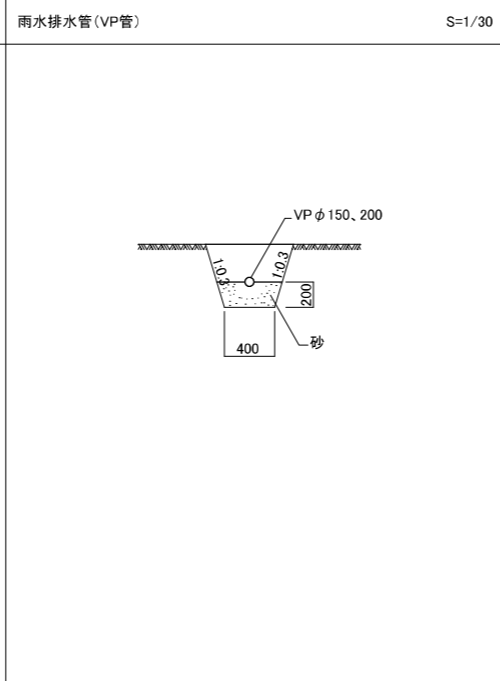
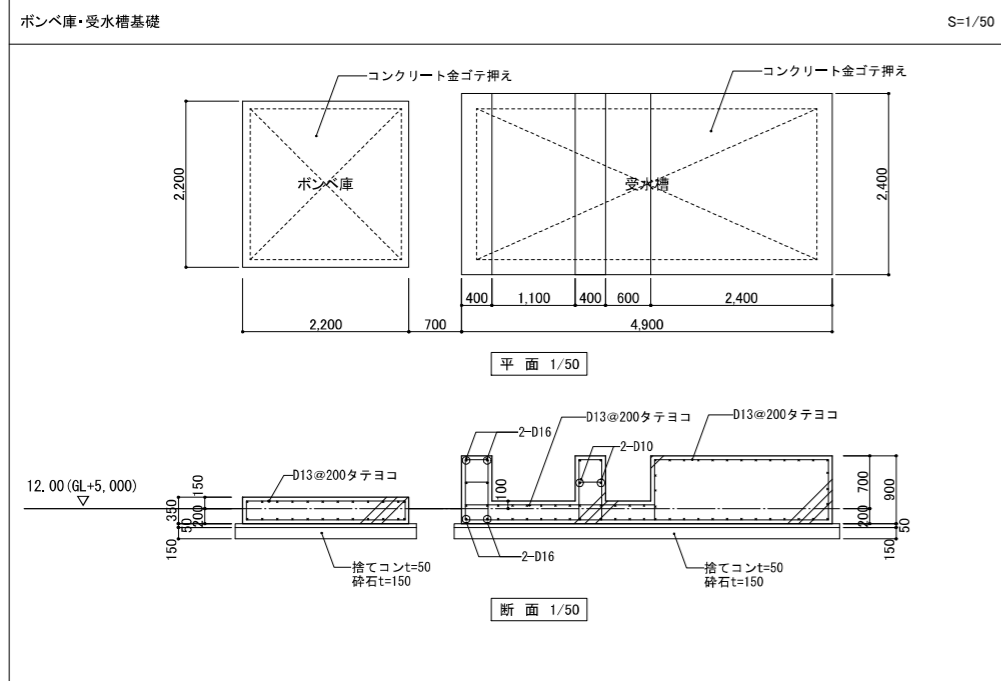
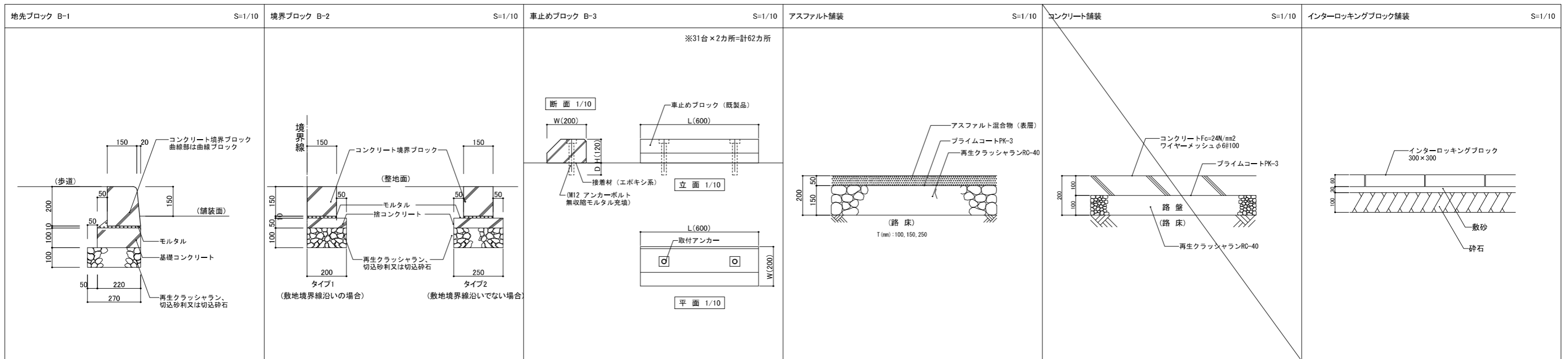
凡例	名称	凡例	名称
[B-1]	地先ブロック 150×200	[LN-1]	白線W=100
[B-2]	境界ブロック 150×150	[LN-2]	駐車禁止マーク オレンジ線引き
[As]	アスファルト舗装	[LN-3]	車いすマーク白線引き
[B-3]	コンクリート製車止め L600	[LN-4]	止まれ文字構白線引き
[LN-1]	コンクリート舗装	[K-1]	受水槽基礎
[LN-2]	インターロッキングブロック舗装	[K-2]	ポンベ庫基礎
[7.00]	計画地盤高 (KBM基準)	[U-1]	防火水槽 (埋設)
[1~19]	雨水排水枡	[P-1]	バリカーH=700
[1~19]	雨水排水管		
[M-1]	アルミ製引き戸扉W6000×H1200		
[F-1]	メッシュフェンスH=1,800 (L=14.0)		

凡例	名称	樹高	目通り幹径	枝張	数量	支柱	ハーク堆肥	樹種プレート	備考
[A]	シマトネリコ	3.00m	0.12m	3.00m	1本	二脚鳥居	3kg/本	—	
[B]	ヤマツバキ	3.00m	0.15m	3.00m	25本	二脚鳥居	3kg/本	—	
[C]	キンモクセイ	3.00m	0.10m	3.00m	11本	二脚鳥居	2kg/本	—	
[E]	サツキ	0.50m	—	0.40m	1288本	—	2kg/本	—	密植: 5本/m ²
[F]	ハクチョウゲ	0.40m	—	0.20m	120本	—	2kg/本	—	密植: 5本/m ²
[野芝]	野芝	—	—	—	852.51m ²	—	—	—	

1) 枯木保証1年
2) 客土

1年経過後、枯死又は枝損傷及び変形不良などになった場合は同等以上の物を再植栽する事。
真砂土とする。客土および芝目土は、植物に適した良質土で、雑草、ごみ、小石等の混入、
病虫害に侵されていないものとする。(植穴を掘削した土を、客土として使用する場合も同じ)

※上記植栽の各寸法は、植栽後に十分に成長した時のものとする。

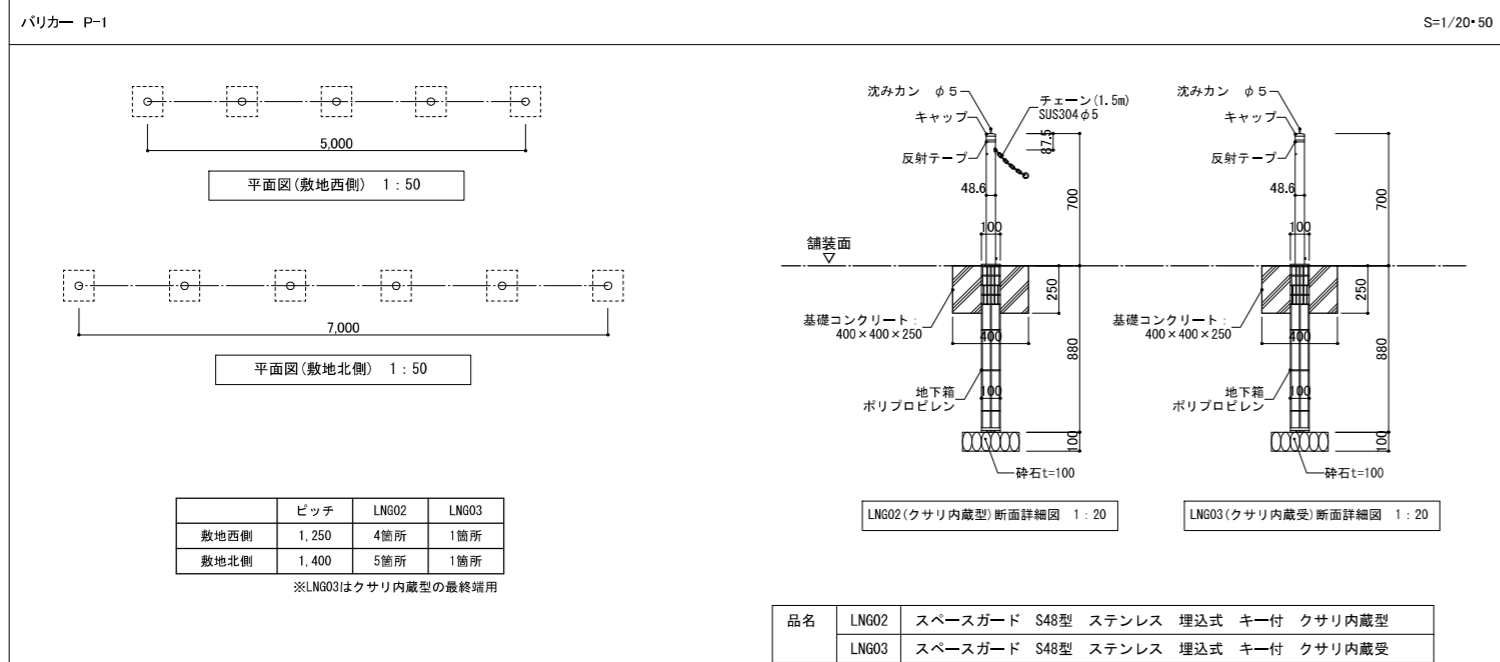


製品名	H	A	T	B	C	D	E	F	G	I	J	組立筋			参考重量 (kg)
												径 (φ)	縦筋 (本)	横筋 (本)	
450	680	450	60	620	45	540	540	100	360	420	80	3.2	12	4	130
" ロング"	880	450	60	620	45	540	540	100	360	420	85	3.2	12	5	171

製品名	H	A1	B1	A2	B2	C	参考重量 (kg)
	200	450	—	550	—	50	46
	300	450	—	550	—	50	69

製品名	H	A1	B1	A2	B2	C	D	E	F	参考重量 (kg)
	600	450	—	550	—	50	240	280	60	124

製品名	H	A	T	B	C	E	参考重量 (kg)

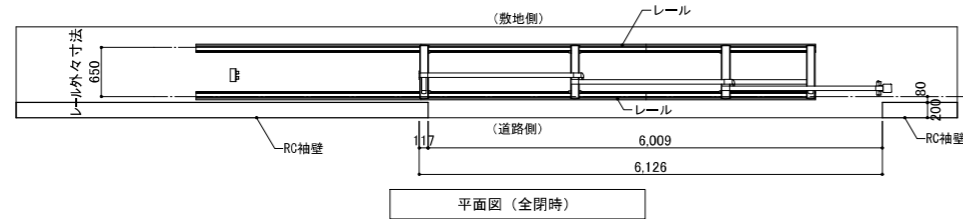
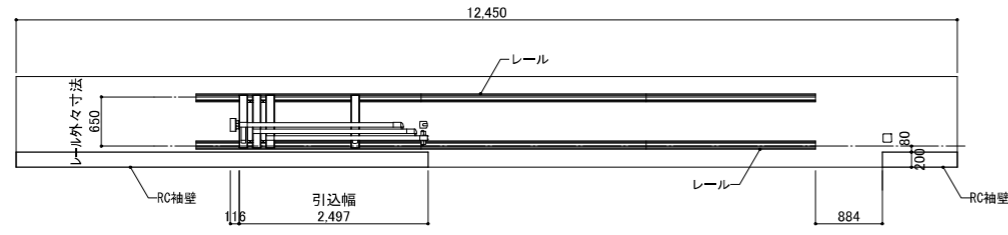


会所リスト

*会所泥溜めは、管底より-150とする。
*ゲレチング蓋は、スチール製細目タイプ (耐荷重=T-12)とする。

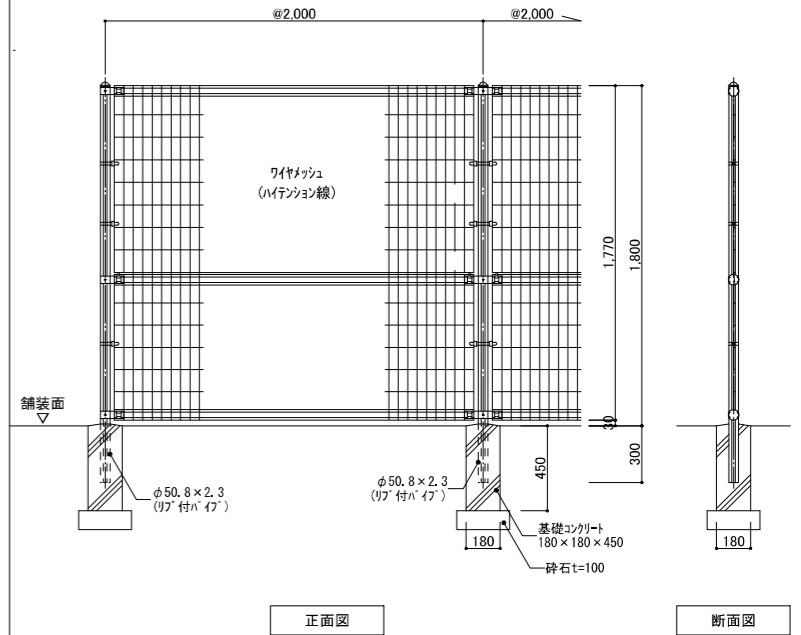
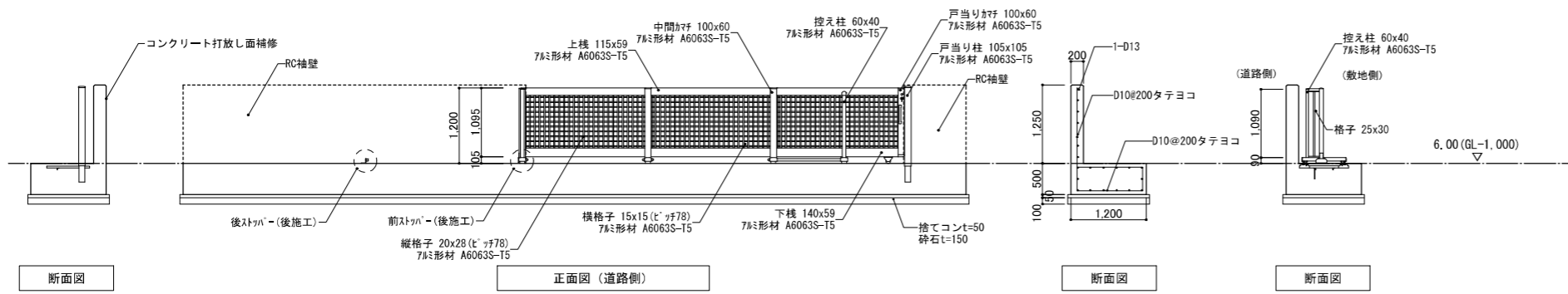
符号	会所	組合	会所天端 (設計GL-H)	管底 (設計GL-H)	排水管径	管勾配
1	雨水枦 (既製品)ゲレチング蓋	一般450	+300	±0	VP管 150φ	1/100
2	"	"	"	-130	"	"
3	"	"	"	-210	"	"
4	"	一般450ロング	"	-310	"	"
5	"	"	+250	-400	VP管 200φ	"
6	"	一般450	±0	-490	"	"
7	"	一般450ロング	"	-580	"	"
8	"	"	"	-650	"	"
9	"	"	"	-710	"	"
10	"	一般450	"	-300	"	"
11	"	"	"	-400	"	"
12	"	"	"	-480	"	"
13	"	一般450ロング	"	-550	"	"
14	"	"	"	-610	"	"
15	"	"	"	-680	"	"
16	"	"	"	-500	-1200	VP管 150φ
17	"	一般450	-1000	-1300	"	"
18	"	縁塊+調整300+立上り600	-500	-1390	"	"
19	"	縁塊+調整1300+立上り600	+300	-1510	"	"

井上セメント工業株式会社雨水枦同等品

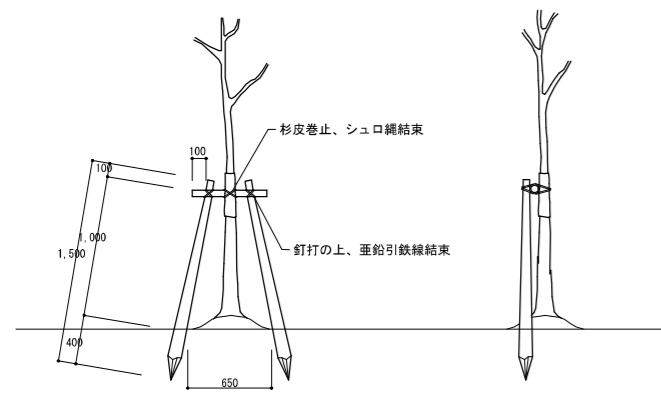


主要部材寸法表 (寸法単位:mm)

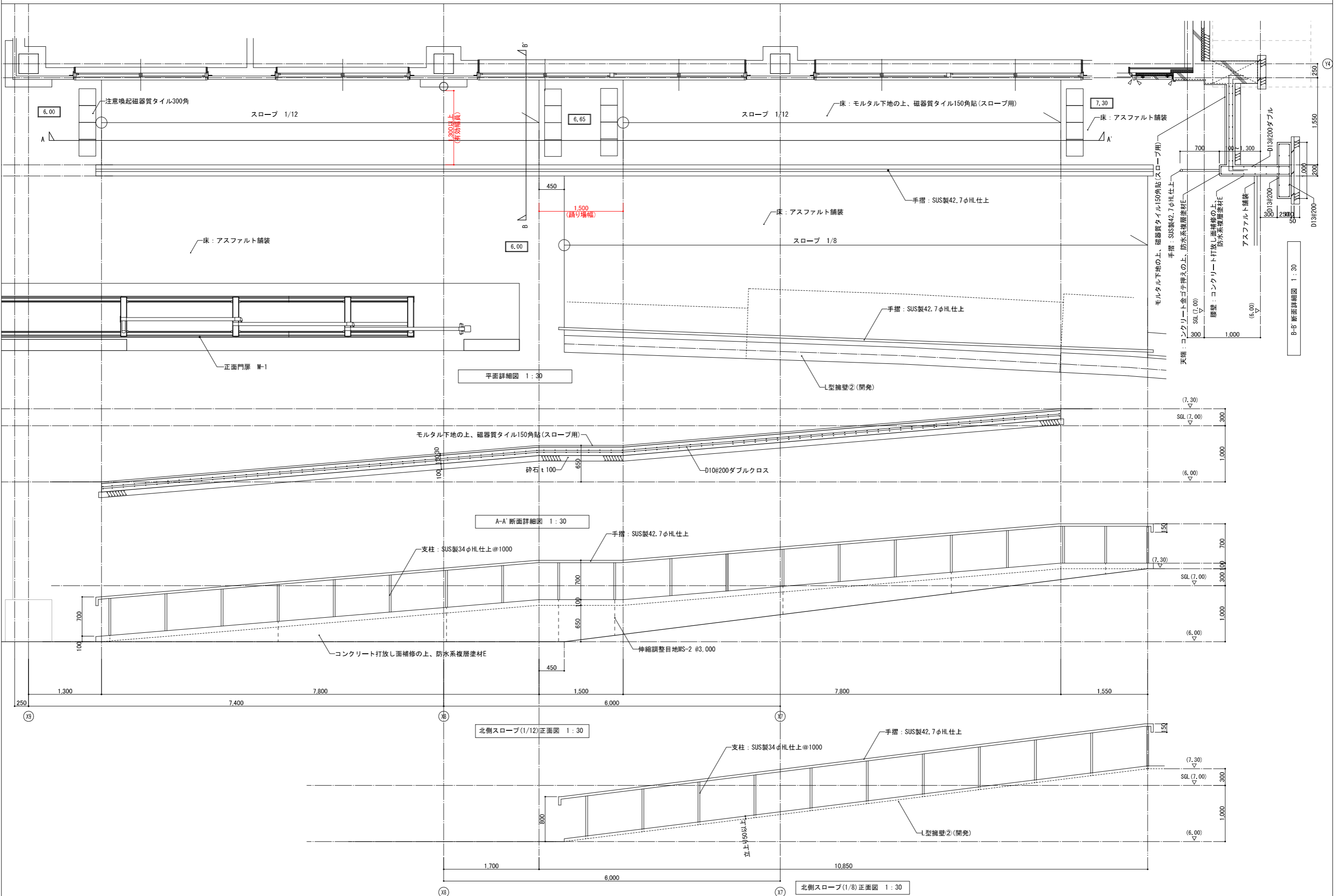
部 材 名	外径x厚さ	材 質	表面処理・塗装
上棧	115x59	7#ミ形材 JIS H 4100 A6063S-T5	陽極酸化塗装複合皮膜
下棧	140x59		
戸当りかまち	100x60		
中間かまち	100x60		
中棧	78x53		
縦格子	20x28		
横格子	15x15	ステンレス材 SUS304 + 7#ミ形材 JIS H 4100 A6063S-T5	陽極酸化塗装複合皮膜
戸当り柱	105x105		
控え柱	60x40	7#ミ形材 A6063S-T5	亜鉛めっき
レール		ステンレス材 SUS304 + 7#ミ形材 JIS H 4100 A6063S-T5	陽極酸化塗装複合皮膜
ビス・ボルト・ナット類		ステンレス材 SUS304	
型式コード	3- (60) - (08)		
品名	アペリードAL型 Aタイプ 片開き 3連 (W6009xH1200)		

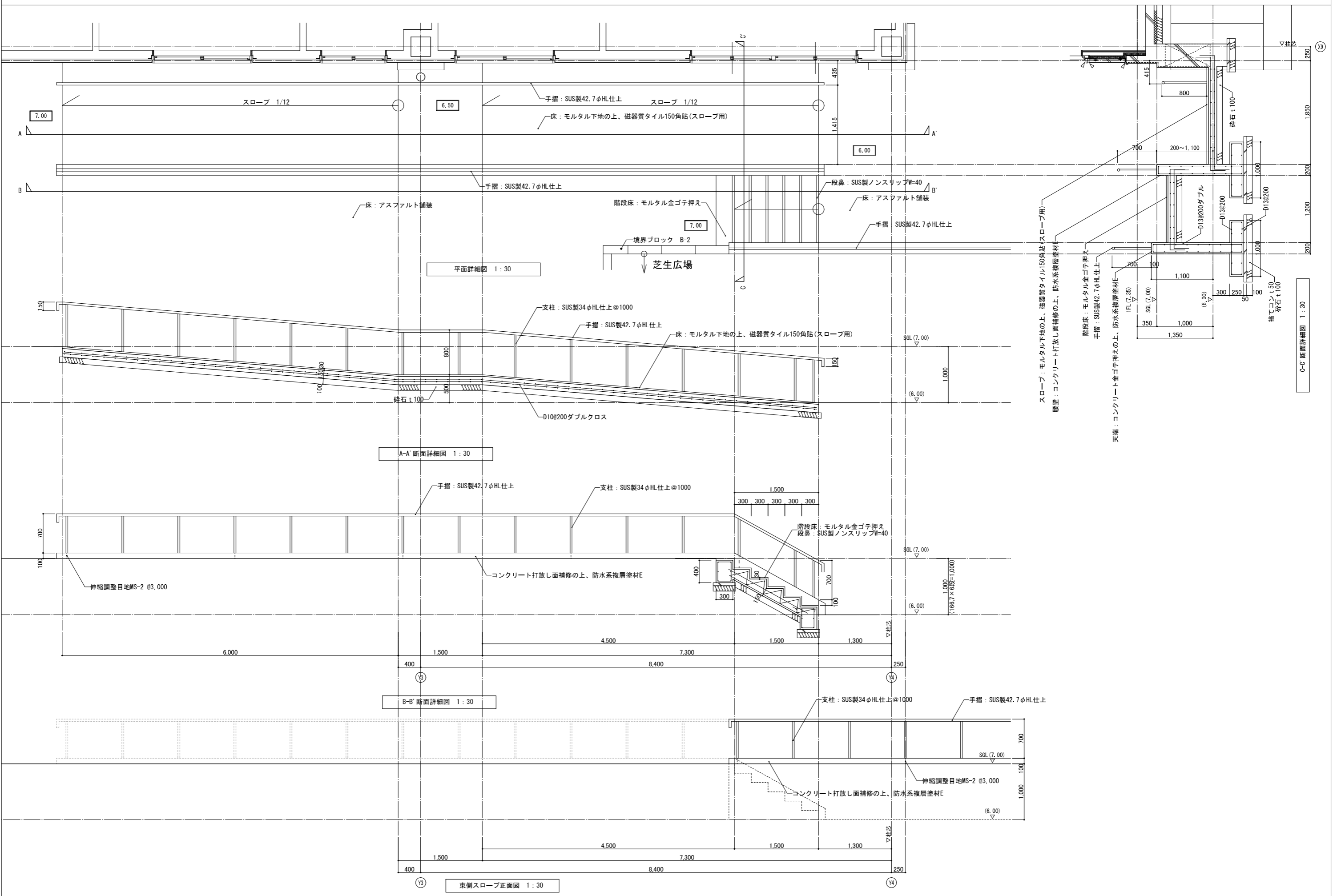


朝日スチール工業 UN-A1800L-50 同等品



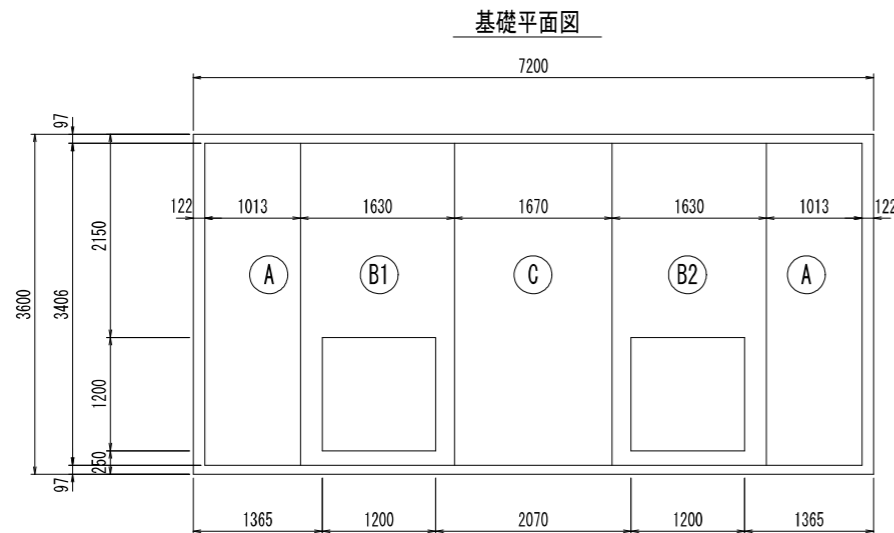
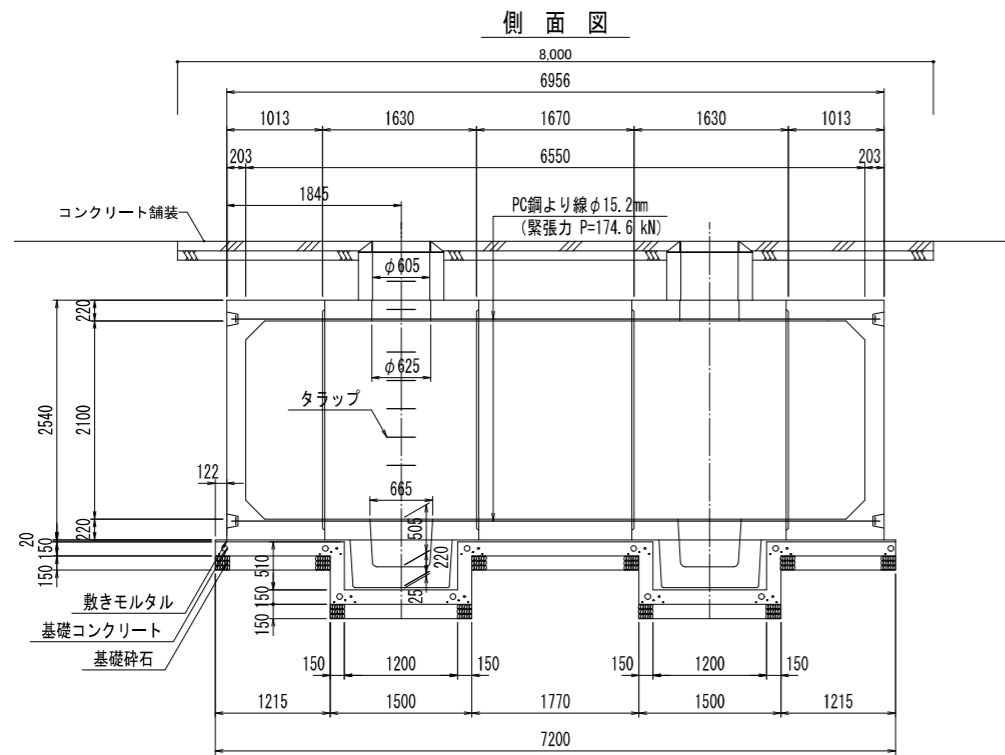
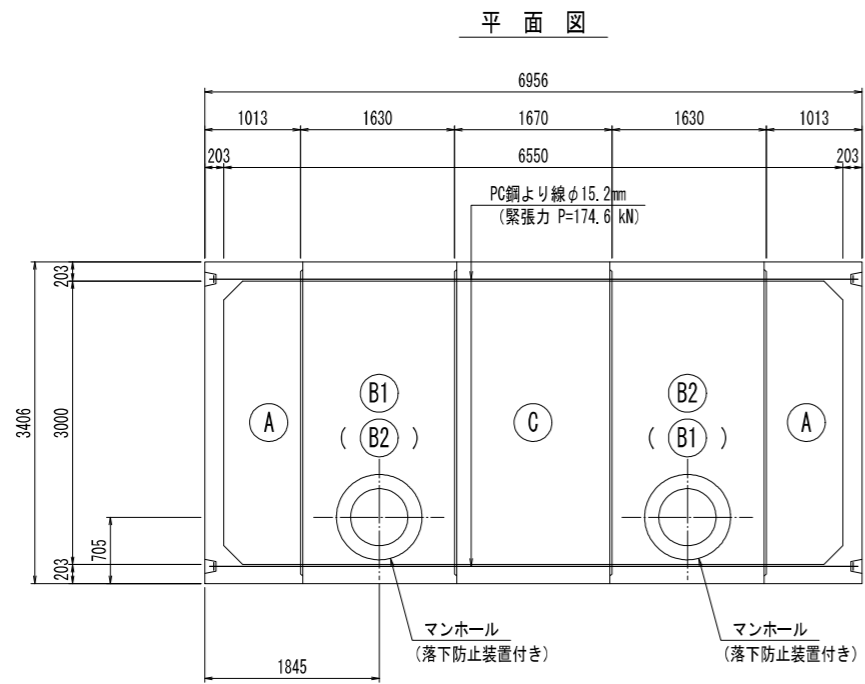
支柱仕様		◎ 支柱の埋込みは、元口を下にする。 ◎ 支柱の角は面取りを行い、重なる箇所は、適度な切り込みをつけること。
杉丸太	末口 4.5 ~ 6cm 防腐剤注入品	
控杉丸太	〃	
シュロ縄	6mm	
亜鉛引鉄線	#18	
洋釘	JIS 5508 #8 L=10 cm	



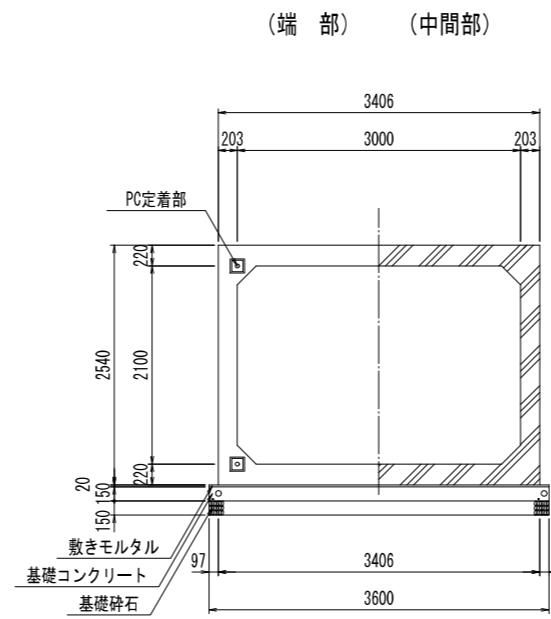


耐震性貯水槽構造図

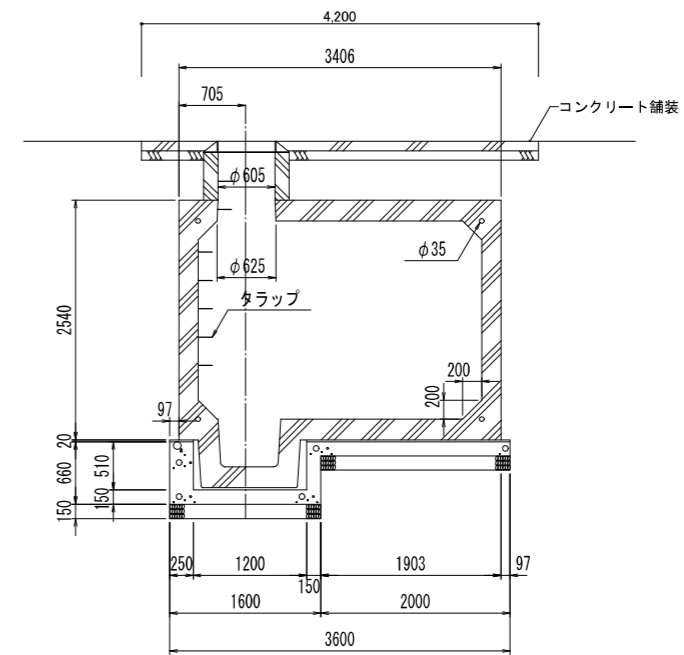
40m³ 2ピット



標準断面図



ピット部断面図



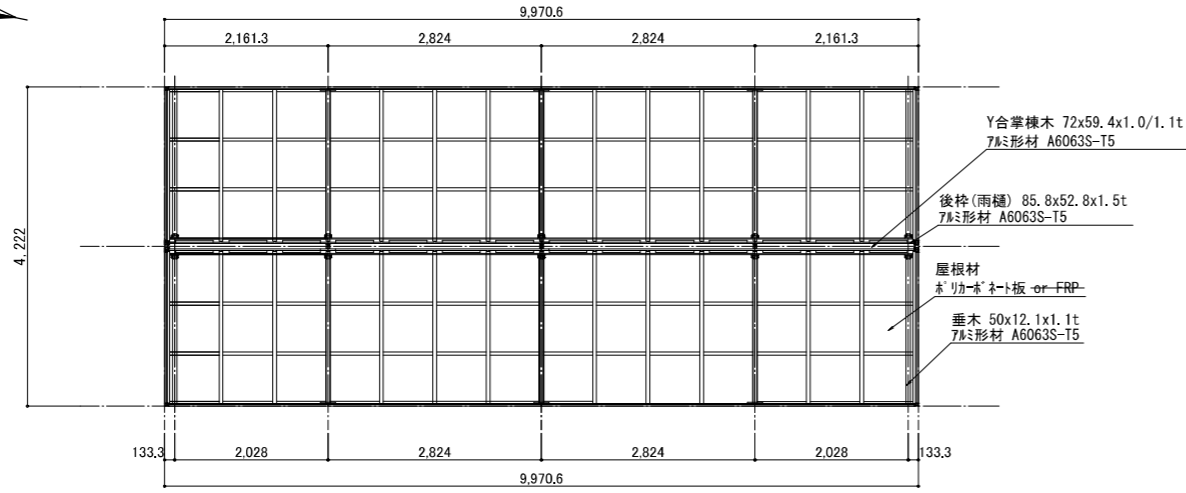
設計条件

規格	40m ³ 級 I型, II型, III型	
形状	横置ボックスカルバート型	
認定番号	耐-00040号	
設計荷重	I型	10.0 kN/m ²
	II型	T-200
	III型	T-250
土被り	I型	0.0 m~1.2 m
	II型	0.2 m~1.0 m
	III型	0.2 m~0.8 m
設計震度	水平	kh=0.288
	鉛直	Kv=±0.144
水平土圧係数	常時	0.500
	地震時	Kv=+0.144 Kv=-0.144
単位体積質量	土	17.70 kN/m ³
	鉄筋コンクリート	24.50 kN/m ³
コンクリート	設計基準強度	35.00 N/mm ²
	許容圧縮応力度	12.00 N/mm ²
	許容せん断応力度	0.50 N/mm ²
	許容付着応力度	1.90 N/mm ²
鉄筋許容引張応力度	120 N/mm ²	

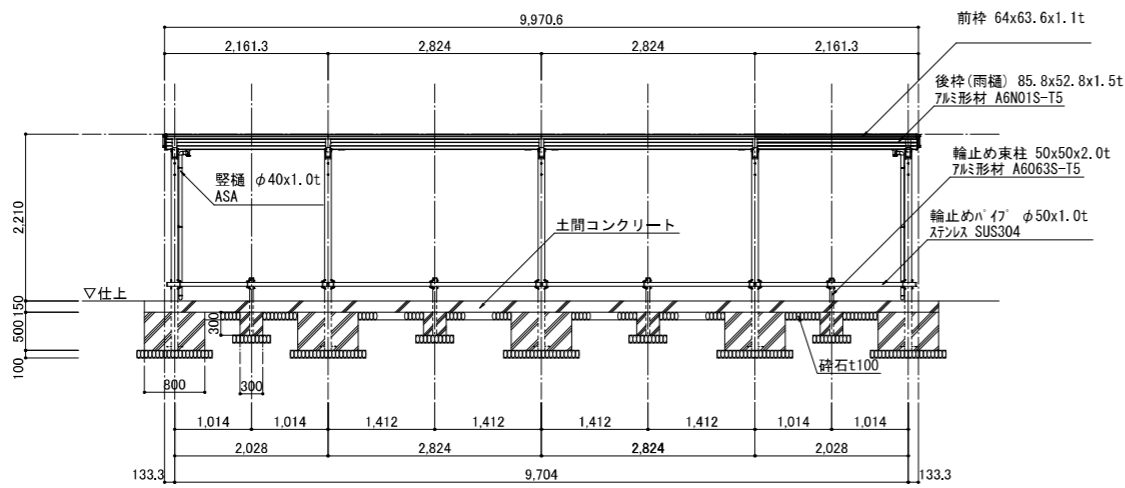
注) 土被りが0.0mの場合は、マンホールを頂版に埋め込むことも出来ます。

材料表

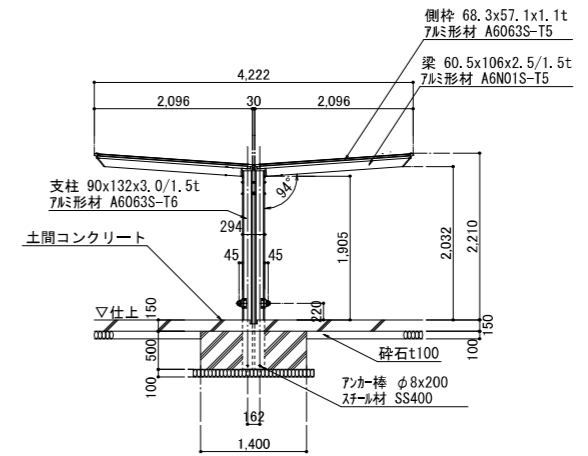
種別	単位	数量	
基礎材料	基礎コンクリート	m ³	4.867
	基礎砕石	m ³	25.920
	基礎型枠	m ²	14.460
	敷モルタル	m ²	0.461
コンクリートブロック	A ブロック	kg	9960×2
	B1 ブロック	kg	10645
	B2 ブロック	kg	10645
	C ブロック	kg	10033
マンホール蓋	調整ブロック	個	2
	マンホール蓋	個	2
防水材料	内面防水剤	m ²	95.8
	防水内目地	m	38.9
	シール材 (内)	m	42.8
	シール材 (外)	m	46.8
PC材料	PC鋼より線 φ15.2mm	m	30.0
	グリップ・定着版	組	8
施工重機	50t吊り	日	1.0



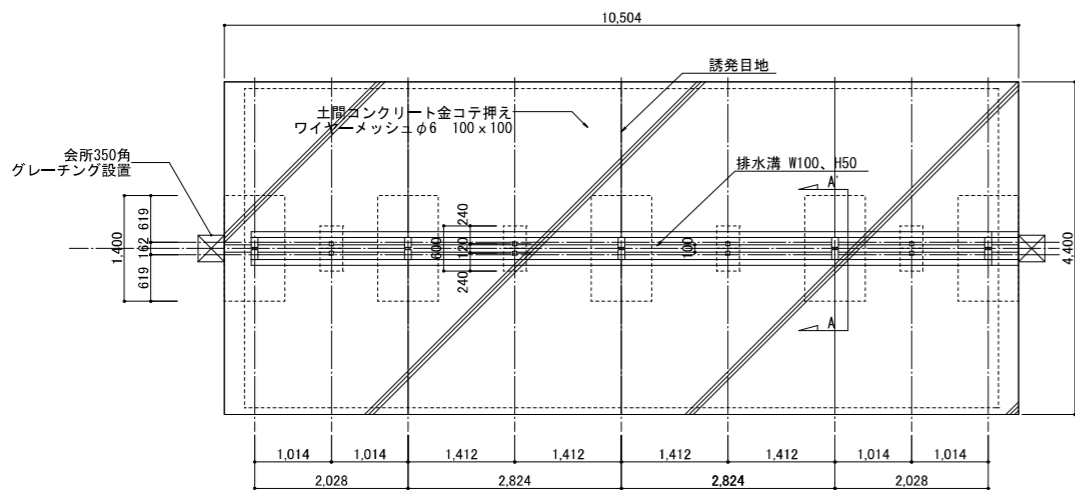
屋根伏図



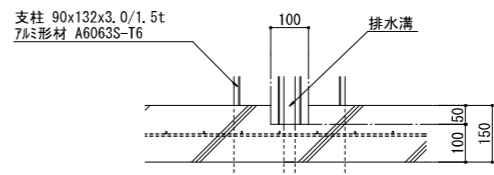
立面図



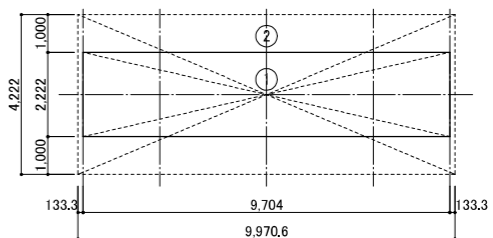
側面図



平面図



A-A'断面詳細図 1/10



求積図 1/100

主要部材寸法表

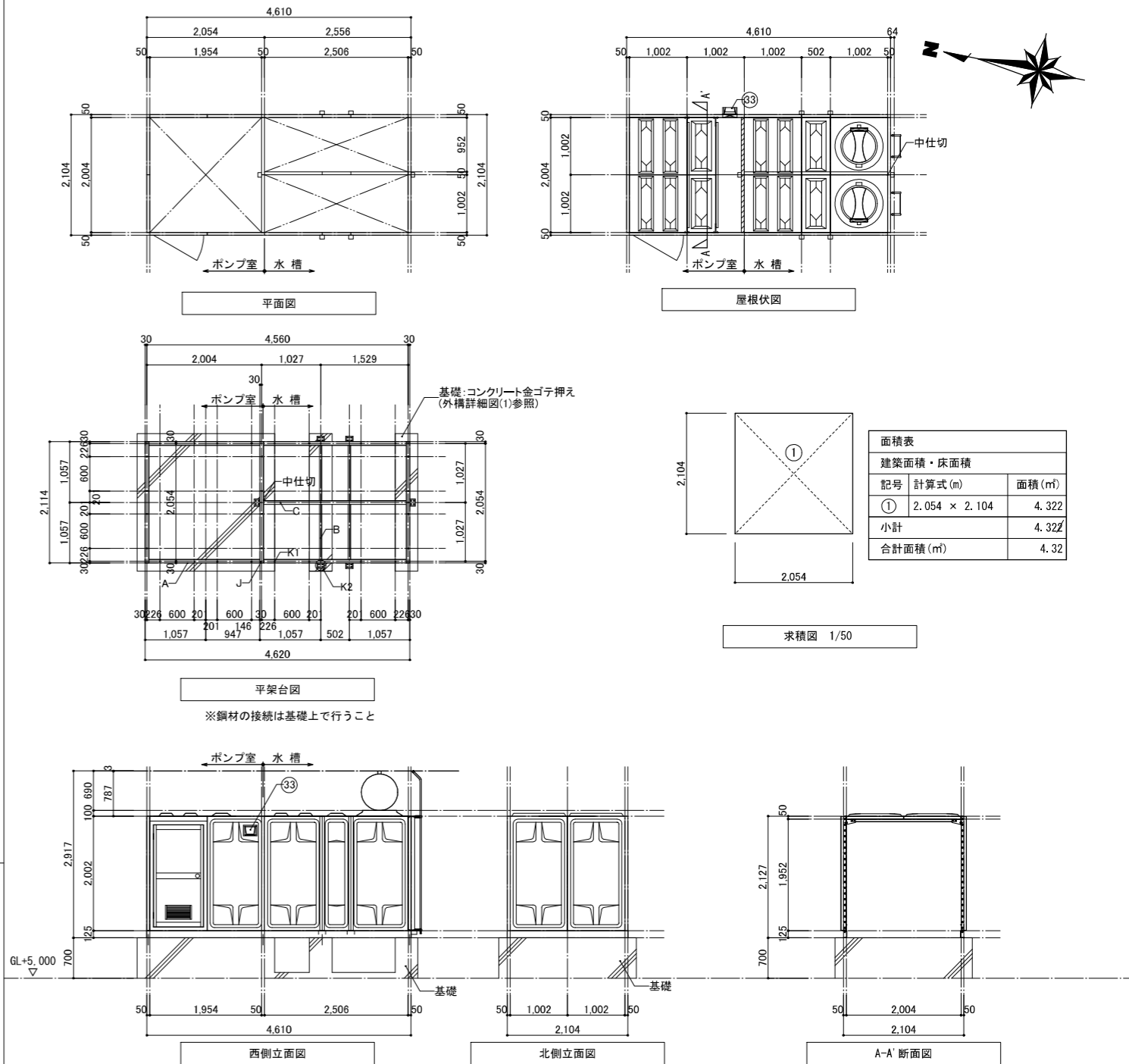
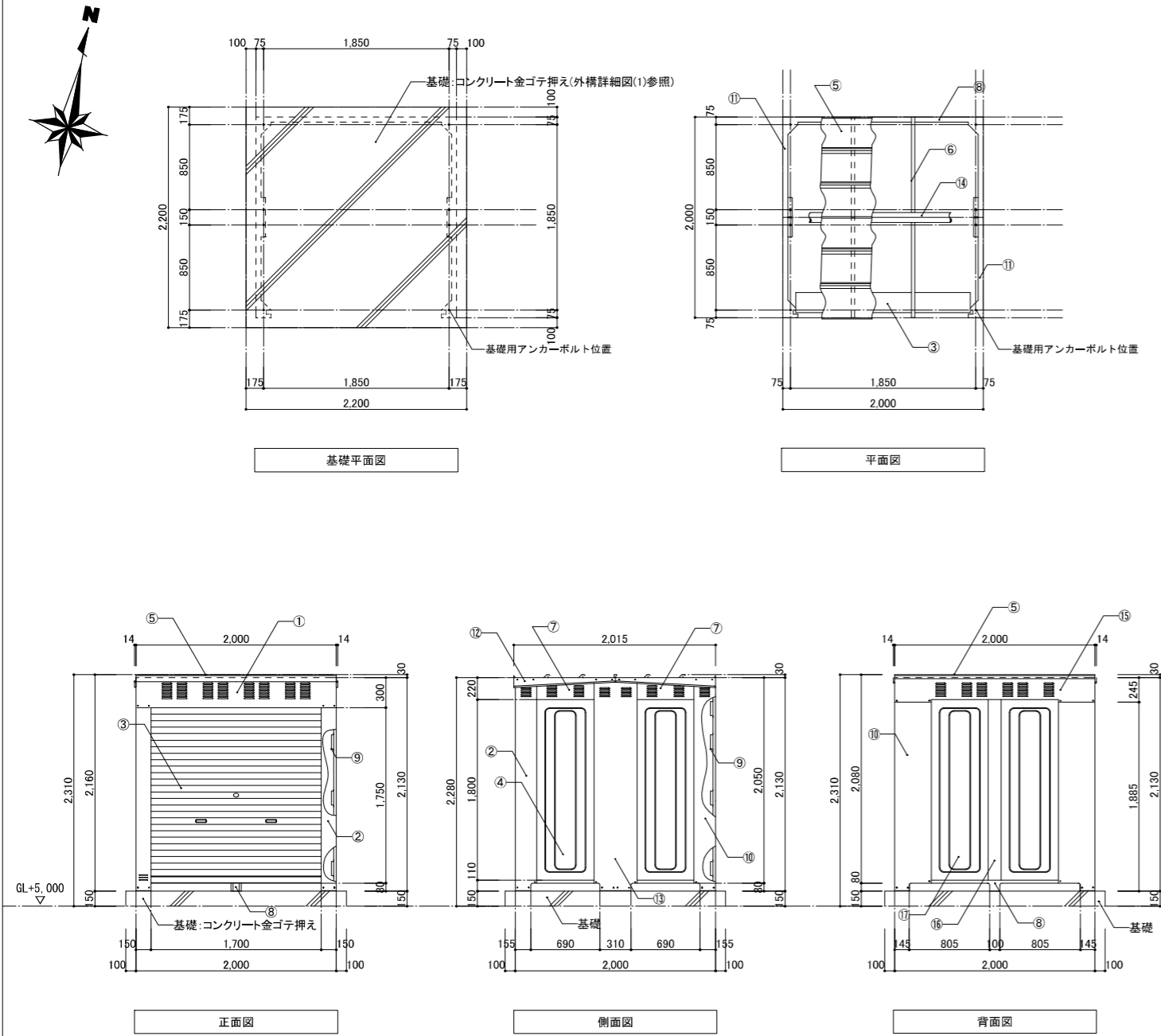
部材名	外径x厚さ	材質	表面処理
支柱	90x132x3.0/1.5t	7ö形材 JIS H4100 A6063S-T6	陽極酸化塗装複合皮膜
梁	60.5x106x2.5/1.5t	7ö形材 JIS H4100 A6N01S-T5	
母屋	37.5x50.3x2.6/2.1t	7ö形材 JIS H4100 A6063S-T5	
垂木	50x12.1x1.1t		
前枠	64x63.6x1.1t		
後枠(雨樋)	85.8x52.8x1.5t		
側枠	68.3x57.1x1.1t		
屋根材	1.8t	ポリカーボネート板 (防火認定: DW-0022, DW-0029)	—
	2.0t	熱線吸収ポリカーボネート板	
		熱線遮断FRP (DR認定品)	

(寸法単位:mm)

数量	1	備考
シリーズ	AS-D 連続イブ(Y合掌)同等品	
色仕上	本体	規格色
	屋根パネル	規格色

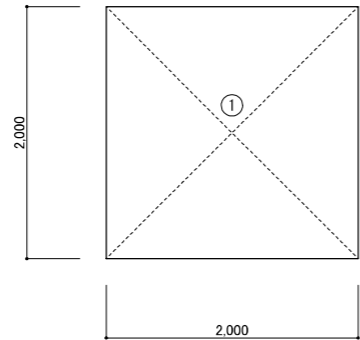
※国土交通省告示408、409、410号

面積表			
建築面積	床面積		
記号 計算式(m)	面積(m ²)	記号 計算式(m)	面積(m ²)
① 9.704 × 2.222	21.562	② 9.971 × 4.222	42.098
小計	21.562	小計	42.098
合計面積(m ²)	21.56	合計面積(m ²)	42.09



部材表(株式会社ホクエイ: BN-800D 同等品)

番号	品名	個数	材質
①	前梁	1	めっき鋼板
②	前柱	右1左1	めっき鋼板
③	シャッター	1	めっき鋼板 t0.4
④	側パネル	4	高耐食めっき鋼板
⑤	屋根	前1中2後1	高耐食めっき鋼板
⑥	繋ぎ屋根	前1後1	高耐食めっき鋼板
⑦	母屋	4	めっき鋼板
⑧	側梁	4	めっき鋼板
⑨	後土台	1	高耐食めっき鋼板
⑩	横棧	側1後4	めっき鋼板
⑪	後柱	右1左1	めっき鋼板
⑫	左右土台	4	高耐食めっき鋼板
⑬	屋根受け雨樋	右2左2	高耐食めっき鋼板
⑭	前後繋柱	右1左1	めっき鋼板
⑮	前後繋梁	1	めっき鋼板
⑯	後梁	1	めっき鋼板
⑰	後パネル柱	1	めっき鋼板
⑱	後パネル	2	高耐食めっき鋼板



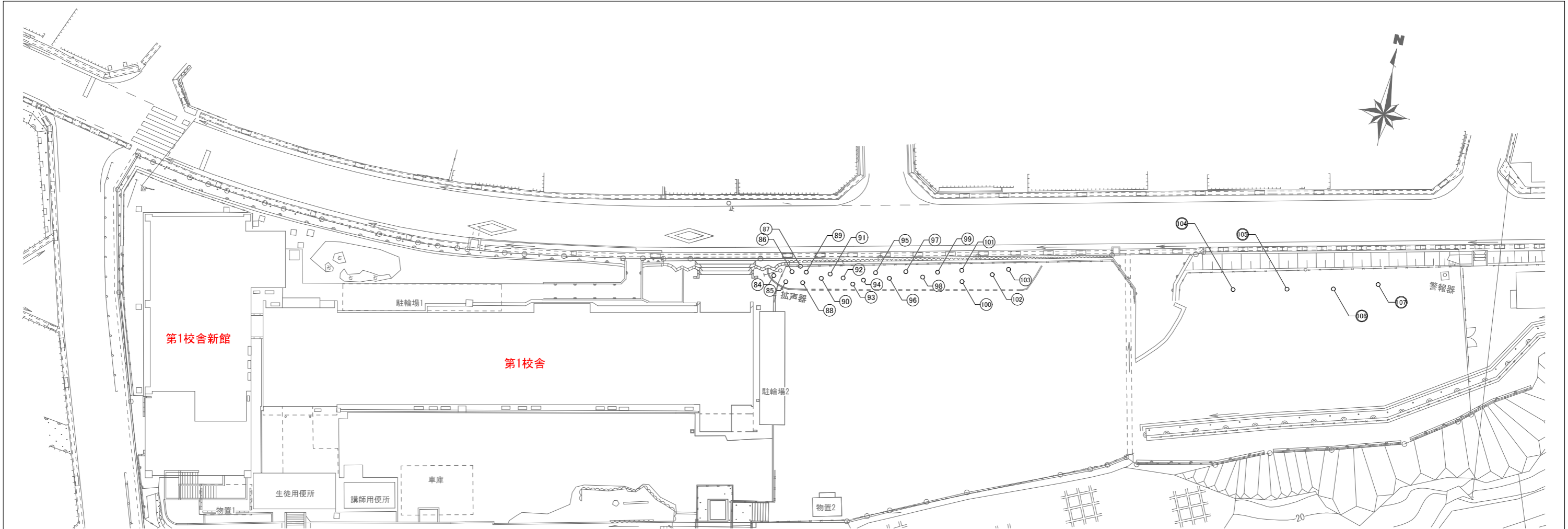
面積表

建築面積・床面積		
記号	計算式(m)	面積(m ²)
①	2.000 × 2.000	4.000
小計		4.000
合計面積(m ²)		4.00

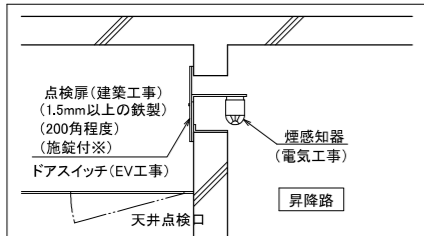
(積水アクアシステム株式会社: ポルト組立形ステンレスパネルタンクPSBH-10-10NP[2.0x2.5x2.0H] 同等品)

構成部材表						架台部材表	
品番	名称	材質	寸法	数量	備考	番号	備考
①	本体	SUS444 SUS329		1		A	[-125x65x6x8
②	マンホール	SUS329	Φ600	2	密閉式 内蓋付	B	[-75x40x5x7
③	内はしご	PVC	W300xP300	2		C	[-125x65x6x8
④	外はしご	STK	W375xP300	2	溶融亜鉛メッキ	K1	28-Φ14ﾀﾝｸ掘付ｽﾄﾙ孔(+指示M12)
⑤	電極座	PVC	50A	-	PF2内ネジ	K2	24-Φ16ﾌﾟﾚｰﾑ取付ｽﾄﾙ孔(+指示M12)
⑥	通気口	ABS		-	防虫網付き	K3	
⑦	ポールタップロ			-		J	11-Φ157ﾌﾞﾗｯｸｽﾄﾙ孔(+指示M12×145L 接着系SUS)
⑧	流入口			-			
⑨	出水口			-			
⑩	オーバーフロー			-			
⑪	排水口			-			
⑫	ポンプ室	SUS	W2.0xL2.0	1	単板形		
⑬	アルミドア	AL		1	ドアノブ型式: 軸コイル製G-5 N		
⑭	ガラリ	AL	150x200	1	ウェザーカバー付		

■ 建築基準法施行令改正 耐震基準適合
 ■ 国土交通省告示第243号適合
 ■ 水道法・食品衛生法・薬類増殖防止技術指針適合
 ■ 低水位運転時には内部金具腐食の恐れがあります
 ■ 組立ボルト: SUS仕様、気相部ブラケット仕様
 ■ 架台: 溶融亜鉛メッキ仕様「HDZT49」
 ※天板保温仕様
 ※タンク組立において作業床が2m以上となる場合は足場の安全対策をお願いします。
 ※満水位が側壁上端より0.5m以下の水位でのご使用の場合には、別途対策が必要となります。

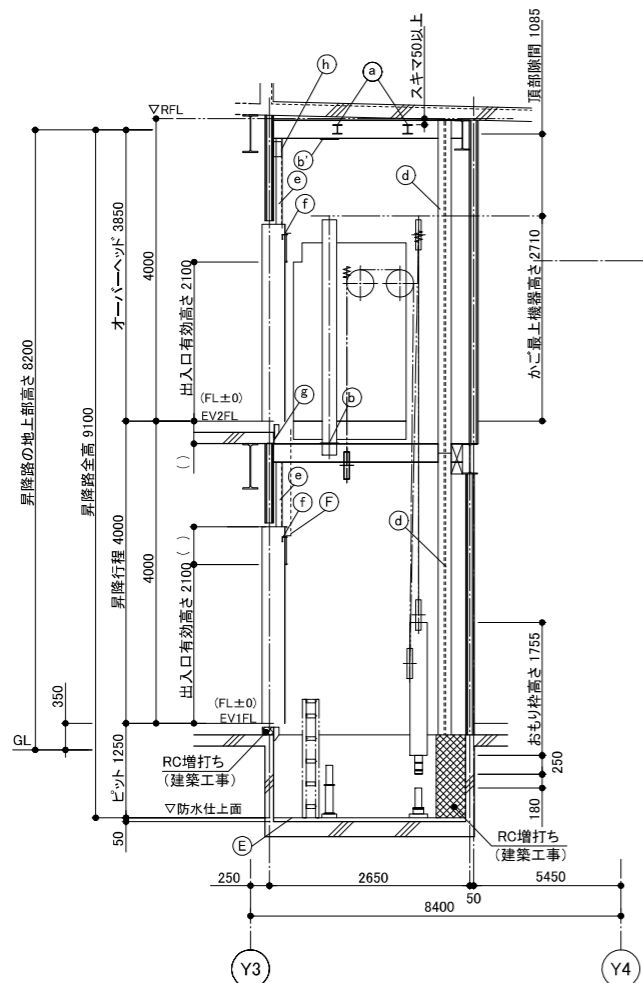


号	幹の直径 (C)	枝張 (W)	高さ (H)	樹種	本数	撤去
84	0.1m	1m	1.6m	不明	1本	撤去(伐根)
85	0.3m	3m	5m	不明	1本	撤去(伐根)
86	0.3m	4m	6m	マツ	1本	撤去(伐根)
87	0.05m	0.6m	1.1m	不明	1本	撤去(伐根)
88	0.2m	2m	1.3m	不明(低木密集)	1㎡	撤去(伐根)
89	0.3m	1.6m	1.6m	不明	1本	撤去(伐根)
90	0.3m	2m	1.6m	不明	1本	撤去(伐根)
91	0.3m	4m	4m	サクラ	1本	撤去(伐根)
92	0.3m	2m	1.6m	不明	1本	撤去(伐根)
93	0.15m	1.2m	1.2m	不明(低木密集)	0.5㎡	撤去(伐根)
94	0.5m	1.2m	1.3m	不明	1本	撤去(伐根)
95	0.5m	5m	5m	サクラ	1本	撤去(伐根)
96	0.5m	2m	1.7m	不明	1本	撤去(伐根)
97	0.3m	2m	4m	不明	1本	撤去(伐根)
98	0.3m	2m	1.8m	不明	1本	撤去(伐根)
99	0.3m	2m	4m	不明	1本	撤去(伐根)
100	0.15m	1.2m	1.4m	不明	1本	撤去(伐根)
101	0.3m	1m	1.6m	不明	1本	撤去(伐根)
102	0.6m	5m	4m	サクラ	1本	撤去(伐根)
103	0.6m	5m	4m	不明	1本	撤去(伐根)
104	0.2m	3m	4m	不明	1本	保存
105	0.2m	3m	4m	不明	1本	保存
106	0.2m	3m	4m	不明	1本	保存
107	0.2m	3m	4m	不明	1本	保存



昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能なよう施工願います。(建築工事)
点検口の位置は、塔内機器と干渉する恐れがあるため、事前にご相談下さい。
※施設は、緩めるのに工具が必要なネジで代用可。

煙感知器の施工例(屋内用)



昇降路断面図

基本仕様
最寄階救出運転
戸開き不能時救出運転
乗り過ぎ検出(警報ブザー及び音声案内)
各階強制停止運転(各停運転)
昇降機耐震設計・施工指針(2016年版)対応
戸開走行保護装置
イオンフル(プラズマクラスター技術搭載/シャープ(株)商標)
耐震クラス(A14)

エコロジー機能
かご天井 LED照明(液晶インジケータのバックライトもLED化)
シックハウス対策(法令(建基)に基づいたシックハウス対策に対応)
かご照明の自動休止

NEWゴールドメンテナンス契約により有効となる機能
地震管制後の自動診断・仮復旧運転
メンテナンス用カメラによる、遠隔映像監視・遠隔閉込救出対応
24時間リモート点検
聴覚障がい者仕様: 応答液晶表示(仕様が付加された場合、契約に関わらず有効)
情報モニター: コンテンツの配信及び表示(モニター本体の有無は仕様による)

車いす仕様	※車いす仕様が付加されたエレベータのみ
乗場	車いす専用乗場ボタン
かご内室	車いす専用かご主制御盤(主側のみインジケータ付)
	鏡
	手すり
セーフティ機能	戸開放時間の延長
	戸閉速度の低減
	自動着床修正装置
	光電式多光軸ドアセンサー

※1 4輪手押し台車等で荷物を積み込む場合は、台車の重量を含んで、荷重条件以下に分けて積み込みください。
※2 特定防火設備の区画では、防火窓付の扉は設置出来ませんのでご注意下さい。

下記作業については、別途見積りとなります
夜間作業
部分営業中現場への搬入に際し、警備員・誘導員及び道路使用許可を必要とする場合
2階以上の階もしくは地階からの搬入作業
荷下ろし場所から設置・仮置き場所までの距離が30mを超える場合
据付工事短縮を必要とする場合
エレベータを工事用として使用する場合は検査・清掃・復旧・補修・保守費用
エレベータ据付工事以外で立会いが発生する場合
展望用エレベータ等で昇降路を養生する必要がある場合
床・壁等に養生を必要とする場合
エレベータ着工前までの出入口開口部の養生材及び養生材設置工事
その他特殊な事情がある場合

a	20kN 吊りビーム	(建築工事)
b	PL-12t	(建築工事)
d	H-175×175×7.5×11	(建築工事)
e	L-75×75×6	(建築工事)
f	L-65×65×6	(建築工事)
g	L-90×90×7	(建築工事)
h	煙感知器	(電気工事)
E	タラップ	(EV工事)
F	フェッシャープレート	(EV工事)

エレベータ除外工事

建築工事関係除外工事

- 昇降路の築造工事。
(コンクリート打ち誤差により必要となるはつりまたは肉付け工事)
・昇降路のコンクリート強度は 21N/mm²(FC21)以上。
・昇降路のコンクリート壁厚は 150mm 以上。
・昇降路の壁(囲い)は、5cmの任意の面に直角方向の外力(300N)が作用しても15mmを超える変形及び塑性変形を生じない構造とする。
- 各階出入口(インジケータ、押釦用孔含む)の孔あけ工事。
- 各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め もしくはロックウール詰め工事。
- 乗場据付後の出入口廻りの壁・床及び建築物補修工事。
- 屋上・開放廊下等直接外気と接する乗場における雨水よけ設備工事。
(排水口・水勾配・庇など)
- ビット内防水工事、およびビットが深い場合の埋戻し工事。
(エレベータ工事の着工前に完了のこと)
・防水厚は 25mm 以下。
- 昇降路頂部の荷吊り用ビーム(20kN)設置工事。
- 鉄骨構造の昇降路に於ける鉄骨材の耐火処理工事及び耐火材の飛散防止処理工事。
- レール支持用(立柱、ファスナプレート)の設置工事。
- 数居受材設置工事。

設備工事関係除外工事

- エレベータ受電箱までの動力電源・照明電源・接地線の引込み、並びにつなぎ込み工事。
- 昇降路外のインターホン・非常ベル、その他エレベータに必要な配管配線工事。
- ビット点検用コンセント設置工事。
- 昇降路頂部の煙感知器設置工事。(昇降路頂部より点検が可能工事)
- エレベータ遠隔監視用電話線(電話中継器から監視ユニット設置場所までの配管配線工事)。

注意事項

- 昇降路内に他の用途の配管、ダクトを設けないように願います。昇降機に必要な配管設備にあつては、昇降機の機能に支障無きよう願います。また、昇降路壁にはエレベータ以外の電気・水道等の配管・器具類を埋め込まないで下さい。
- エレベータ受電端における電源電圧の変動は±5%以内、照明用は±2%以内、電圧不平衡率は5%以内に保つよう電源を設置下さい。
- 昇降路内温度は40℃、湿度は月平均90%・日平均95%を超えないようにして下さい。
- 昇降路には有毒ガスや甚だしい塵埃等が入らないようにして下さい。
- 昇降路および出入口は風雨に直接さらされたり、塩分の影響を受けないようにして下さい。
- エレベータ機器の搬入に支障のない経路を確保願います。(必要に応じてコンクリート孔あけ、および埋戻し工事)
- 据付工事用仮設電源、試運転用電力、砂、セメント、水等は無償供給願います。
- 工事現場におけるエレベータ部品、据付材料の保管場所を無償貸与願います。



タッチレスでエレベータを操作する装置
納入仕様 ■含む □含まず

仕様一覧

号機	---		
用途	乗用(車いす仕様)		
機種	XIOR (エクシオール/機械室レス)XIO2		
制御方式	インバータ制御方式		
運転操作方式	乗合全自動方式		
積載	750 kg	11 名	
速度	45 m/min		
動力用電源	三相3線 210 V	60 Hz	
照明用電源	単相 100 V	60 Hz	
巻上電動機	3.5 kW		
停止階及び数	(正面) 1.2 階	2 箇所	
	(背面) 階	箇所	
かご内法	(間口) 1400 mm (奥行) 1350 mm (高さ) 2300 mm		
出入口寸法	(間口) 800 mm (高さ) 2100 mm		
戸の方式	2枚 両引き(電動式)		
おもり	50	%バランス	
荷重条件 ※1	250	kg以下	

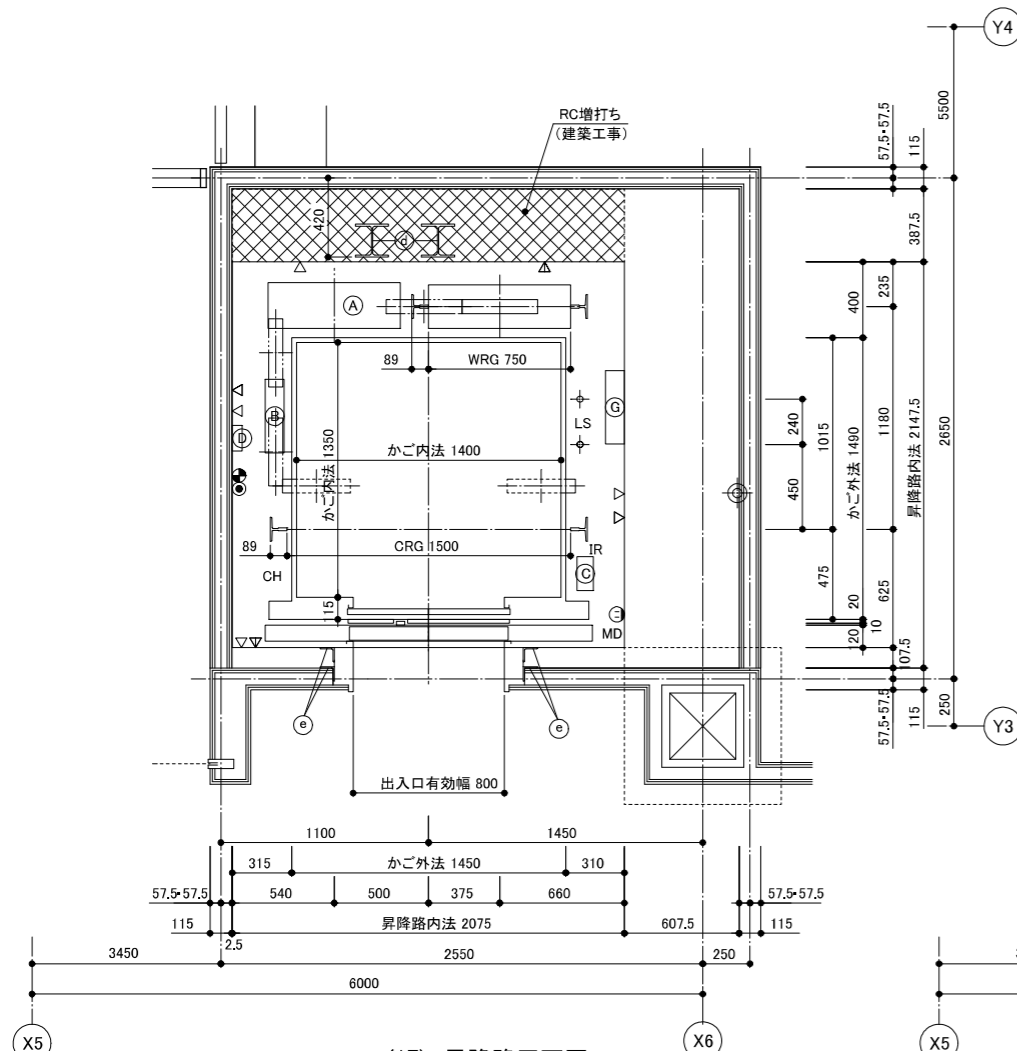
管制	地震時管制運転	●: (P・S波)リスタート運転機能付
	火災時管制運転	●
	停電時自動着床	●
	冠水時管制運転	●
運転	自家発時管制運転	-
	緊急地震速報運動	-
	長周期地震時管制運転	-
セーフティ機能	カードポケットセンサー	●
	ドアニク	●: (光電式)
	光電式多光軸ドアセンサー	●
	ドアエッジセンサー	-
	ドアウインカー	-
ユニバーサル対応	車いす仕様	●
	音声案内装置(かご内設置)	●: 四ヶ国語対応(通常時: 日英、緊急時: 日英中韓)
	視覚障がい者仕様(点字)	●
	聴覚障がい者仕様	●
	(応答灯付インターホン呼びボタン)	●
	発音機能付タクトイルボタン	●
	走行お知らせ音	-
	敷居隙間 10mm	●

乗場	三方枠	全開	大枠 ステンレスバイプレッション仕上
	幕板	全開	化粧鋼板(扉面一)
か	扉	全開	化粧鋼板
	遮煙乗場ドア		-
乗場意匠機器	防犯窓 ※2		-
	数居	全開	硬質アルミ製
表示機器	表示機器	全開	デジタル表示/押ボタン組込
	押ボタン	全開	35φ抗菌樹脂ボタン/非接触呼登録(一体型)
フェースプレート	全開	ステンレスヘアライン仕上	

か	天井	スタンダードタイプ	
	袖壁	ステンレスバイプレッション仕上(入口柱一体)	
	入口柱	-	
	側壁	化粧鋼板	
	幕板	化粧鋼板	
	扉	化粧鋼板	
	幅木	アルミアルマイト仕上	
	床	t=2.0 ビニルタイル	
	敷居	硬質アルミ製	
	換気装置	クロスフローファン	
	主操作盤	表示機器	液晶表示/操作盤組込
		押ボタン	35φ抗菌樹脂ボタン/非接触呼登録(一体型)
フェースプレート		ステンレスバイプレッション仕上	
手すり		32φ ステンレスヘアライン仕上(端部亜鉛ダイカスト製)	
鏡	標準ステンレス鏡(周囲ビス止め)		
ガード	ステンレスヘアライン仕上(H=300)		
保護幕	●: 標準品(取付: 磁石式)		
床マット	●		
ITVカメラ	●: メンテナンス用のみ		

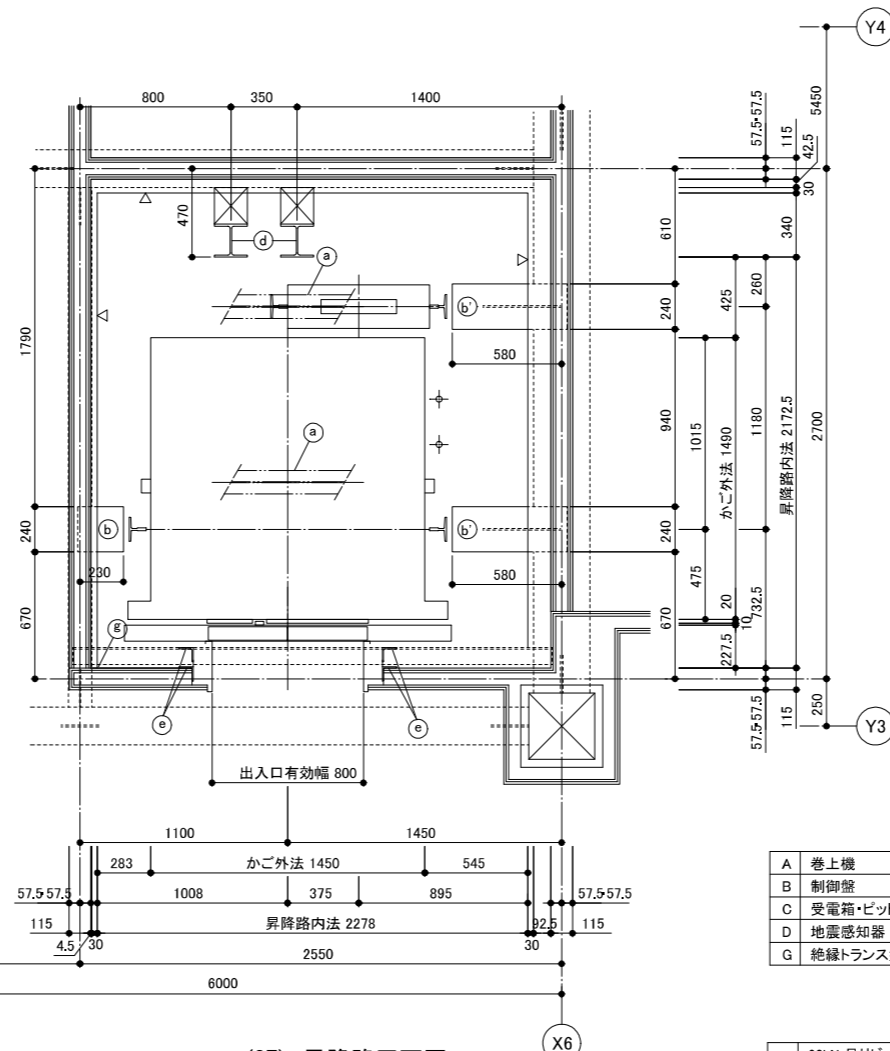
特記仕様	AirTap 非接触ボタン(一般用主操作盤、車いす用操作盤、インジケータ押ボタン)
	抗菌仕様ボタン(乗場/かご)
	絶縁トランス盤
	回生システム
	かごドア面側セーフティ付
先行階キャンセル機能	
放送用スピーカー	-
監視盤	-

高調波対策	(1)標準対策	●
【EMIフィルタ 零相リアクトル】	【回路分類No.31 6パルス換算係数Ki=3.4】	
(2)オプション対策	●	
【(1)+ DCリアクトル】	【回路分類No.33 6パルス換算係数Ki=1.8】	



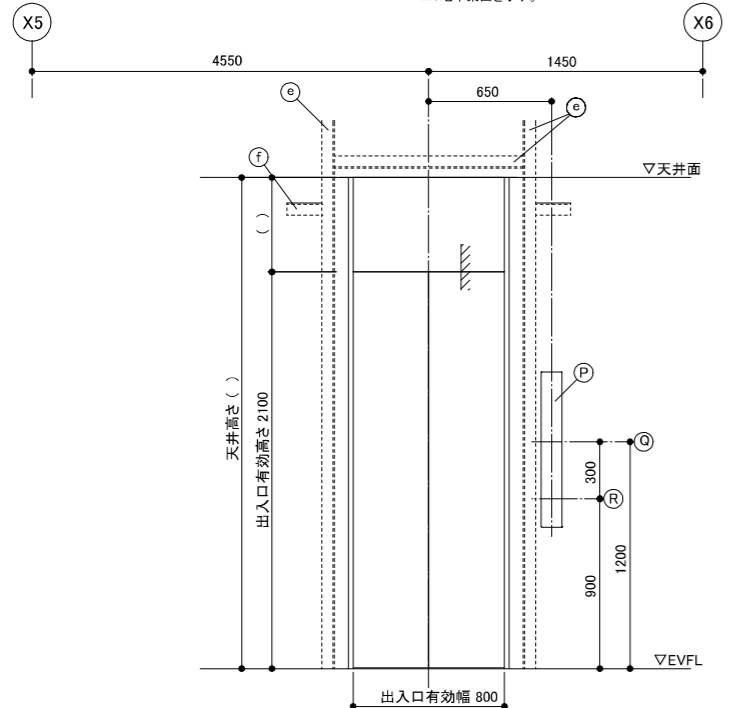
(1F) 昇降路平面図

注:ピット内は、塗膜防水仕上願います。
 △:防水仕上面を示す。
 ▲:地中梁面を示す。

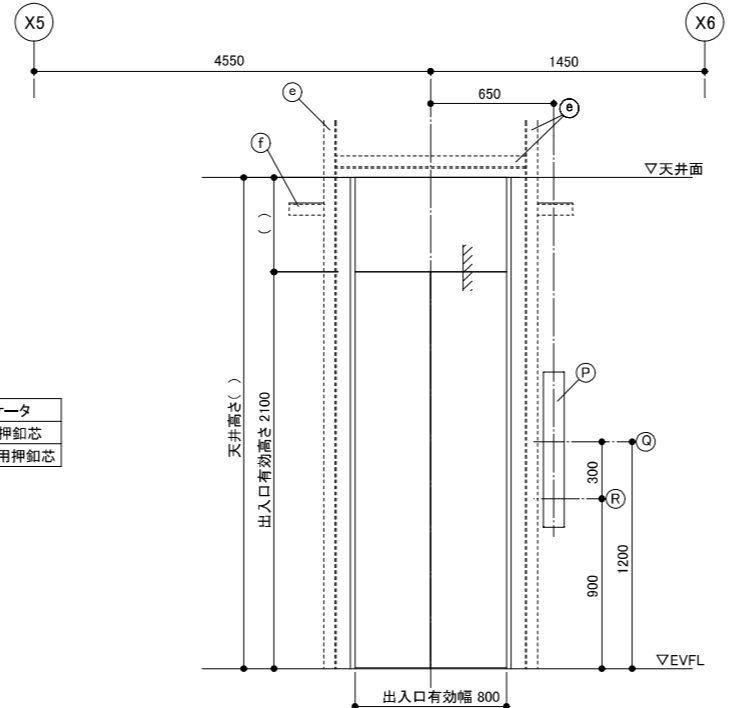


(2F) 昇降路平面図

△:耐火被覆面を示す。(t=30)



(1F) 出入口正面図

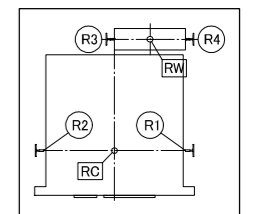


(2F) 出入口正面図

P	インジケータ
Q	一般用押釦芯
R	車いす用押釦芯

A	巻上機	(EV工事)
B	制御盤	(EV工事)
C	受電箱・ビットラップ	(EV工事)
D	地震感知器	(EV工事)
G	絶縁トランス盤	(EV工事)

a	20kN 吊りビーム	(建築工事)
b	PL-12t	(建築工事)
b'	PL-12t (9tリブ付)	(建築工事)
d	H-175×175×7.5×11	(建築工事)
e	L-75×75×6	(建築工事)
f	L-65×65×6	(建築工事)
g	L-90×90×7	(建築工事)



ビット部反力(kN):長期荷重

R1	R2	R3	R4
19	20	35	15

ビット床衝撃力(kN):短期荷重

RC	RW
69	60

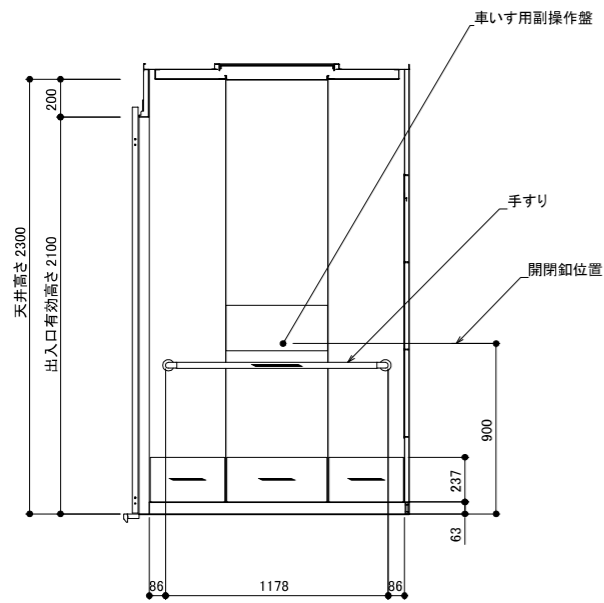
レールに作用する荷重値(kN)

Py	Px	Py
	かご	5.1
おもり		
		8.2

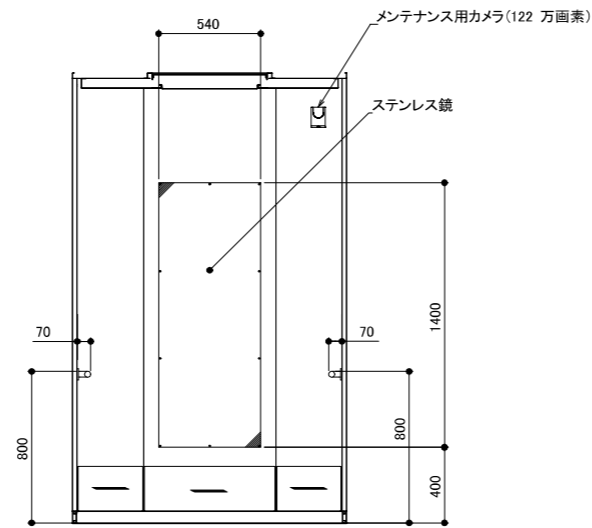
短期荷重による建築部材のたわみは5mm以下としてください

電源設備(1台当たり)【電気工事】					
記号	種別	線種等	引込み高さ	引出し線長さ	
⊕	動力用電源	3φ 3W AC 210 V 60 Hz	1FL-100	3500mm	
		幹線サイズ(mm ²)			3.5 : 5.5 : 8
		幹線こう長(m)			43 : 66 : 95
		電気室ブレーカ(A)			30
		接地線(mm ²)			2.0
		電源設備容量(kVA)			5.0
⊕	照明用電源	1φ 2W AC 100 V 60 Hz	1FL-100	3500mm	
		照明用電源容量(kVA)			1.0
⊕	ビットコンセント	AC100V 10A 1個	1FL-200		
⊕	電話回線用配線	別途打合せによる	1FL+100	4500mm	
⊕	弱電関係用配線	別途打合せによる	1FL+100	8000mm	

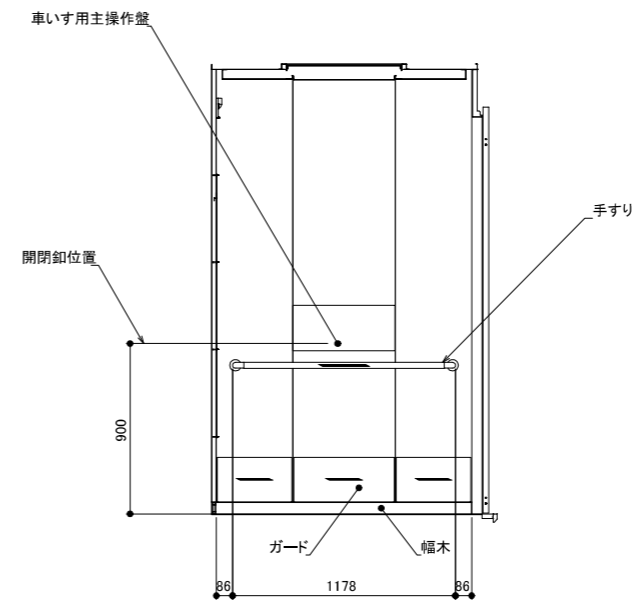
- 高調波対策
 高周波漏洩電流と高周波ノイズの影響を低減するため、できるだけ建屋側でも下記対策をお願いします。
1. 漏電遮断器等を設置する場合は「インバータ対応型」とし、感度電流値は昇降機1台あたり50mA(感度設定値100mA相当)の漏洩電流として設定下さい。
 2. 昇降機と同一電源トランスを使用している機器の漏電遮断器、漏電警報器にも「インバータ対応型」を使用して下さい。
 3. 昇降機の動力線と弱電機器の電源・信号線は、平行に配線しないで下さい。やむを得ず平行配線する場合は、1m以上離して下さい。
 4. 昇降機の電源トランスと弱電機器の電源トランスを分離して下さい。
 5. 昇降機のアース線と弱電機器のアース線は、各々独立して配線のうえ、接地下さい。(接地極は同一で構いません。)
 6. 昇降機の昇降路や動力線の近くにラジオや通信機器のアンテナを設置しないで下さい。



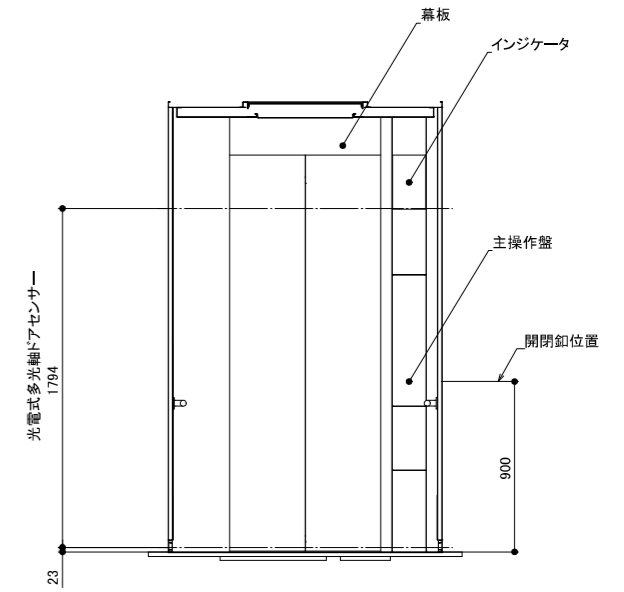
矢視 A



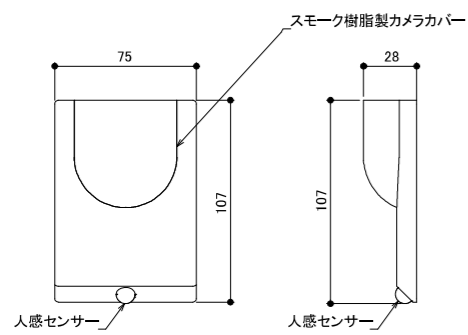
矢視 B



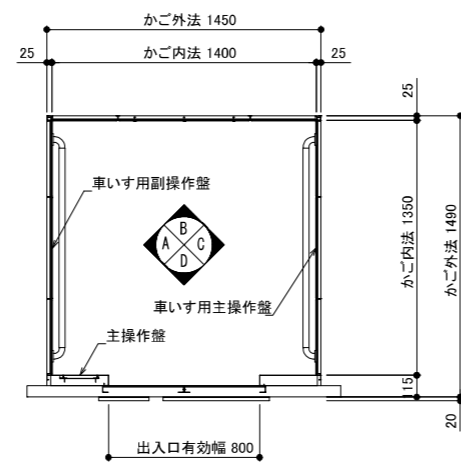
矢視 C



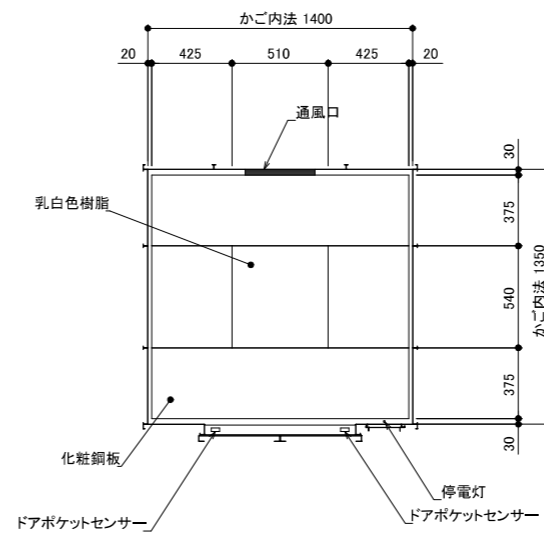
矢視 D



カメラ詳細図

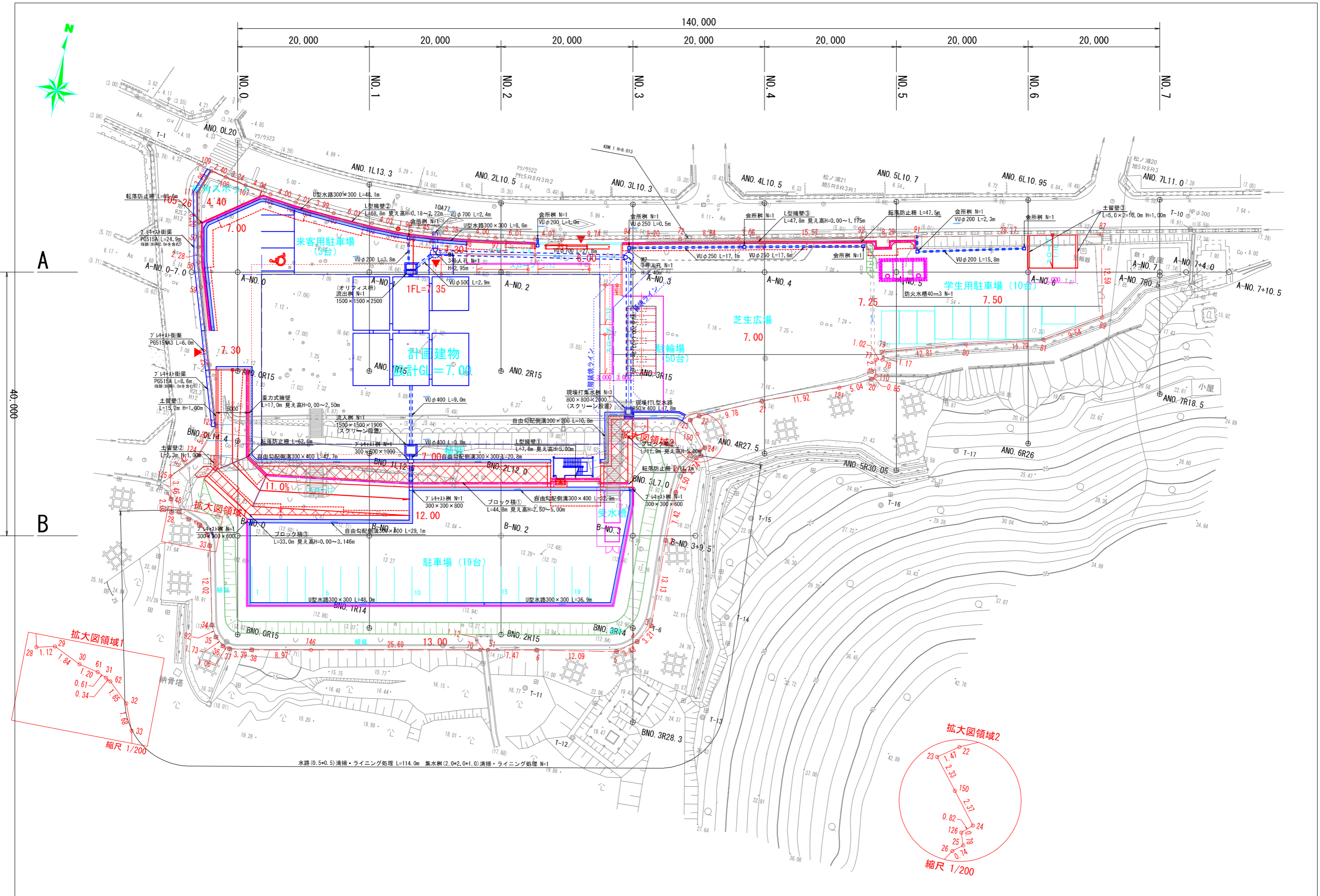


かご平面図



天井見上図

項目	意匠内容
かご内法	間口 1400 mm × 奥行 1350 mm
出入口寸法	幅 800 mm × 高さ 2100 mm
積載	積載 750 kg / 定員 11 名
側壁	化粧鋼板
幕板	化粧鋼板
扉	化粧鋼板
天井	スタンダードタイプ(SC-01)
袖壁	ステンレスパイプレーション仕上(入口柱一体)
幅木	アルミアルマイト仕上
床	t=2.0 ビニールタイル
敷居	硬質アルミ製
照明	LED照明
停電灯	LED
換気装置	クロスフローファン(イオンフル付)
手すり	32φ ステンレスヘアライン仕上 (端部: 30φ 垂鉛ダイカスト塗装仕上)
ガード	t=2.0 ステンレスヘアライン仕上
鏡	ステンレス鏡面仕上(ビス止め)
付属品	音声案内装置 放送用スピーカー ドアポケットセンサー 光電式ドアニック 光電式多光軸ドアセンサー 両側セーフティシュー 点字 保護幕(磁石式) 床マット メンテナンス用カメラ(122万画素)



相生市看護専門学校建設工事設計図

造成計画平面図

令和 6 年 1 月

SCALE S=1:250 (A1)
S=1:500 (A3)

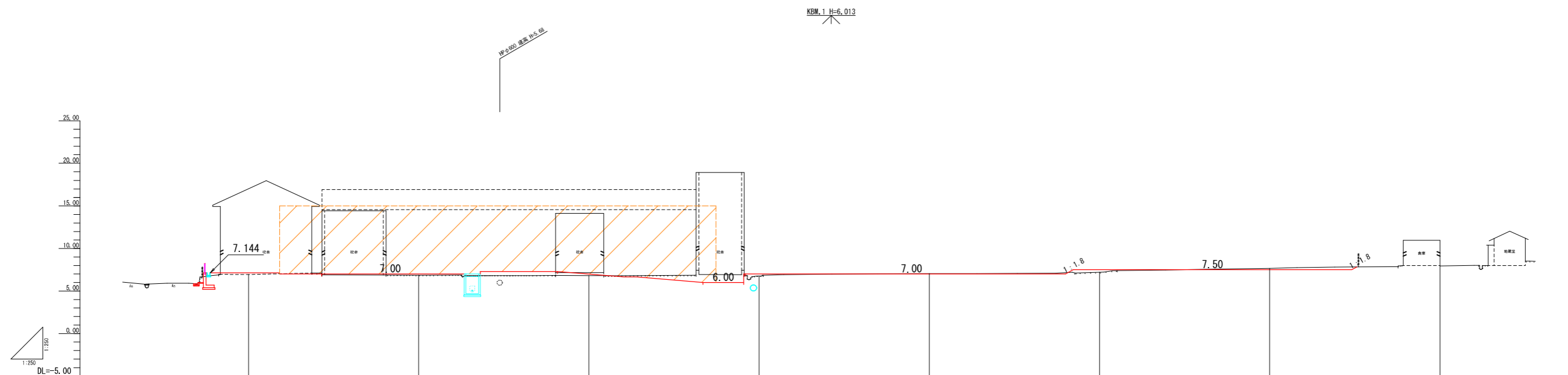
株式会社小西建築設計事務所

兵庫県小野市上木町135-10小西ビル
小西 龍樹
一級建築士登録 第81587号 構造設計一級建築士 第2702号

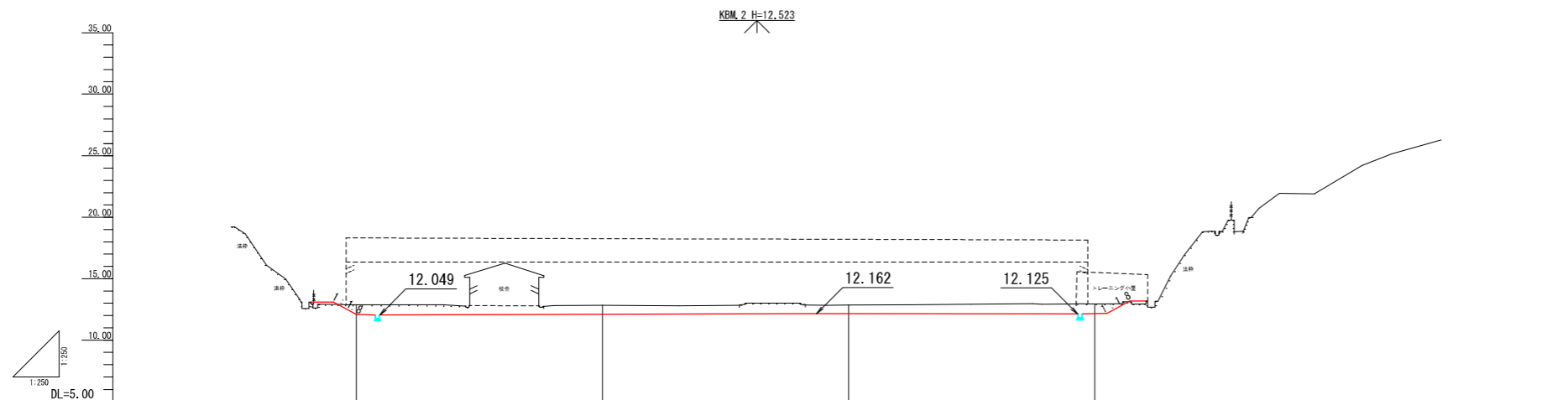
図名

図番

Z-001



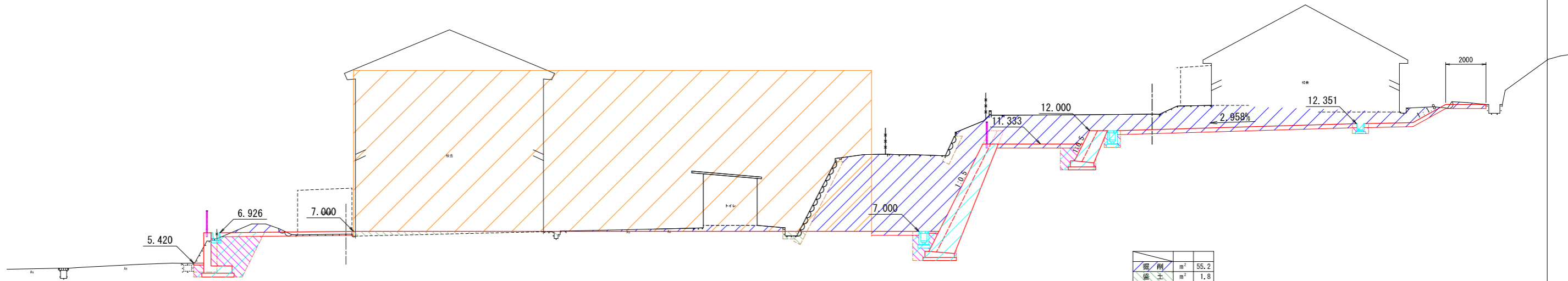
勾配								
計画高	7.143	7.000	6.992	7.000	7.000	7.500	7.500	
地盤高	6.94	6.86	6.81	6.77	7.05	7.21	7.67	7.95
追加距離	00.00	00.00	40.00	60.00	80.00	100.00	120.00	140.00
単距離	00.00	00.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
測点	No.0	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7



勾配				
計画高	12.049	12.107	12.157	12.190
地盤高	12.89	12.82	12.86	12.95
追加距離	00.00	00.00	40.00	60.00
単距離	00.00	00.00	20.00	20.00
測点	No.0	No.1	No.2	No.3

NO. 1
GH=6.86
FH=

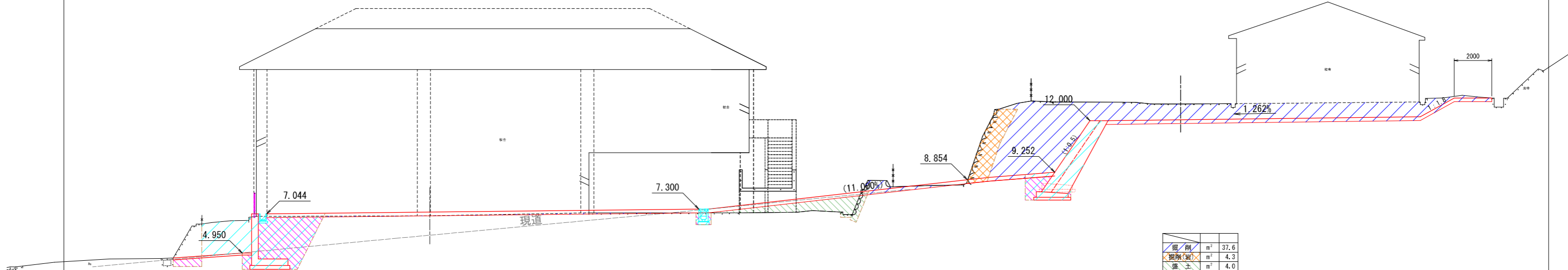
B NO. 1
GH=12.82
FH=



DL=0.00

NO. 0
GH=6.94
FH=

B NO. 0
GH=12.89
FH=



DL=0.00

※周辺地域において過去に工事中の落石による被害が発生した経緯があることから、岩掘削等の施工時は注意すること。

相生市看護専門学校建設工事設計図

横断面図 (NO.0 - NO.1)

時期 令和 6 年 1 月

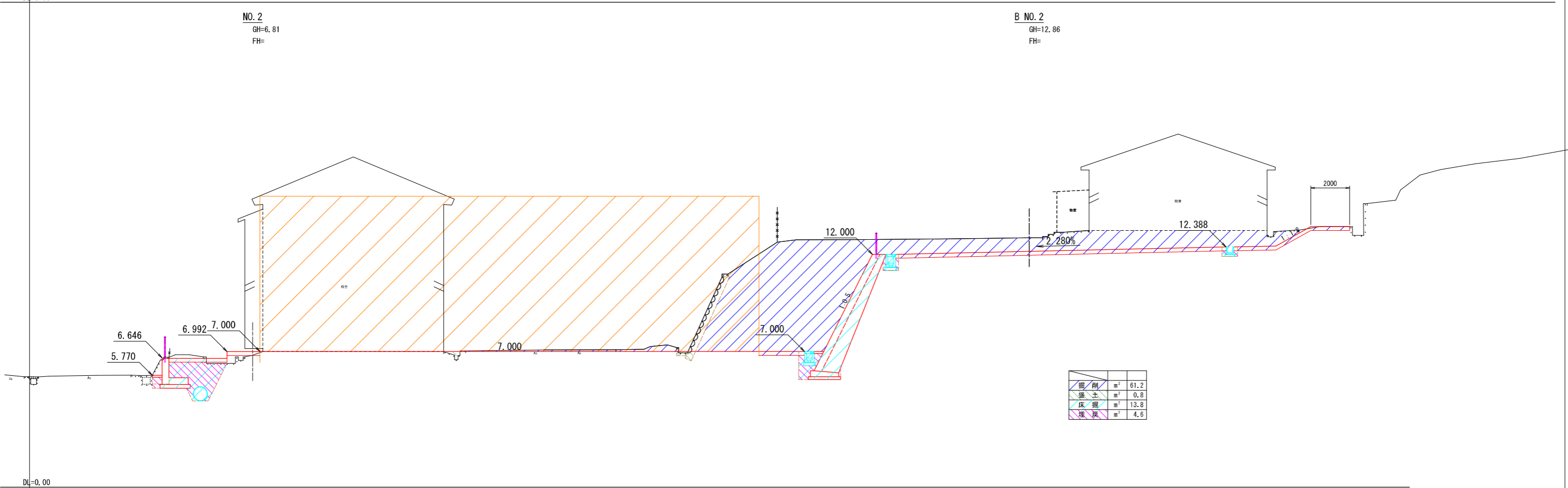
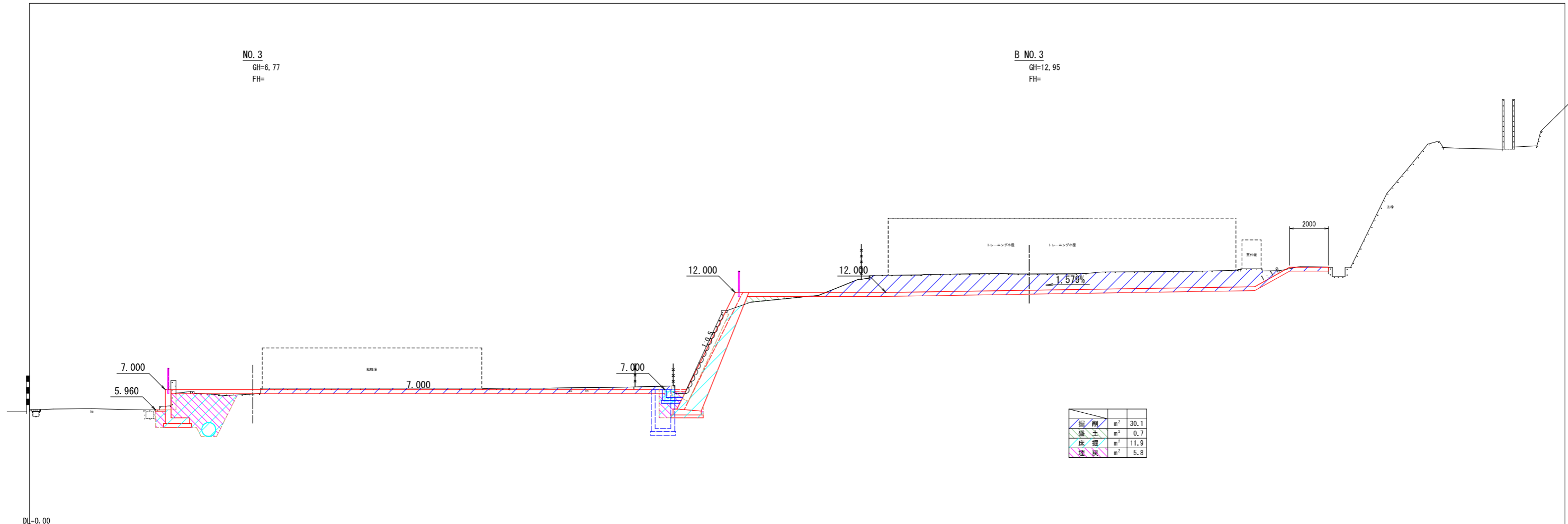
SCALE S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

株式会社 小西建築設計事務所

一級建築士事務所
兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
一級建築士登録 第81587号 構造設計一級建築士 第2702号

FIG. No.

FIG. No. Z-004



相生市看護専門学校建設工事設計図

横断面図 (NO.2 - NO.3)

令和 6 年 1 月

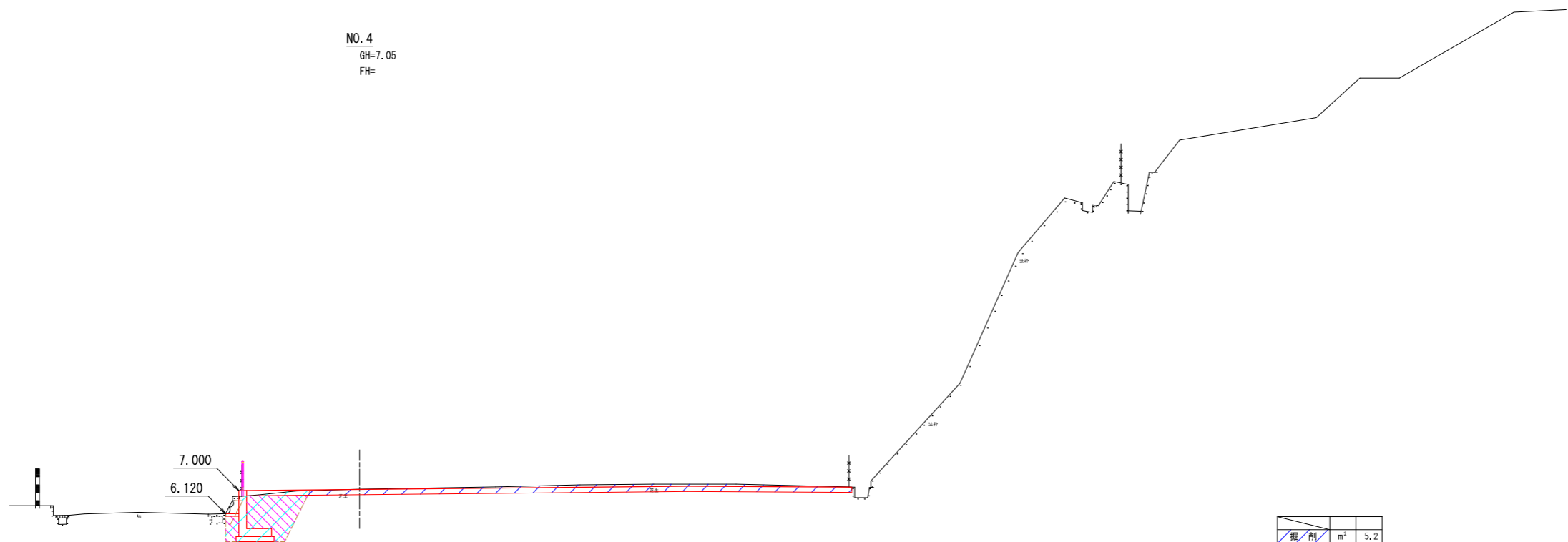
SCALE S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

株式会社 小西建築設計事務所

兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
一級建築士登録 第81587号 構造設計一級建築士 第2702号

FIG. No.

Z-005

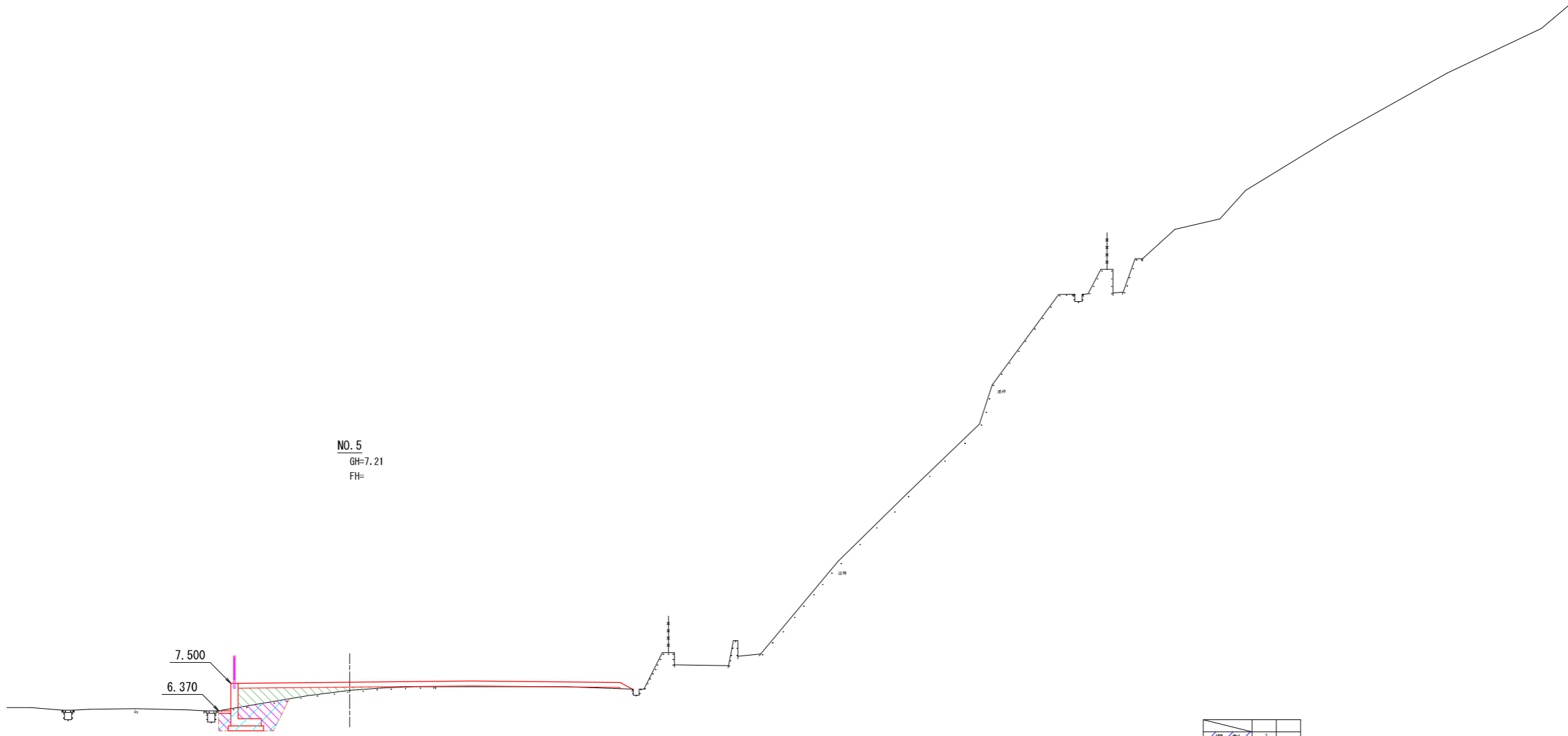


NO. 4
GH=7.05
FH=

7.000
6.120

DL=0.00

掘削	m ²	5.2
盛土	m ²	-
床掘	m ²	4.5
埋戻	m ²	3.3

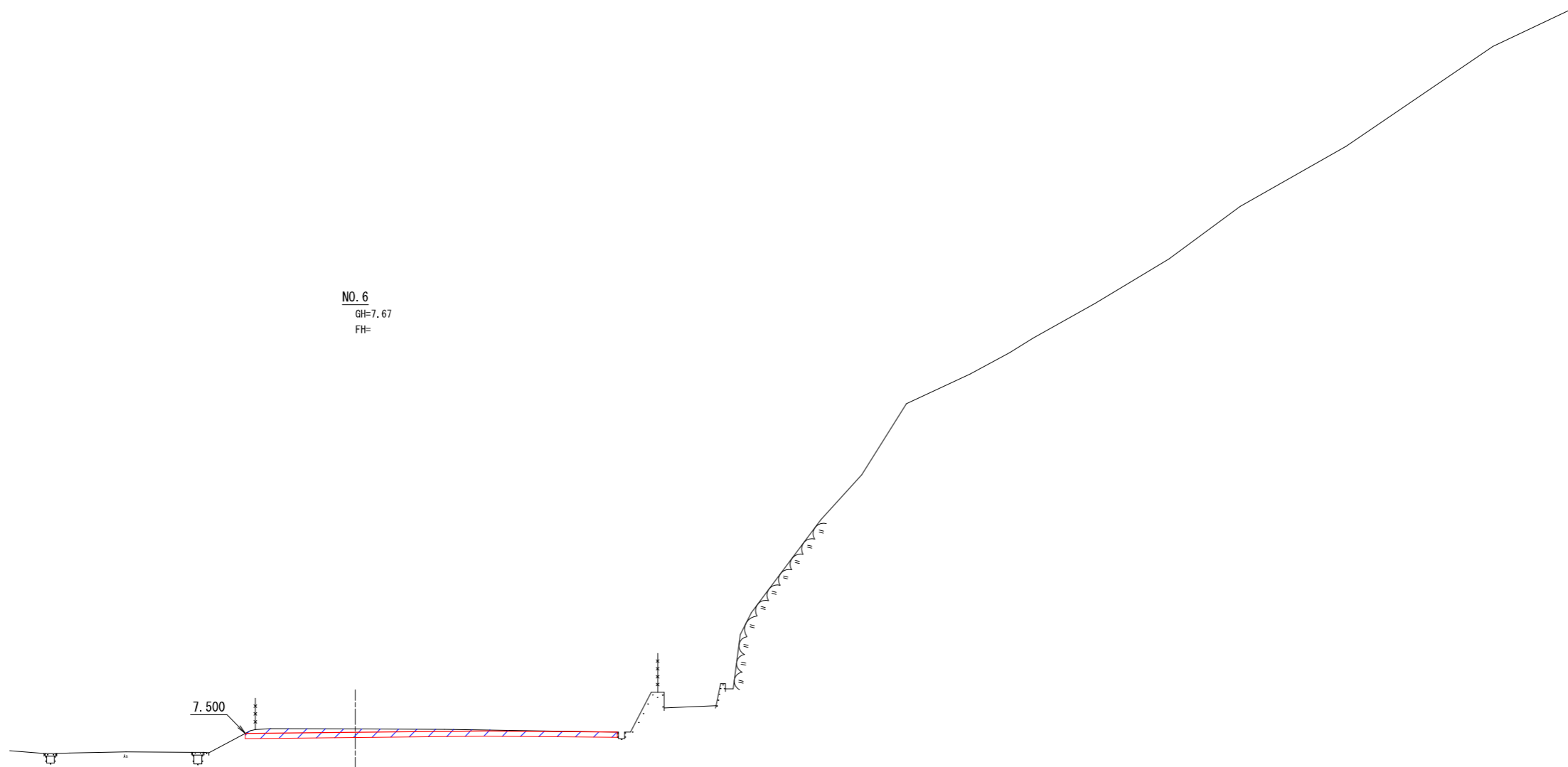


NO. 5
GH=7.21
FH=

7.500
6.370

掘削	m ²	-
盛土	m ²	2.4
床掘	m ²	2.7
埋戻	m ²	1.8

DL=0.00



NO. 6
GH=7.67
FH=

7.500

掘削	m ²	4.0
盛土	m ²	-
床掘	m ²	-
埋戻	m ²	-

DL=0.00

相生市看護専門学校建設工事設計図

横断面図 (NO. 6)

作図 令和 6 年 1 月

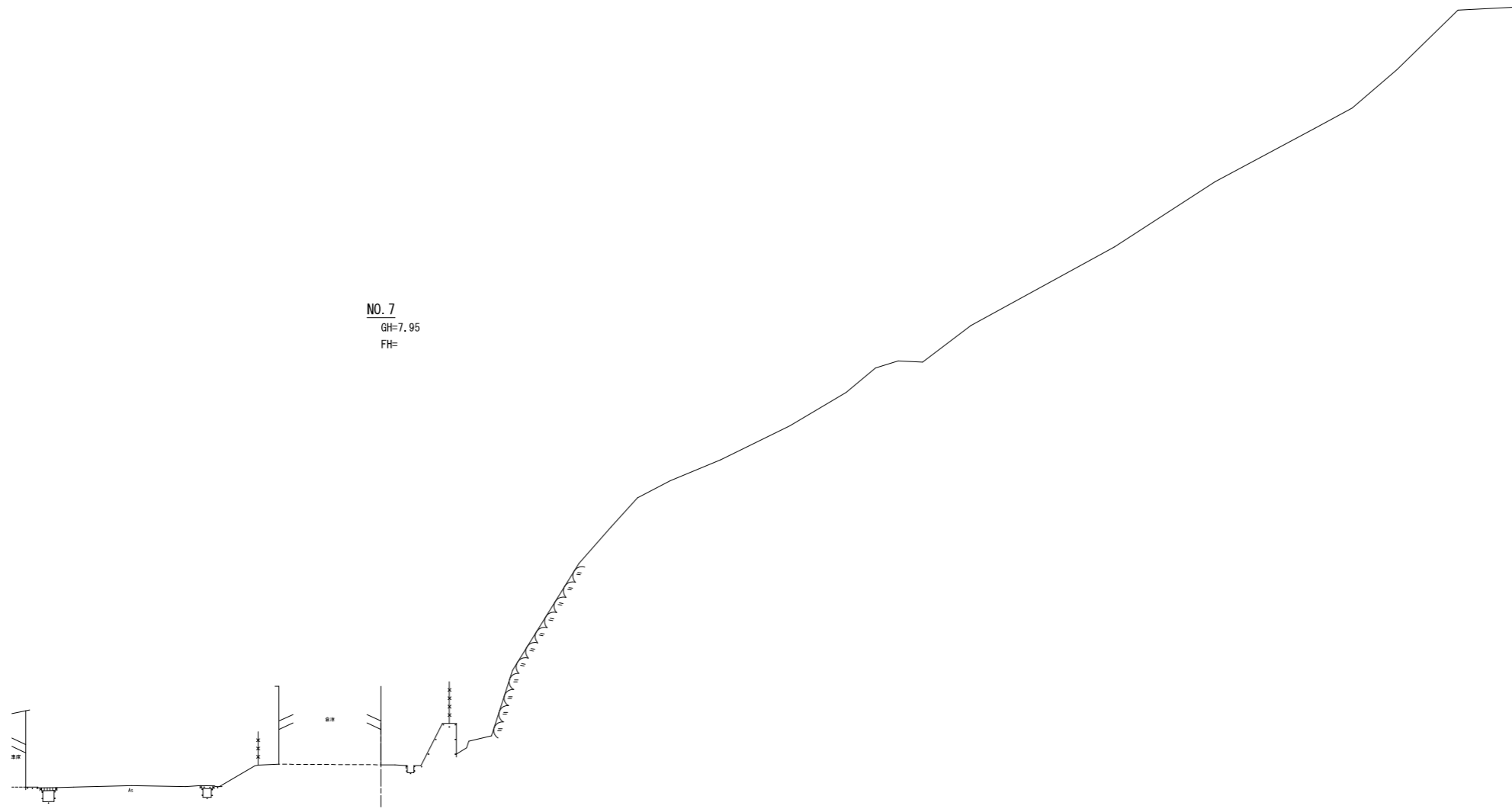
SCALE S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

株式会社小西建築設計事務所

兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
一般建築士事務所
一般建築士登録 第81587号 構造設計一般建築士 第2702号

FIG.No

FIG.No Z-008



NO. 7
GH=7.95
FH=

DL=0.00

相生市看護専門学校建設工事設計図

横断面図 (NO. 7)

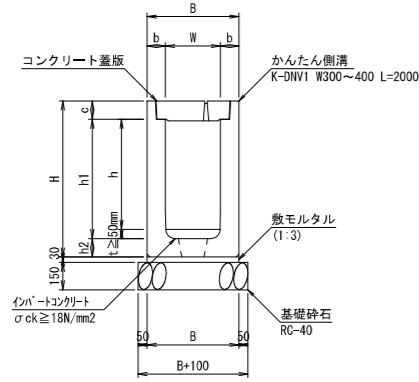
作図 令和 6 年 1 月

SCALE S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

株式会社小西建築設計事務所
 兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
 一般建築士登録 第81587号 構造設計一般建築士 第2702号

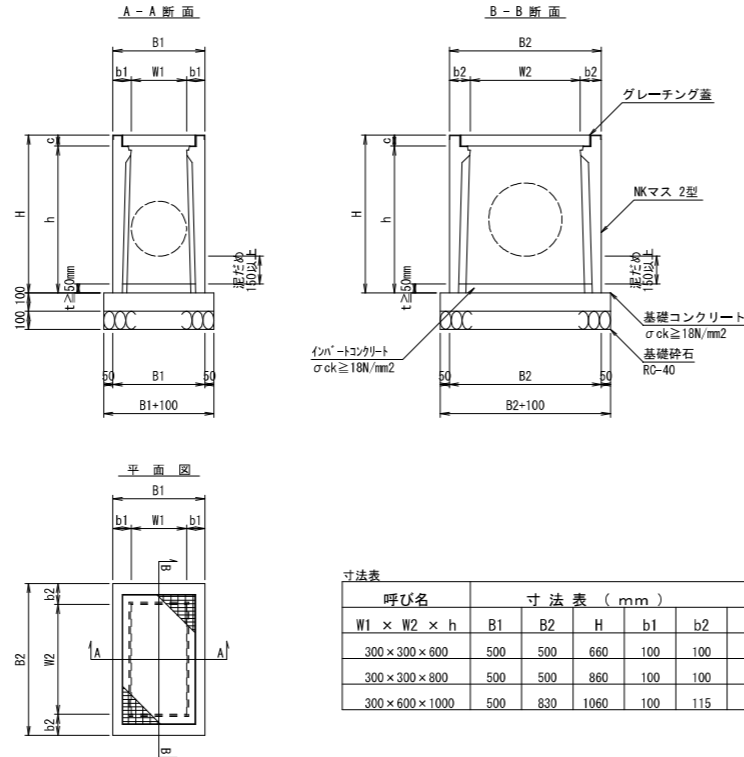
FIG No
Z-009

自由勾配側溝
(かんたん側溝) S=1:20



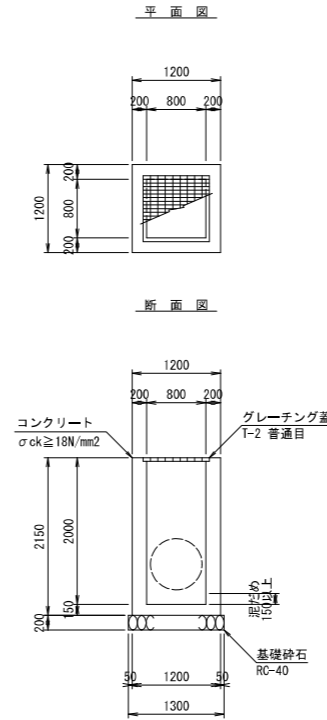
呼び名	寸法							単位 (mm)
W × h	B	H	b	c	h1	h2	平均厚 t	参考重量 (kg)
300 × 300	500	550	100	100	350	100	50	605
300 × 400	500	650	100	100	450	100	50	700

プレキャスト樹
(NKマス) S=1:20

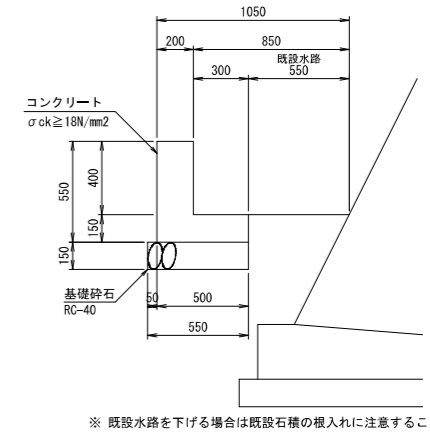


呼び名	寸法表 (mm)							単位 (mm)
W1 × W2 × h	B1	B2	H	b1	b2	c	参考重量 (kg)	
300 × 300 × 600	500	500	660	100	100	60	188	
300 × 300 × 800	500	500	860	100	100	60	236	
300 × 600 × 1000	500	830	1060	100	115	60	397	

現場打集水樹 S=1:50



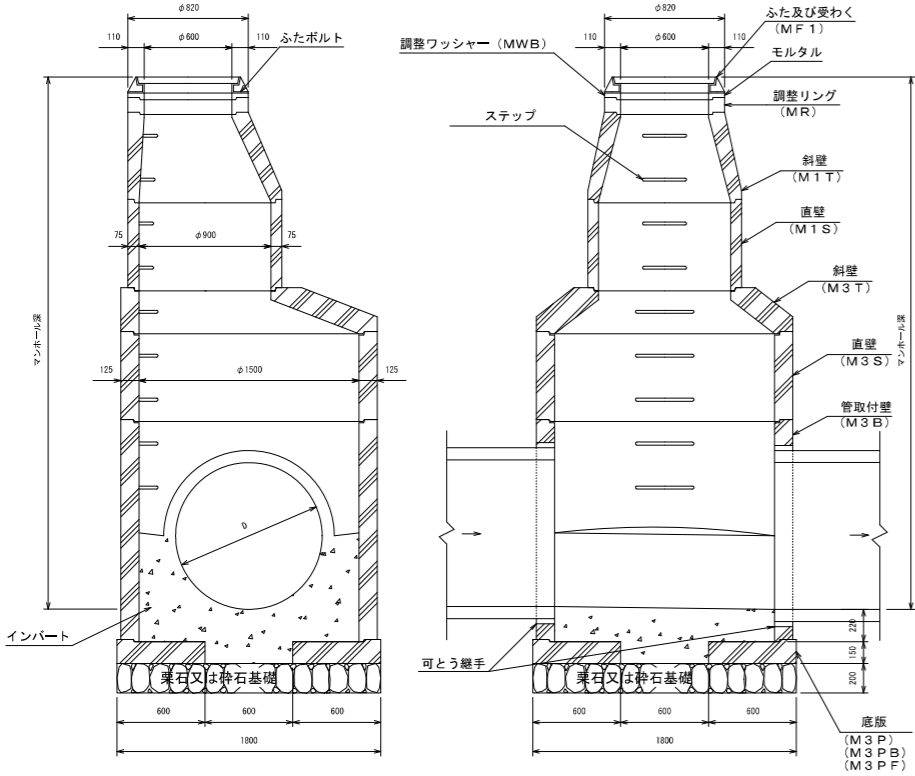
現場打型水路 S=1:20



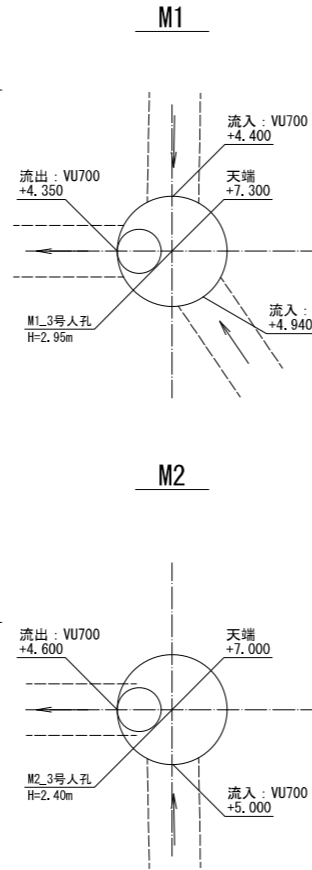
※ 既設水路を下げる場合は既設石積の根入れに注意すること。

(3号：内径1500mm) S=1:25

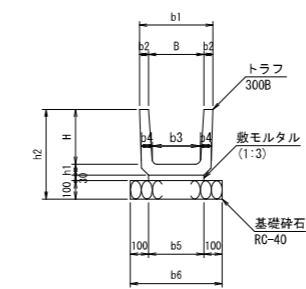
組立マンホール構造図



(参考図) S=1:50

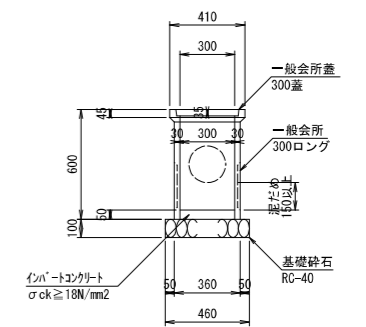


U型水路 (トラフ) S=1:20

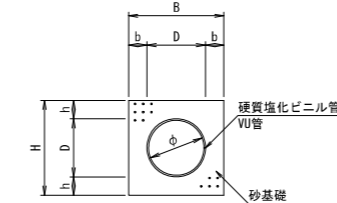


呼び名	寸法 (mm)								単位 (mm)	
(巾×深)	B	H	b1	b2	b3	b4	b5	b6	h1	h2
300 × 300	300	300	400	50	260	60	300	500	60	490

会所樹 (一般会所) S=1:20

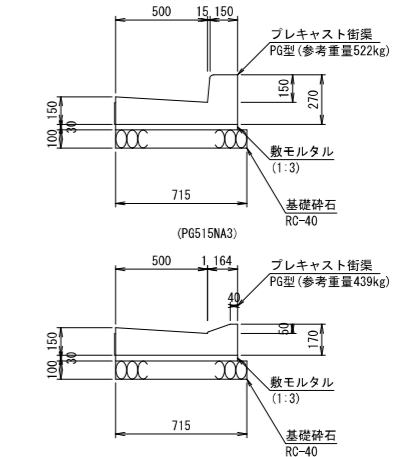


硬質塩化ビニル管 (VU管) S=1:20



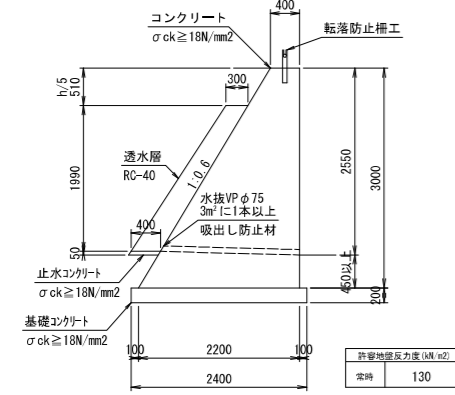
寸法表	φ	D	h	H	b	B
φ200	216	100	416	100	416	
φ250	420	100	620	100	620	
φ400	420	100	620	100	620	
φ500	520	100	720	100	720	
φ700	732	100	932	100	932	

プレキャスト街渠 (PG515A) S=1:20



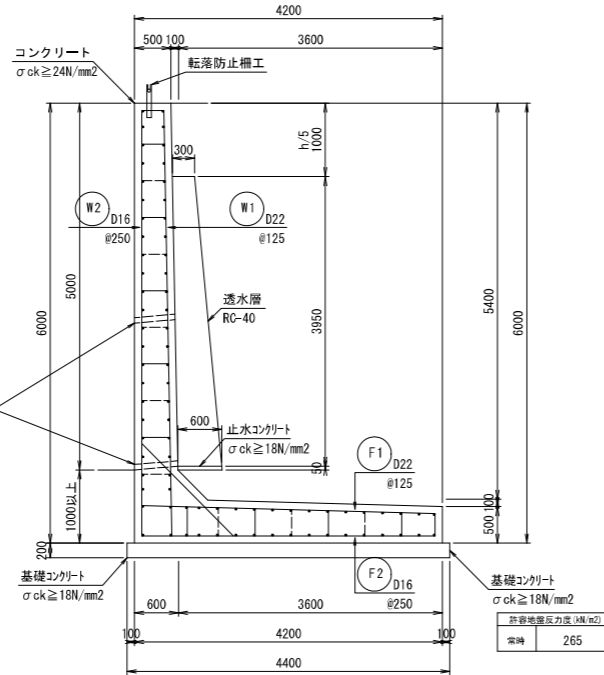
重力式擁壁

見え高H=0.00~2.50m
(H=3.00m) S=1:50

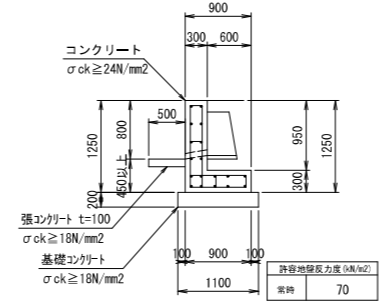


L型擁壁①

見え高H=5.00m、4.20m
(H=6.00m) S=1:50

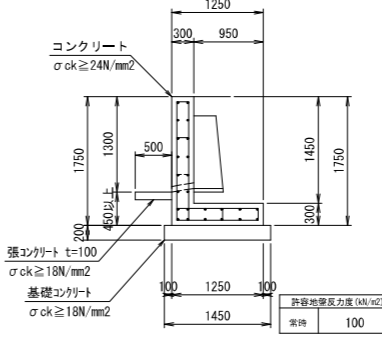


見え高H=0.18~0.80m
(H=1.25m) S=1:50



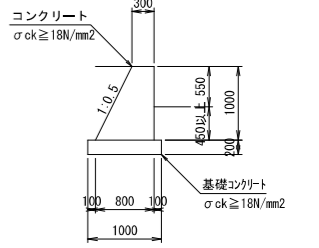
L型擁壁②③

見え高H=0.80~1.30m
(H=1.75m) S=1:50



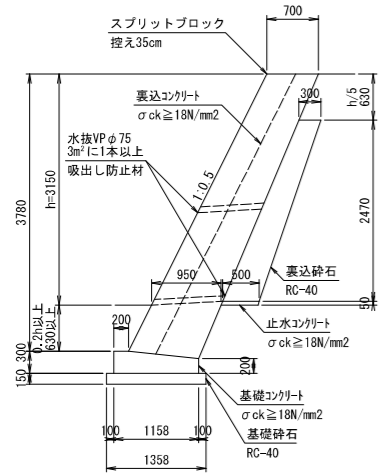
土留壁

見え高H=0.00~0.55m
(H=1.00m) S=1:50

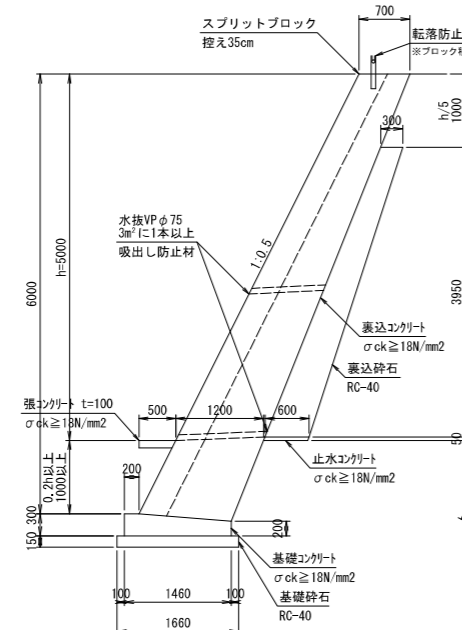


ブロック積

見え高H=0.00~3.146m
(H=3.78m) S=1:50

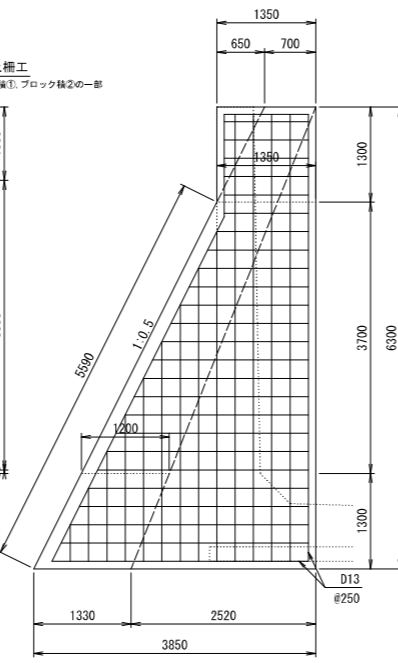


見え高H=5.00m
(H=6.00m) S=1:50

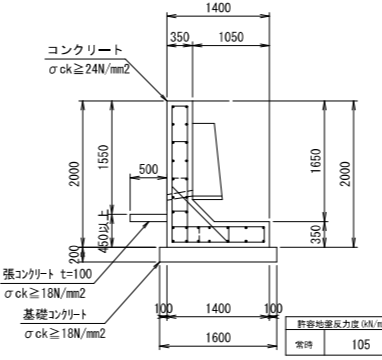


小口止工

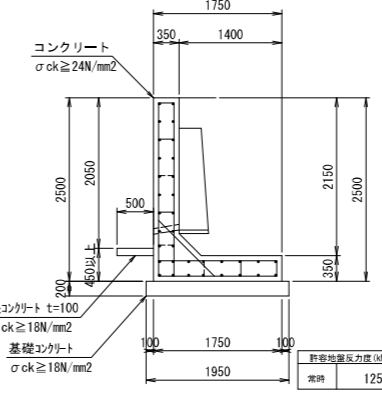
S=1:50



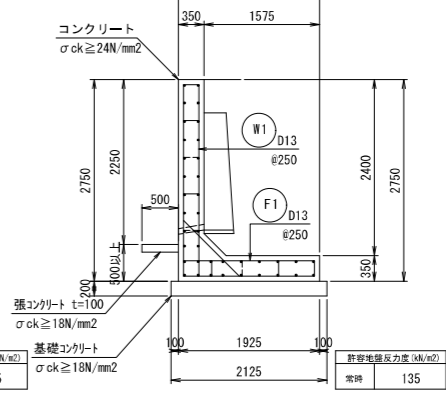
見え高H=1.30~1.55m
(H=2.00m) S=1:50



見え高H=1.55~2.05m
(H=2.50m) S=1:50

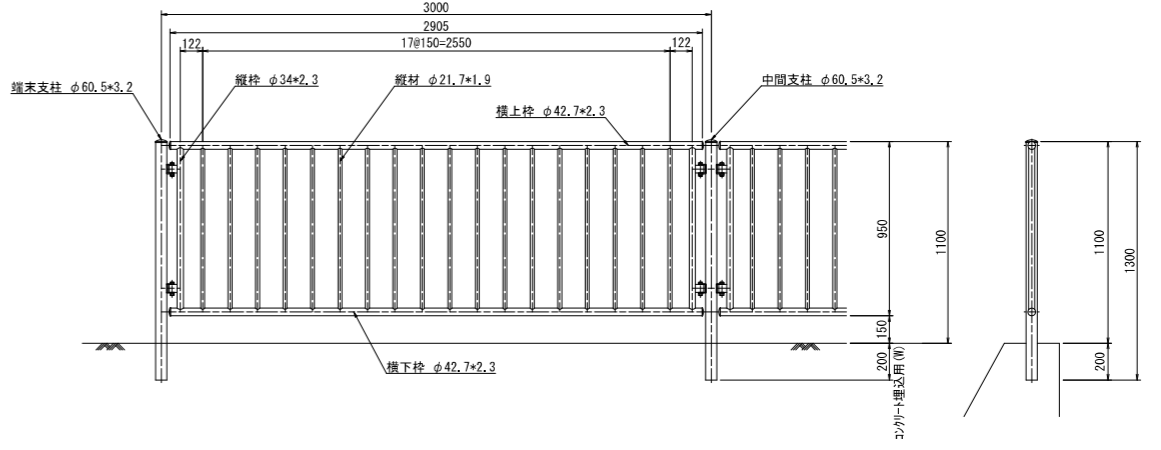


見え高H=2.05~2.25m
(H=2.75m) S=1:50



転落防止柵工

S=1:20

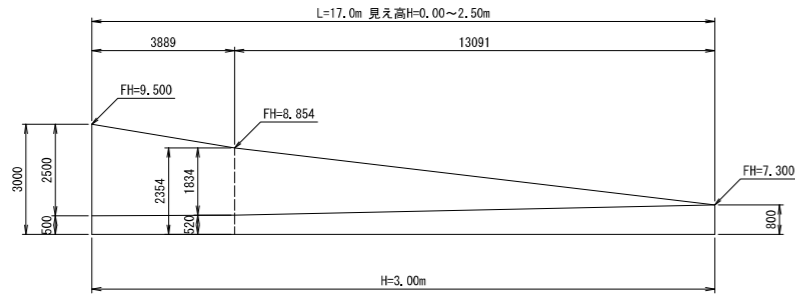


- ※ 伸縮目地を原則として20mごとに1箇所割合で設けること。
- ※ 水抜穴はVPφ75を3m当たり1箇所以上とし、原則として千鳥状に設けること。
- ※ 主筋の定着長及び継手長は、鉄筋径の40倍以上とする。
- ※ 埋戻し土(裏込土)については、良質な土・砂利等を用いること。
- ※ 施工に先立ち地盤の許容支持力度を平板載荷試験等により確認すること。

擁壁工展開図 (1) S=1:100

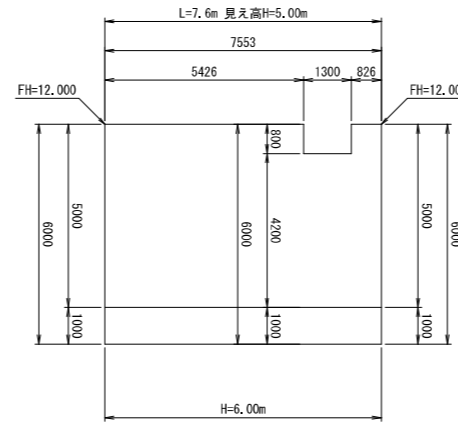
重力式擁壁

S=1:100
見え高H=0.00~2.50m
(H=0.80~3.00m)



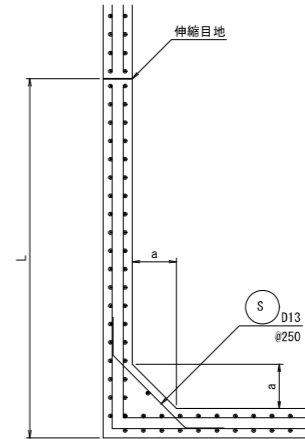
L型擁壁①

S=1:100
見え高H=5.00m
(H=6.00m)



出隅部平面図

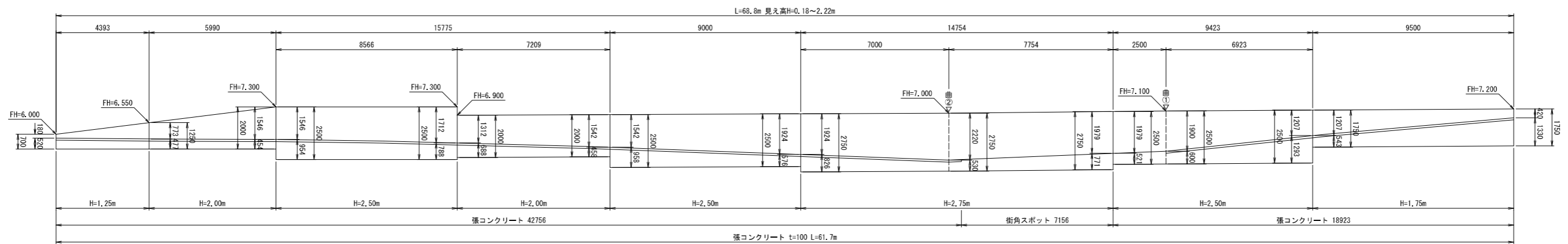
(L型擁壁) S=1:50



出隅部	L (m)	a (m)
曲①	2.50	0.50
曲②	2.50	0.50
曲③	2.00	0.50
曲④	2.00	0.50
曲⑤	2.00	0.50

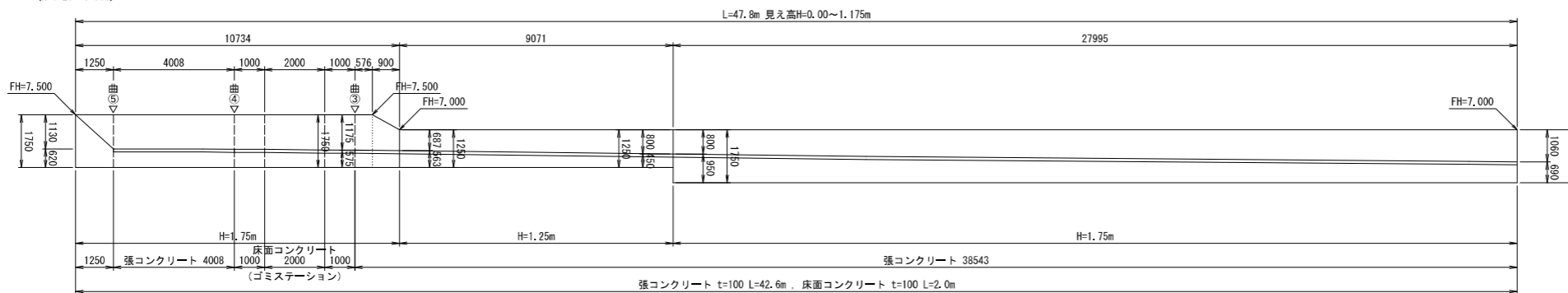
L型擁壁②

S=1:100
見え高H=0.18~2.22m
(H=0.70~2.75m)



L型擁壁③

S=1:100
見え高H=0.00~1.175m
(H=1.25~1.75m)

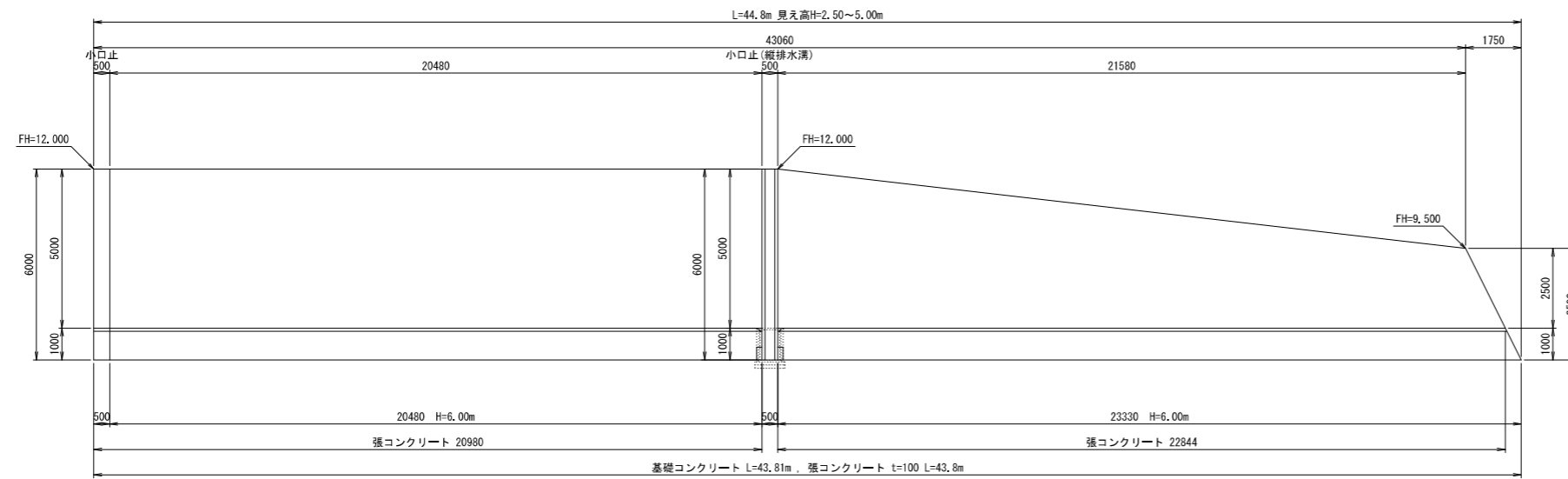


- ※ 伸縮目地を原則として20mごとに1箇所の割合で設けること。
- ※ 水抜穴はVPφ75を3m2当たり1箇所以上とし、原則として千鳥状に設けること。
- ※ 主筋の定着長及び継手長は、鉄筋径の40倍以上とする。
- ※ 埋戻し土(裏込土)については、良質な土・砂利等を用いること。
- ※ 施工に先立ち地盤の許容支持力度を平板載荷試験等により確認すること。

擁壁工展開図 (2) S=1:100

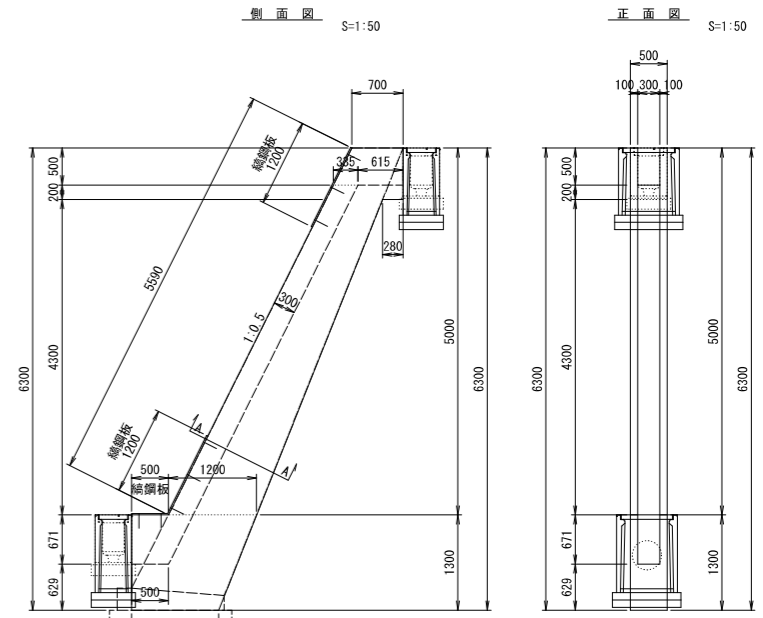
ブロック積①

見え高H=2.50~5.00m
(H=3.50~6.00m) S=1:100



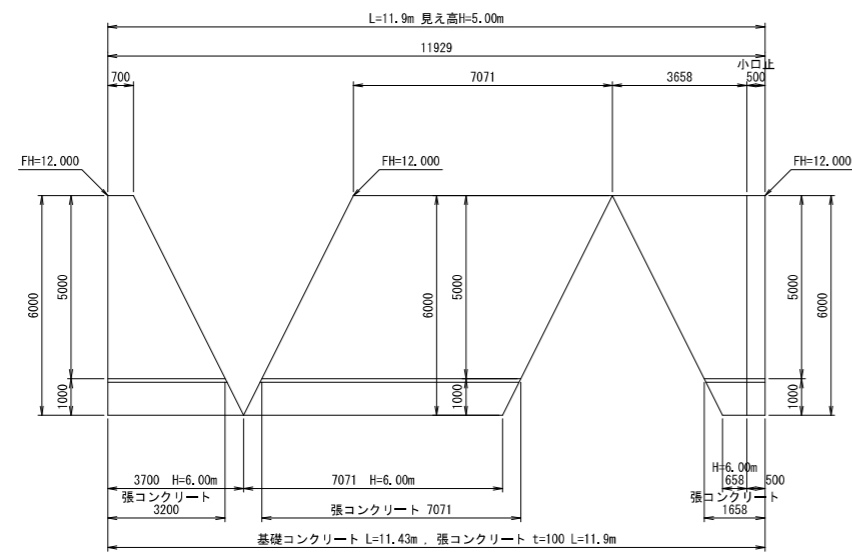
小口止工(縦排水溝)

(300×300)



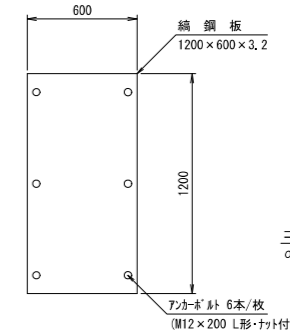
ブロック積②

見え高H=5.00m
(H=6.00m) S=1:100



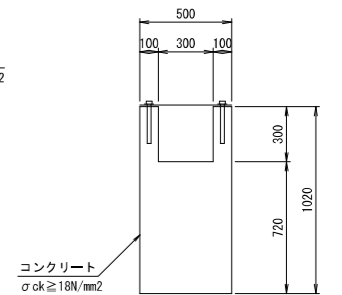
鉄鋼板

S=1:20



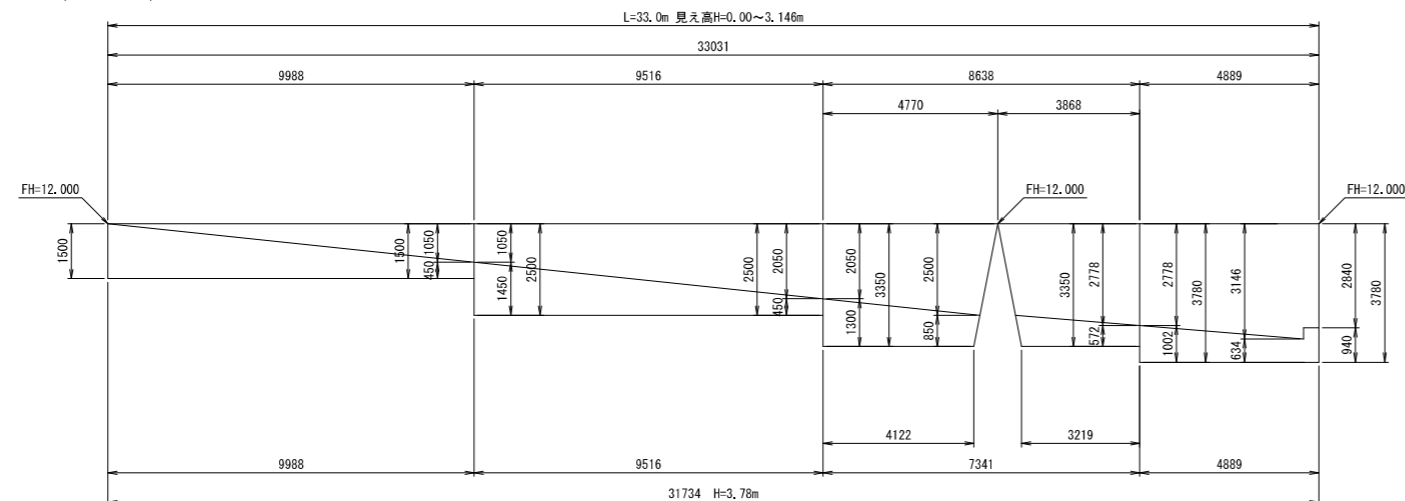
A-A断面

S=1:20



ブロック積③

見え高H=0.00~3.146m
(H=1.50~3.78m) S=1:100

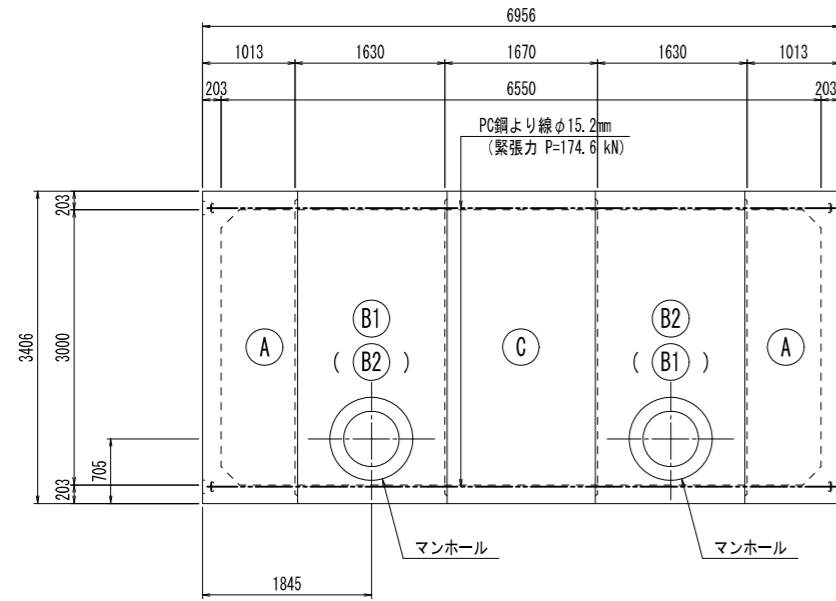


- ※ 伸縮目地を原則として20mごとに1箇所の割合で設けること。
- ※ 水抜穴はVPφ75を3m当たり1箇所以上とし、原則として千鳥状に設けること。
- ※ 埋戻し土(裏込土)については、良質な土・砂利等を用いること。
- ※ 施工に先立ち地盤の許容支持力を平板載荷試験等により確認すること。

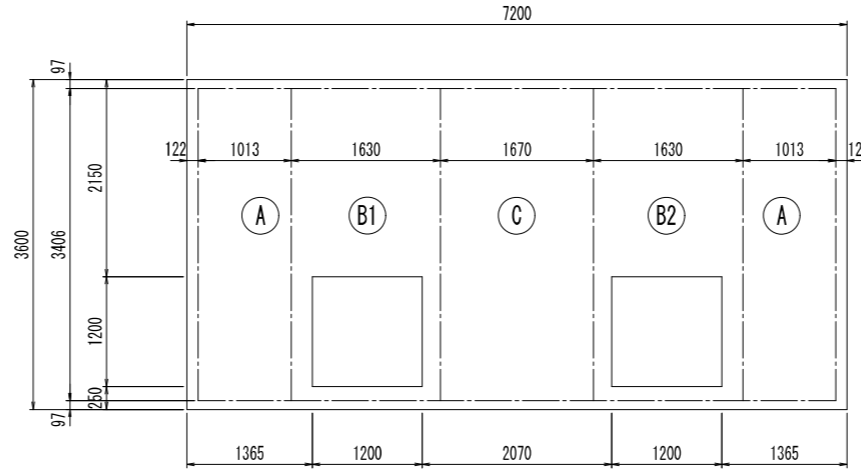
耐震性貯水槽構造図

40m³ 2ピット
(NTT-K-0402-02)

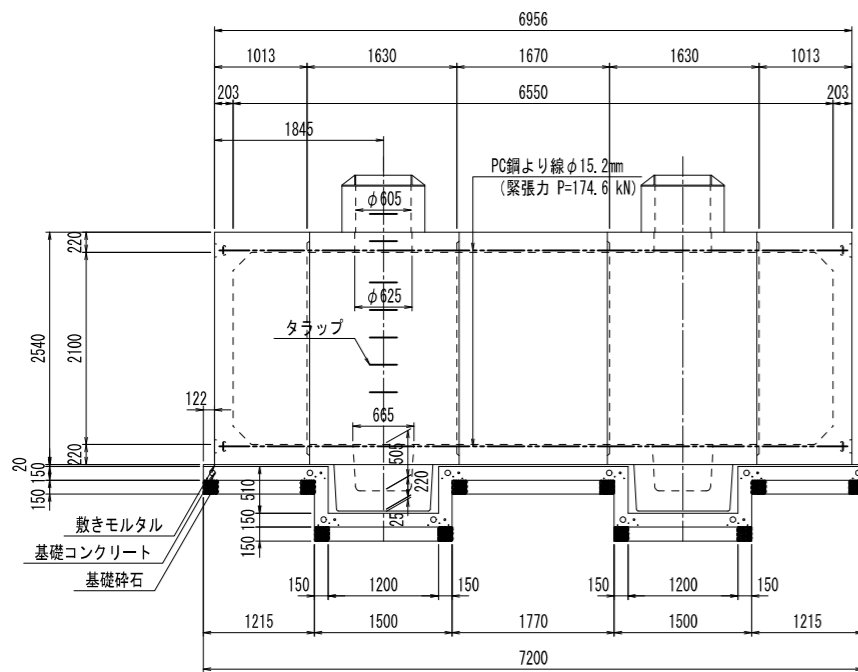
平面図



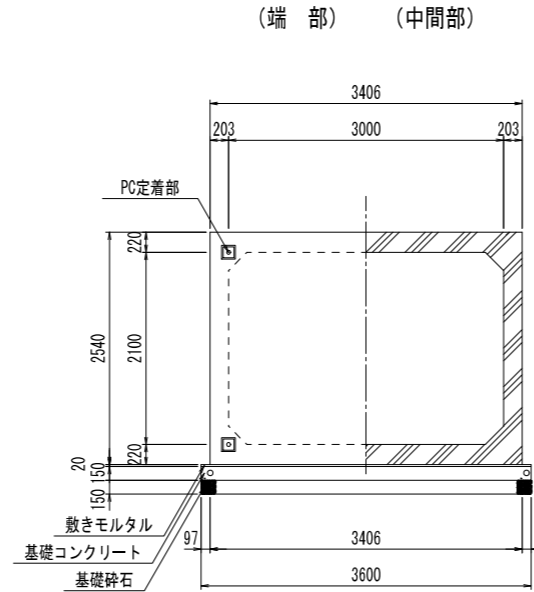
基礎平面図



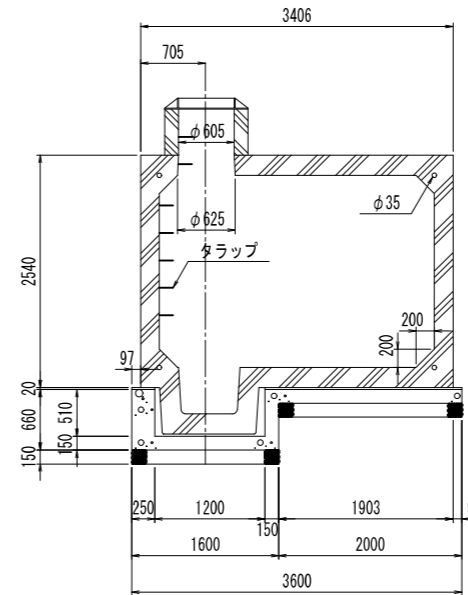
側面図



標準断面図



ピット部断面図



設計条件

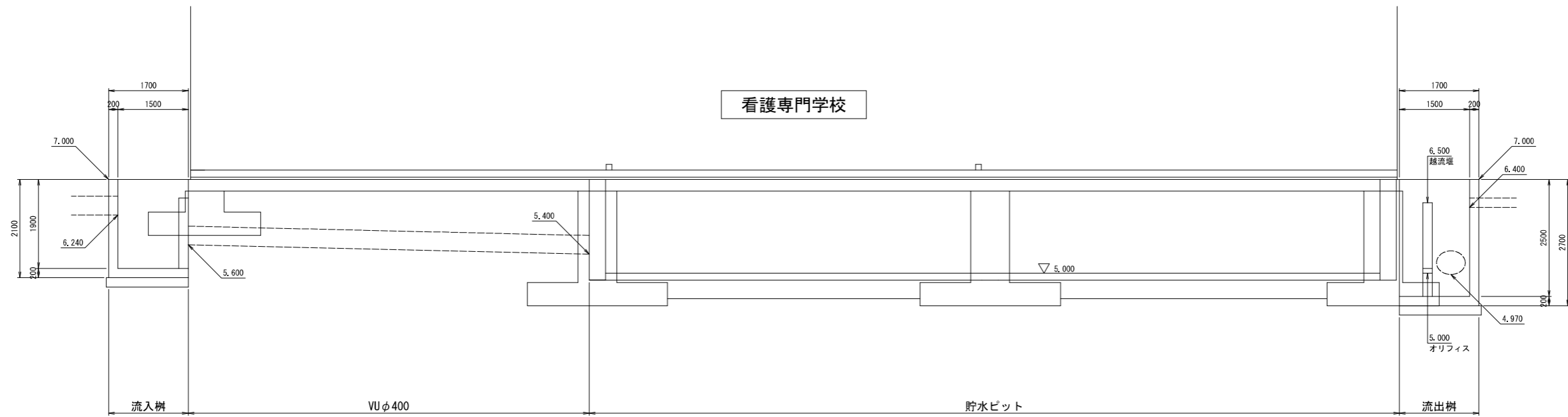
規格	40m ³ 級 I型 II型 III型	
形状	横置ボックスカルバート型	
認定番号	耐-00040号	
設計荷重	I型	10.0 kN/m ²
	II型	T-200
	III型	T-250
土被り	I型	0.0 m~1.2 m
	II型	0.2 m~1.0 m
	III型	0.2 m~0.8 m
設計震度	水平	kh=0.288
	鉛直	Kv=±0.144
水平土圧係数	常時	0.500
	地震時 Kv=+0.144	0.744
	Kv=-0.144	0.931
単位体積質量	土	17.70 kN/m ³
	鉄筋コンクリート	24.50 kN/m ³
コンクリート	設計基準強度	35.00 N/mm ²
	許容圧縮応力度	12.00 N/mm ²
	許容せん断応力度	0.50 N/mm ²
	許容付着応力度	1.90 N/mm ²
	鉄筋許容引張応力度	120 N/mm ²

注) 土被りが0.0mの場合は、マンホールを頂版に埋め込むことも出来ます。

材料表

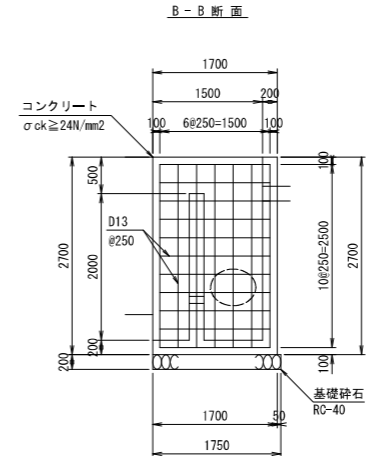
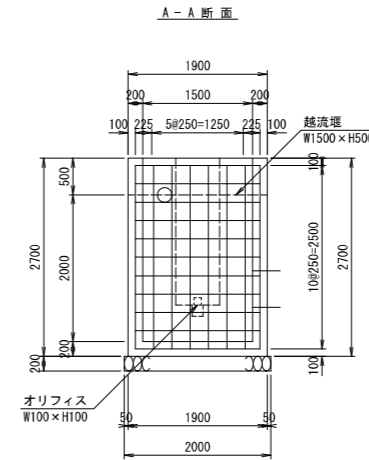
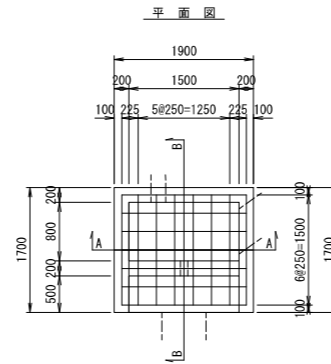
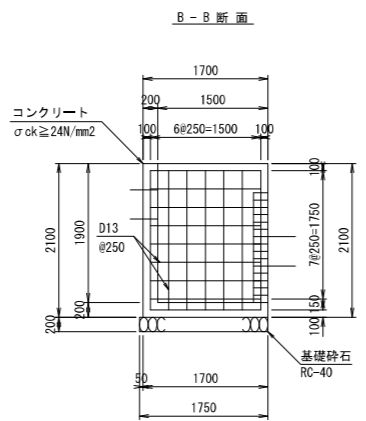
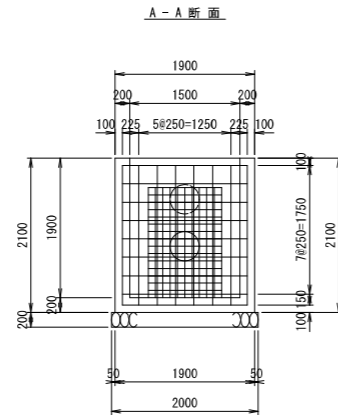
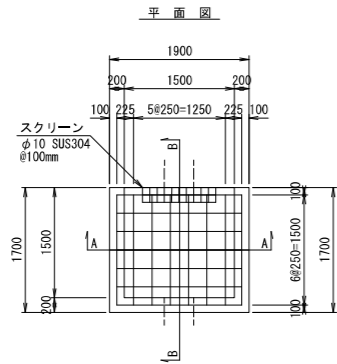
種別	単位	数量
基礎材料	基礎コンクリート	m ³ 4.867
	基礎砕石	m ³ 25.920
	基礎型枠	m ² 14.460
	敷モルタル	m ² 0.461
コンクリートブロック	A ブロック	kg 9960×2
	B1 ブロック	kg 10645
	B2 ブロック	kg 10645
	C ブロック	kg 10033
	調整ブロック	個 2
マンホール蓋	個 2	
防水材料	内面防水剤	m ² 95.8
	防水内目地	m 38.9
	シール材(内)	m 42.8
	シール材(外)	m 46.8
PC材料	PC鋼より線φ15.2mm	m 30.0
	グリッパ 定着版	組 8
	グラウト	l 22.8
施工重機	50t吊り	日 1.0

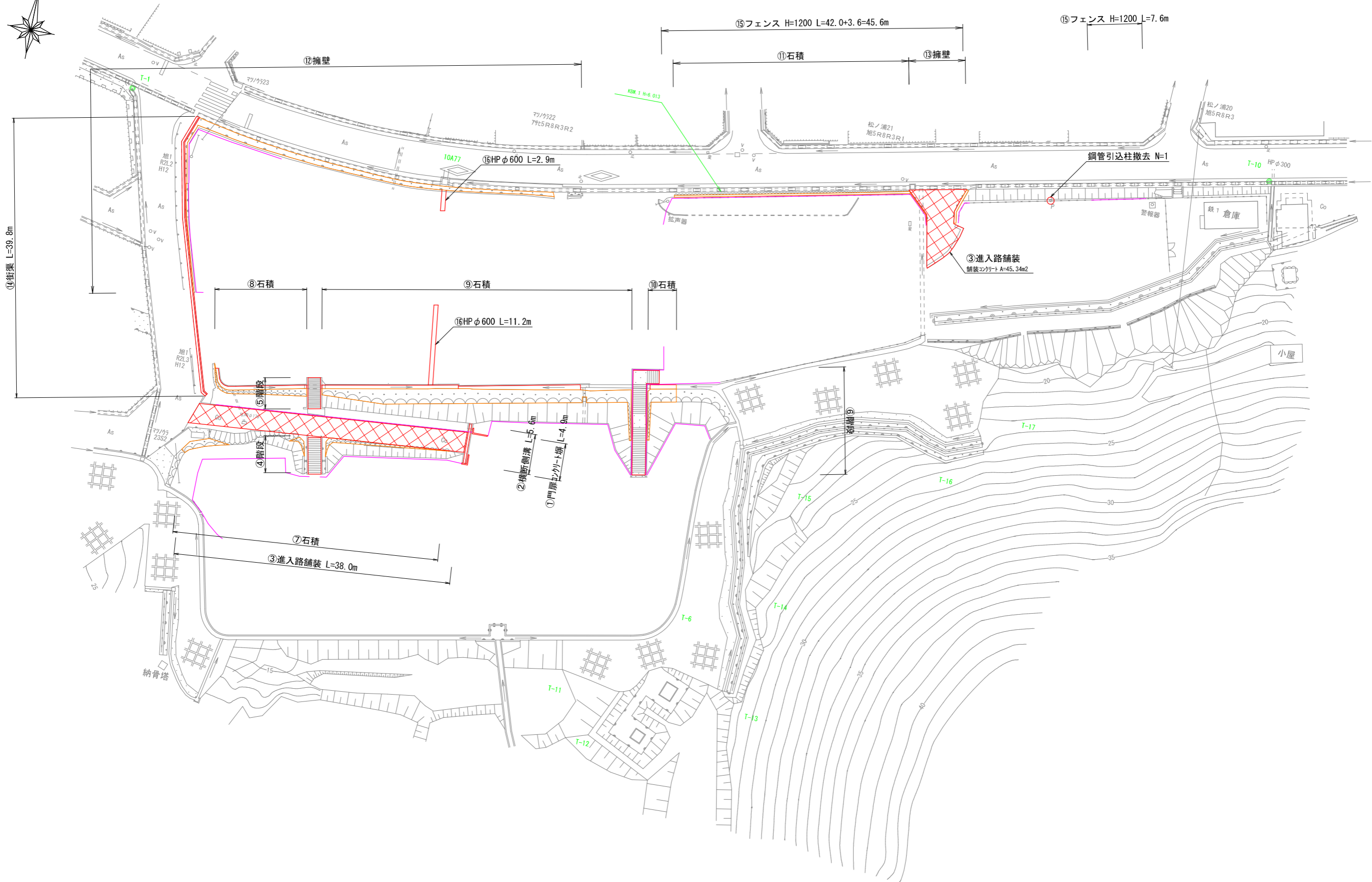
貯水ピット接続柵構造図



流入柵
(1500 × 1500 × 1900)

流出柵
(1500 × 1500 × 2500)





取壊し平面図

令和 6 年 1 月

SCALE S=1:250 (A1)
S=1:500 (A3)

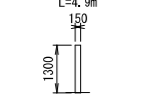
株式会社 小西建築設計事務所

兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
一級建築士登録 第81587号 構造設計一級建築士 第2702号

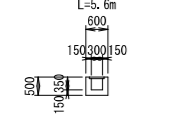
FIG. No.

Z-016

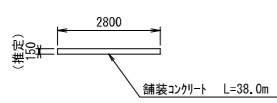
①門扉コンクリート塀



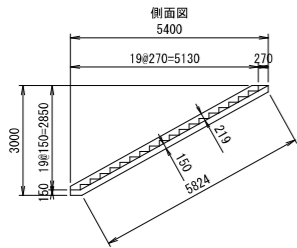
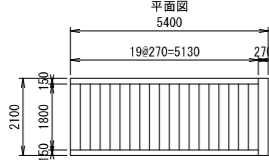
②門扉箇所横断側溝



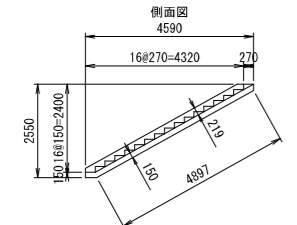
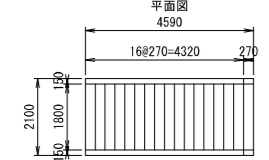
③進入路舗装



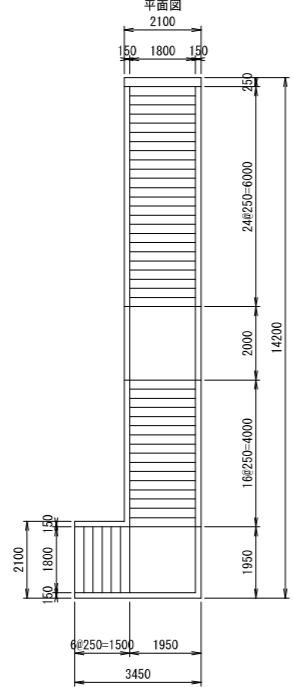
④階段



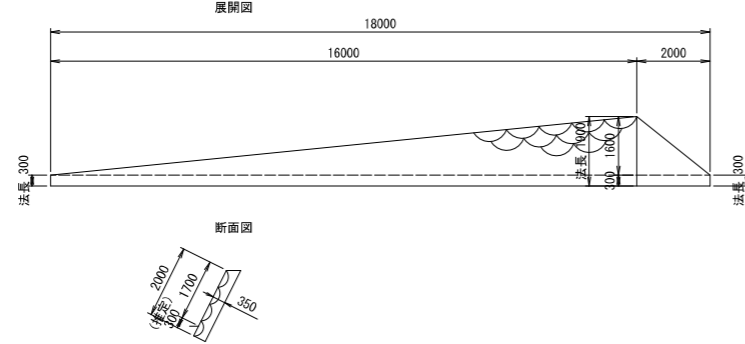
⑤階段



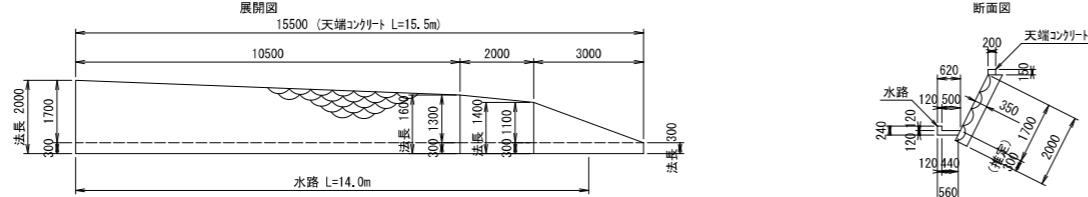
⑥階段



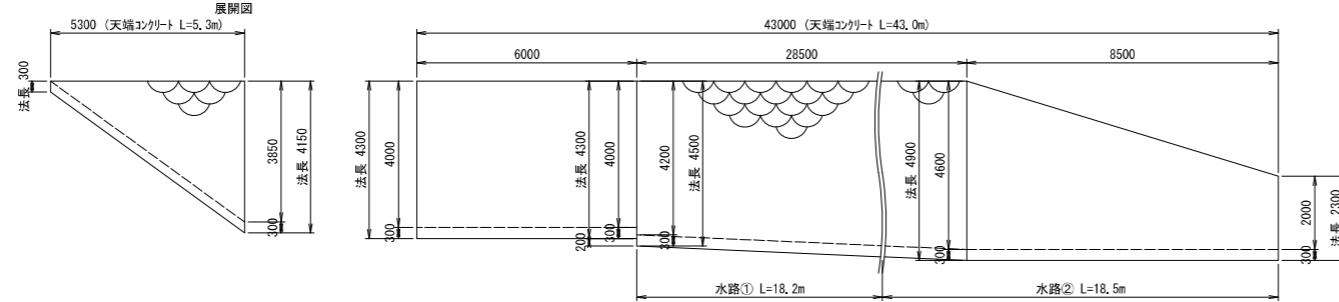
⑦石積



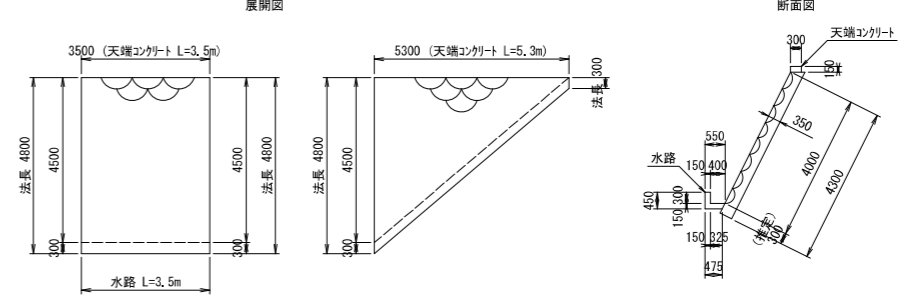
⑧石積



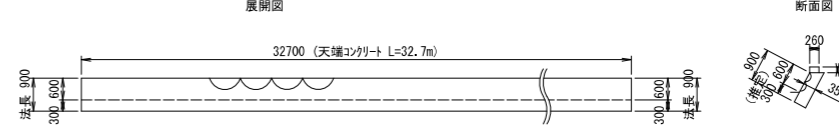
⑨石積



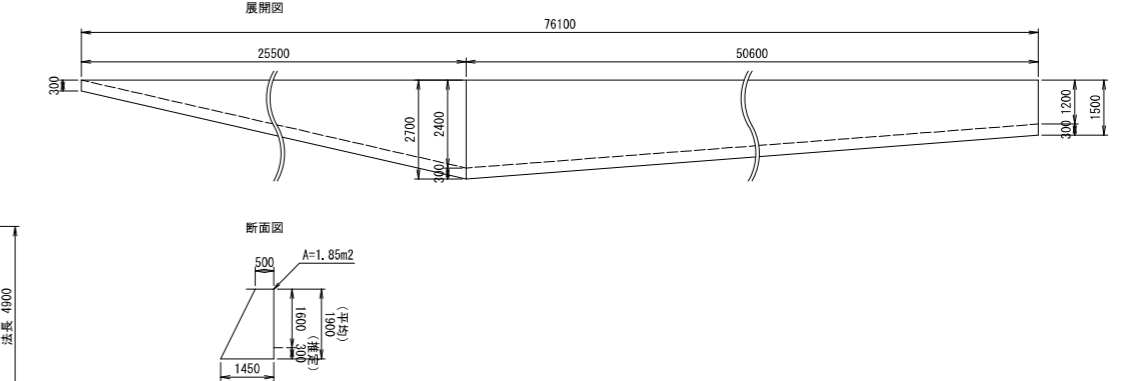
⑩石積



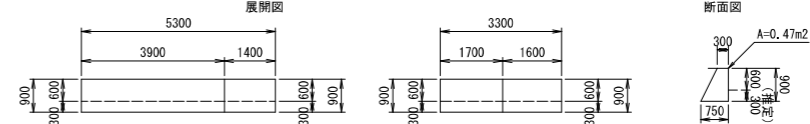
⑪石積



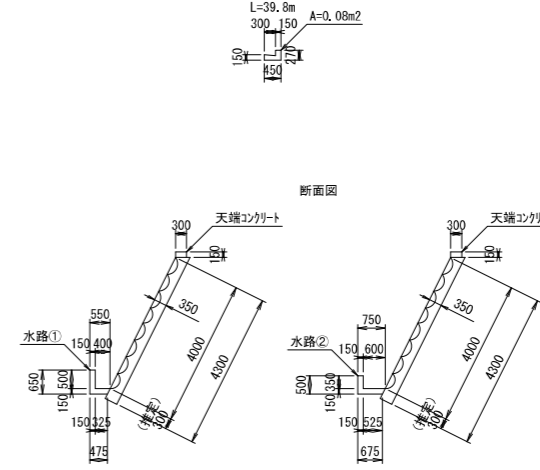
⑫擁壁



⑬擁壁



⑭街渠



鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 2022年度版

§ 1 一般事項

- 1-1 基本事項
1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
 2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」による。
 3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
 4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§ 2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	○	◎	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝	⊞	⊟	⊠
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47

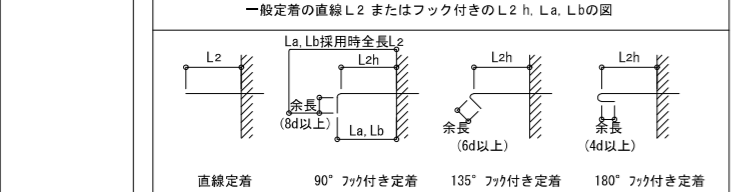
- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- ガス圧接、溶接継手表示

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋	SD295	D16以下	3d以上
		帯筋 あばら筋	SD345	D19~D41	4d以上
135°		スパイラル筋 スラブ筋	SD390	D41以下	5d以上
90°		壁筋	SD490	D25以下	5d以上
				D29~D41	6d以上

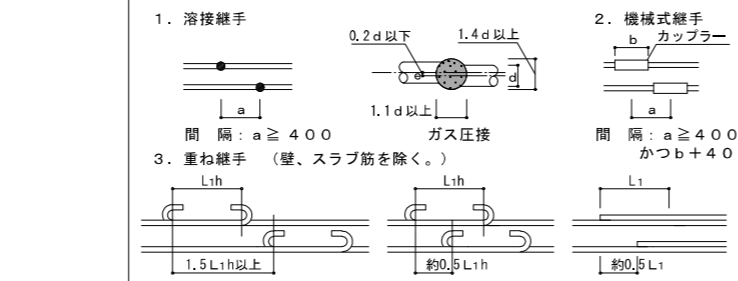
鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ	定着の長さ			
			一般	小梁・床スラブ	上端筋	下端筋
SD295 SD345 (-)はSD345を示す	18	上段 直線 L ₁	4d(50d)	40d	20d	15d
		下段 フック付き L _{1h}	35d	30d	20d	(20d)
	21	上段 直線 L ₁	40d(45d)	30d(35d)	15(20)d	15d
		下段 フック付き L _{1h}	30d	25d	15(20)d	(20d)
	30~36	上段 直線 L ₁	35d	30d	15d	15d
		下段 フック付き L _{1h}	25d	20d	15d	15d
SD390 (-)は適用外	24~27	上段 直線 L ₁	35d(40d)	30d(35d)	15(20)d	15d
		下段 フック付き L _{1h}	25d(30d)	20d(25d)	15(20)d	(20d)
	30~36	上段 直線 L ₁	40d(50d)	35d(40d)	20d(25d)	15d
		下段 フック付き L _{1h}	30d(35d)	25d(30d)	20d(25d)	(20d)
39~45	上段 直線 L ₁	40d(45d)	35d(40d)	20d(25d)	15d	
	下段 フック付き L _{1h}	30d(35d)	25d(30d)	15d(20d)	(20d)	
48~60	上段 直線 L ₁	30d	25d	15d	15d	
	下段 フック付き L _{1h}	20d	15d	15d	15d	

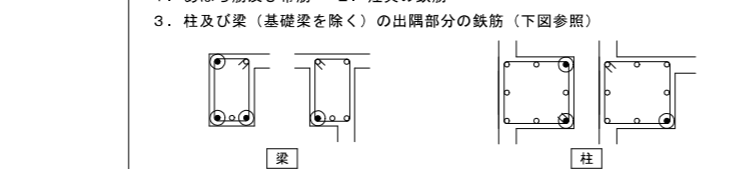


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL₂hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般



2-5 鉄筋のフック



2-6 鉄筋のあき

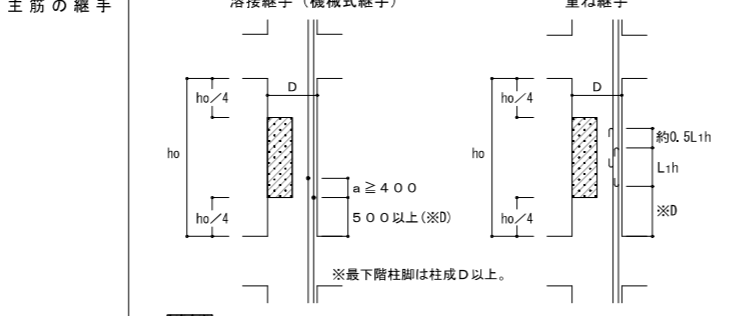
1. あばら筋及び帯筋
2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)

2-7 かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	非耐力壁	40(30)
	柱	40(30)
土に接する部分	耐力壁	50(40)
	柱・梁・床スラブ・壁	50(40)
	布基礎の立上り	70(60)
	基礎・擁壁	70(60)

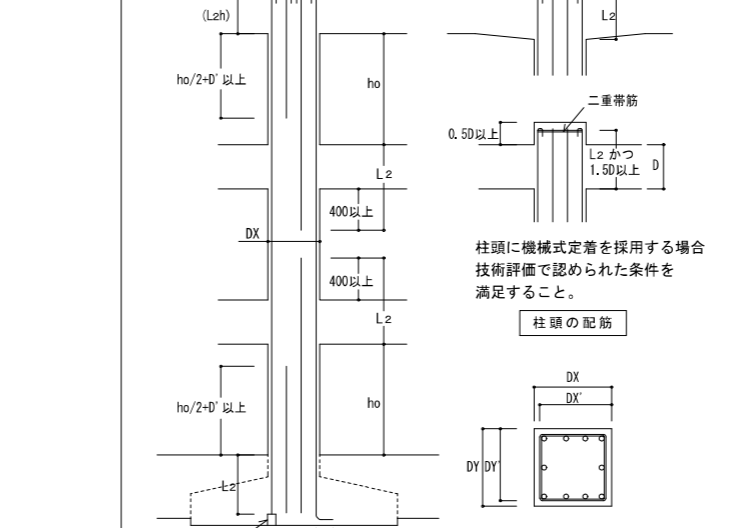
1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋の最小かぶり厚さは、表の数値以上かつ主筋径の1.5倍以上とする。

§ 3 柱

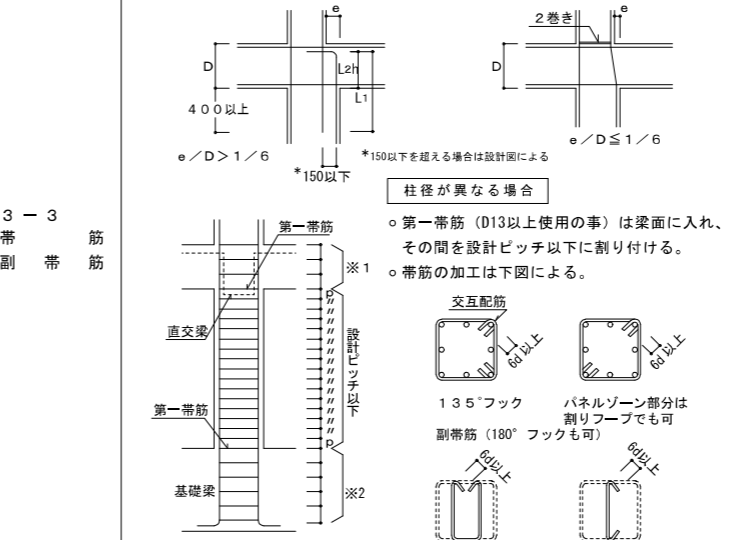


- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。設計者判断により、認定を取得した工法ではa=0とできる。

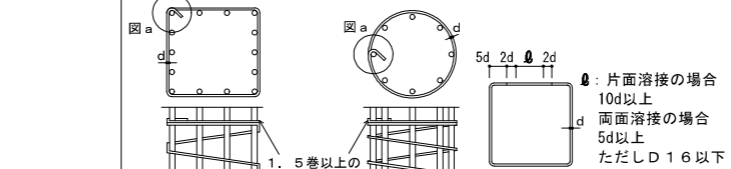
3-2 主筋の定着



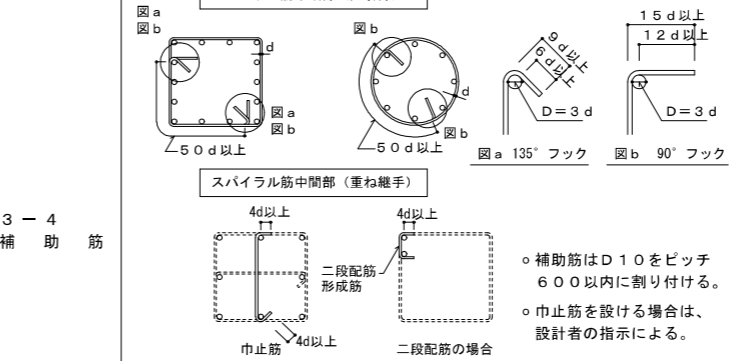
3-3 帯副帯筋



- パネルゾーンは設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯筋量(pw)は0.2%以上とする。
- ※1. 設計ピッチの1.5倍以下とする。□形の場合は同径同材質で○形@100以下とする。
- ※2. 基礎梁部分は、同径で□形@150以下とする。

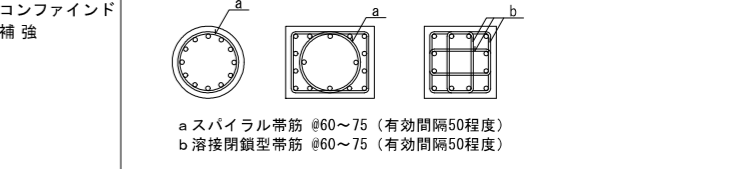


3-4 補助筋



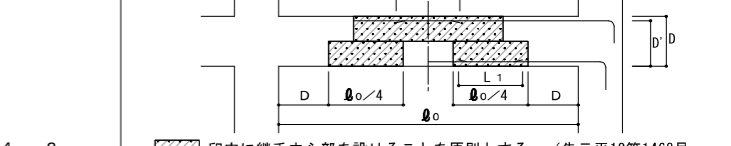
- 補助筋はD10をピッチ600以内に割り付ける。
- 巾止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

3-5 柱のコンファインド補強



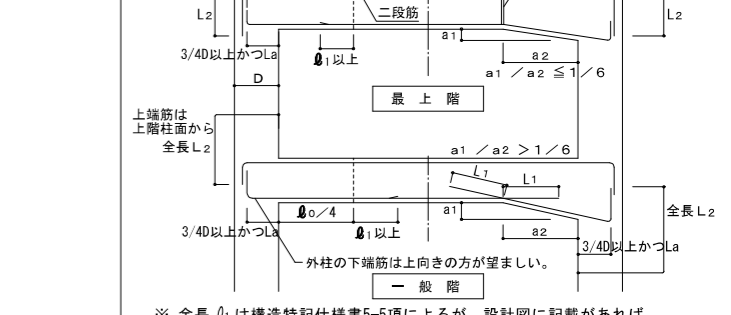
§ 4 梁

4-1 主筋の継手

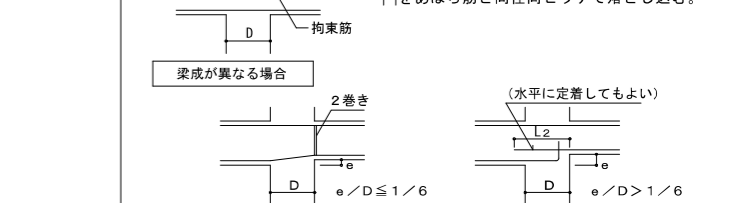


- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。(告示平12第1463号使用基準参照)溶接継手の場合でも柱面より500以上はなすこと。
- 定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

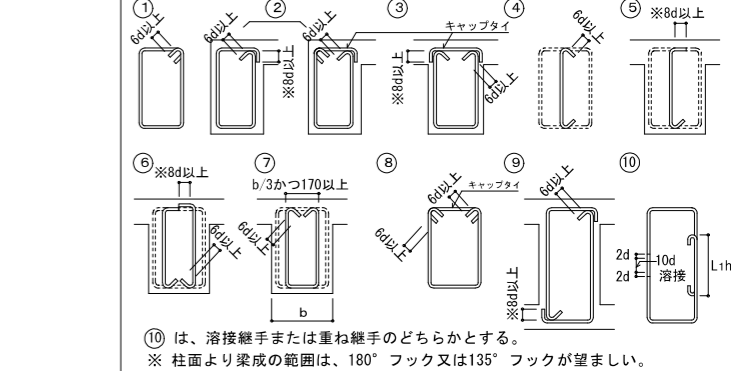
4-2 主筋の定着及び余長



4-3 あばら筋副あばら筋



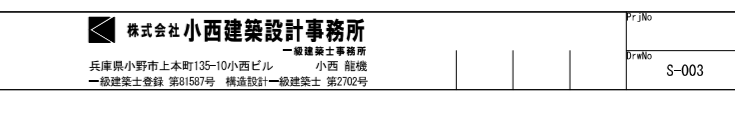
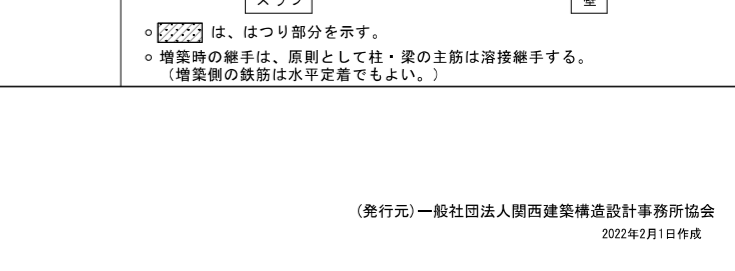
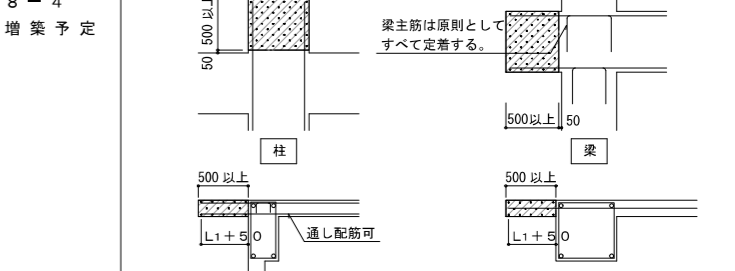
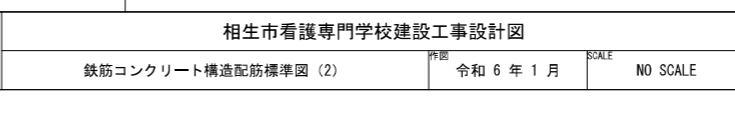
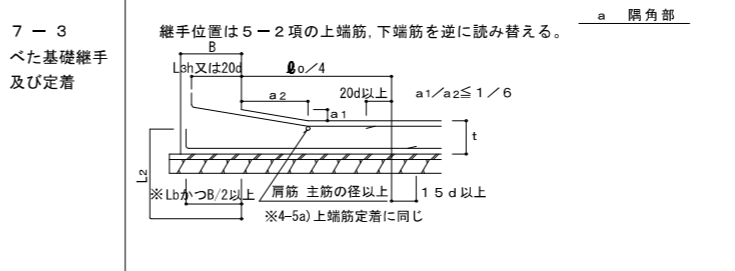
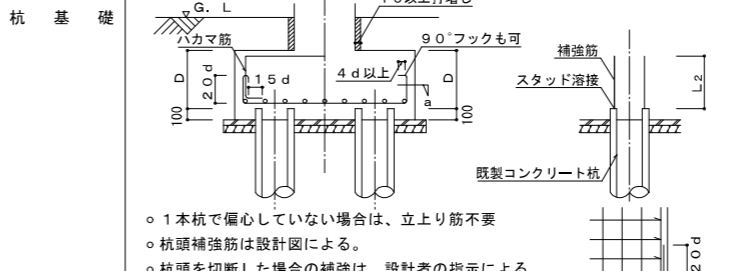
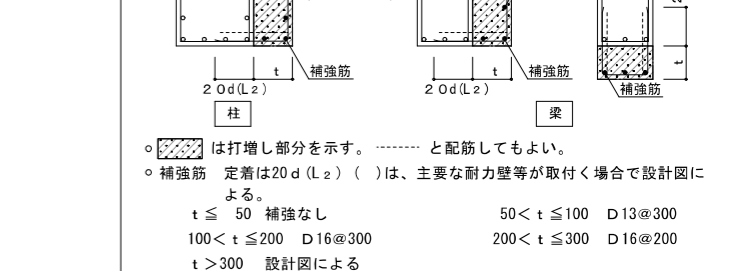
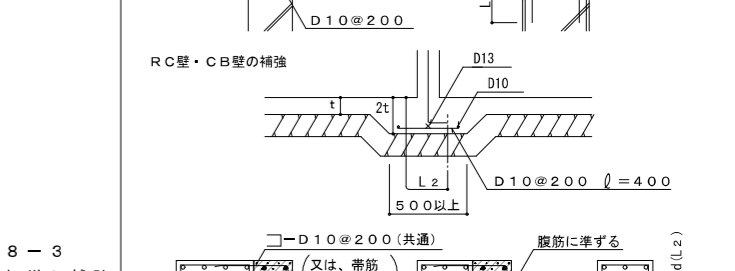
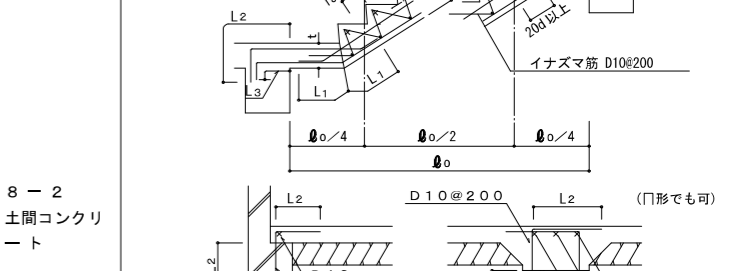
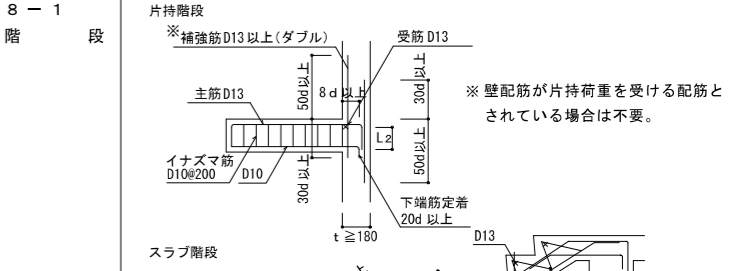
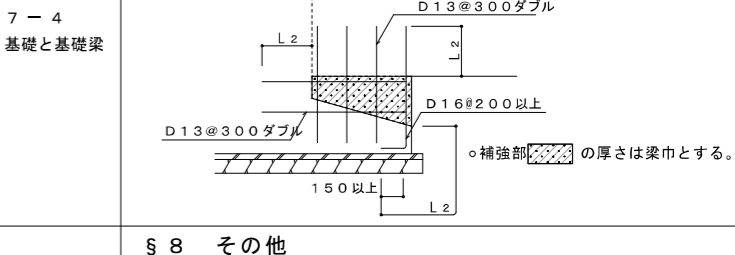
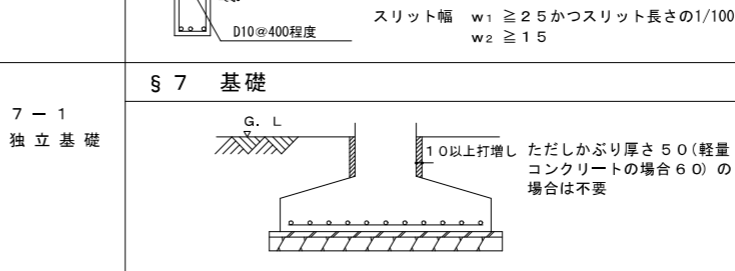
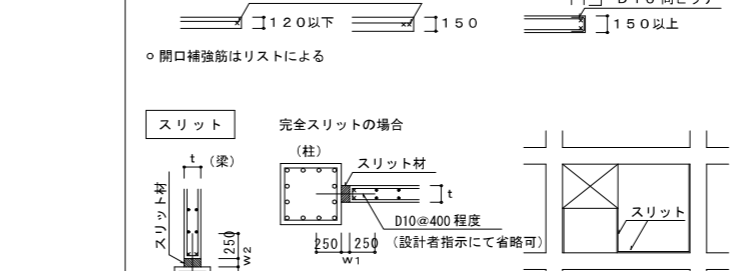
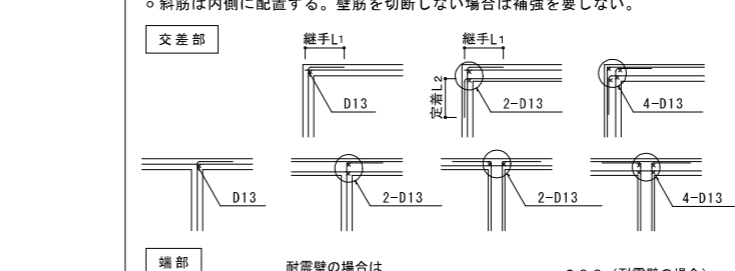
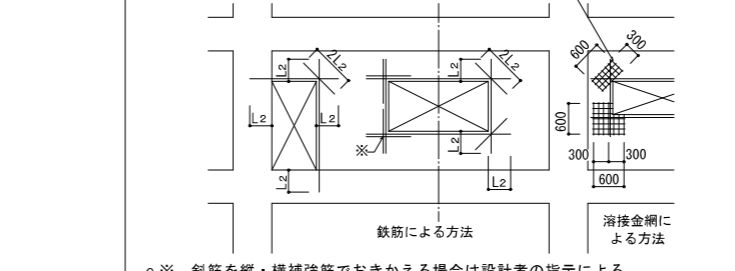
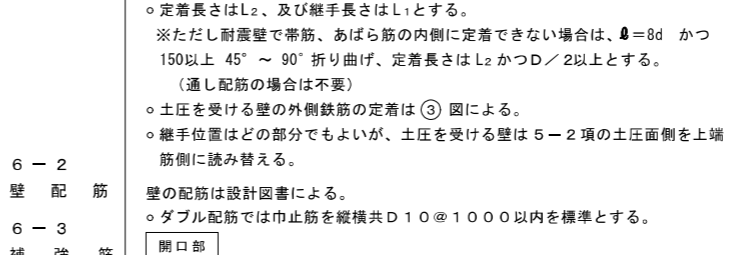
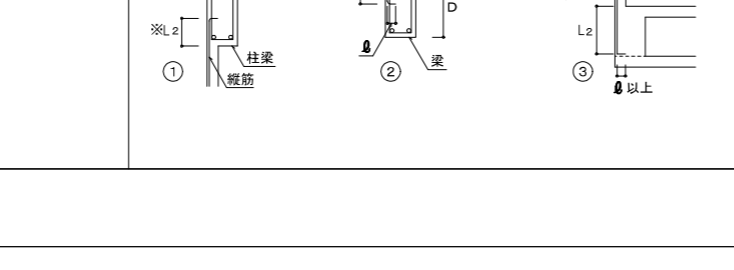
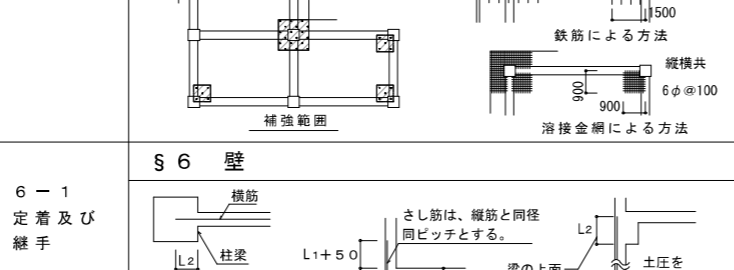
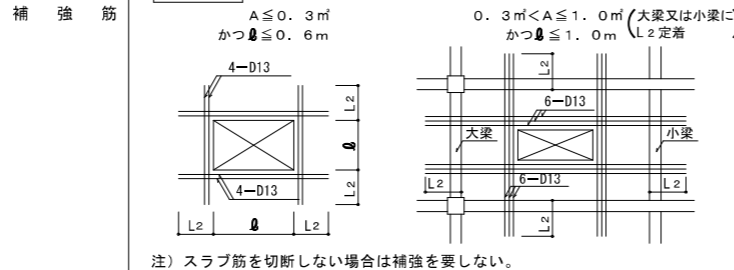
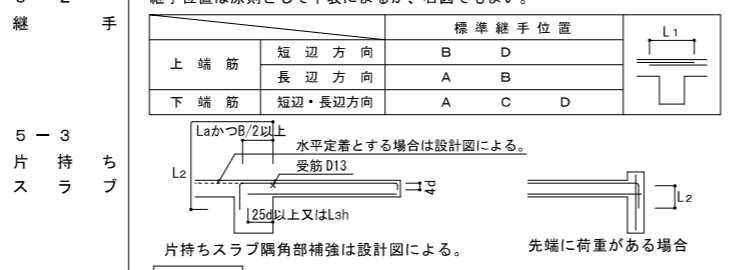
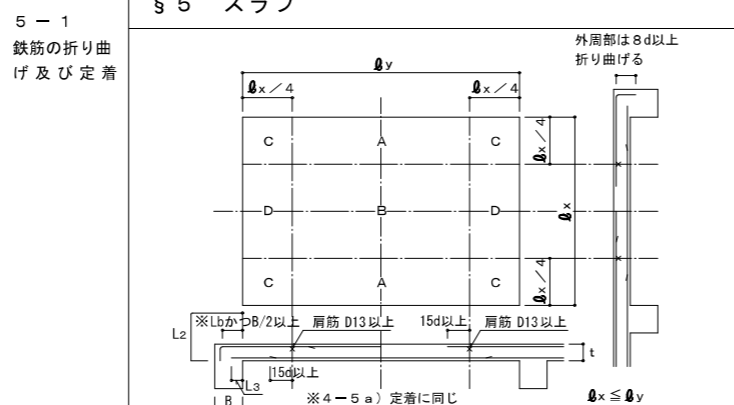
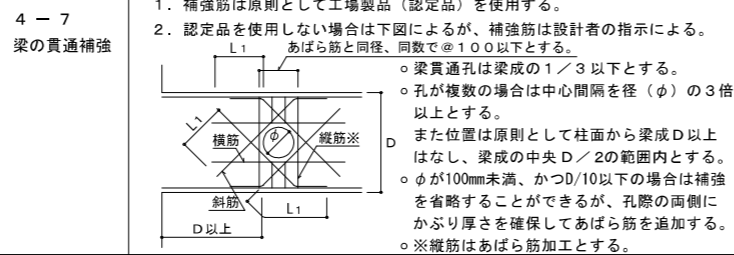
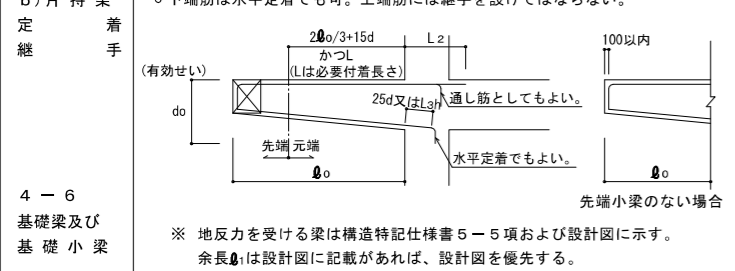
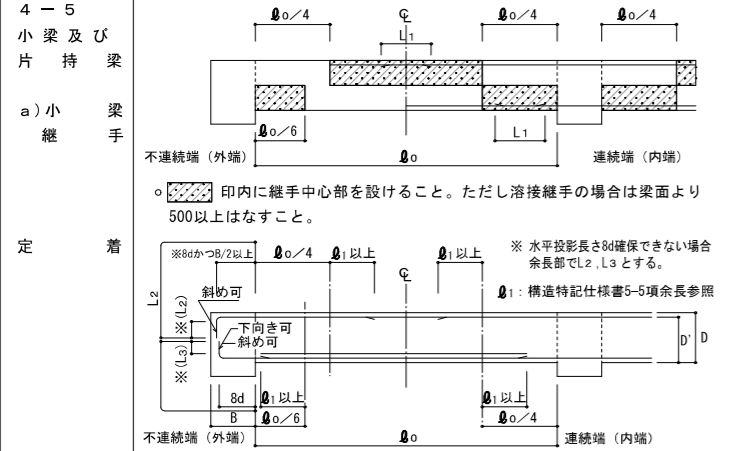
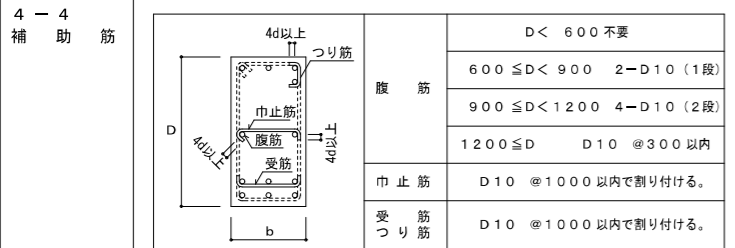
- 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- あばら筋の加工は下図①又は⑧による。
- ②③⑤⑥⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
- ⑨⑩は梁成の大きい場合、①はピッチ2pで交互配置とする。
- 135°フックは180°フックでも可とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。



- ⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
- ※ 柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会
2022年2月1日作成

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2022年度版



§ 1 一般事項
1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。...

§ 2 共通事項
・AB アンカーボルト
・BH 組立てH形鋼
・BH チェッカープレート
・CHL チェッカープレート
・FB フラットバー
・FR フランジプレート
・HTB 高力ボルト
・SL スプライスプレート
・WR ウェブプレート

§ 3 ボルト接合
ボルトの長さ
呼び径 M16, M20, M22, M24
締付け長さに加える長さ
F8T, F10T, S10T
締付け長さ
座金厚さ
ナット高さ
余長(ねじ山1~6)

Table with 4 columns: 呼び径, M16, M20, M22, M24. Rows include 孔径, ピッチ (標準, 最小), はしあき, 最小縁端距離 (せん断線, 手動ガス切断線, 圧延線, 自動ガス切断線等).

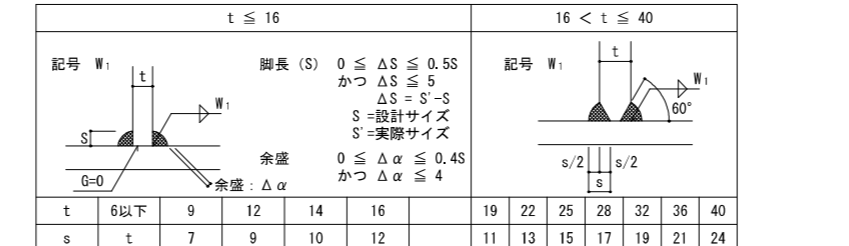
Table with 3 columns: 形鋼のゲージ, B, G1, G2. Rows include 最大軸径 for various beam sizes (50, 60, 65, 70, 75, 80, 90, 100, 125, 130, 150, 175, 200).

4-1 隅肉溶接

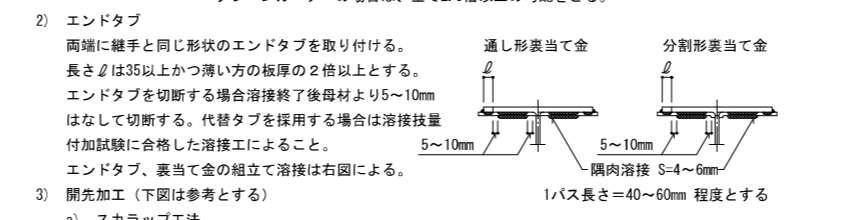
4-2 完全溶込み溶接 (突合せ溶接)

4-3 部分溶込み溶接

§ 4 溶接接合



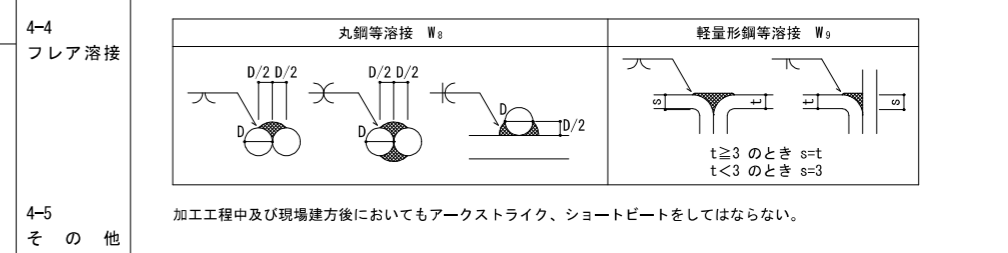
断続隅肉溶接の長さ L
1) 板厚の異なる場合 (通しダイヤフラムは除く)
2) エンドタブ
3) 開先加工 (下図は参考とする)



4) 開先形状
小文字は管理許容差 () は限界許容差を示す
※十分な品質管理を行う

Table with 4 columns: 記号, 形状, 適用板厚, 寸法. Rows include W2, MC-BL-B1, MC-BL-2, MC-BK-2, and WS.

Table with 2 columns: 片面溶接 W6, 両面溶接 W7. Rows include dimensions t, D, and s.



4-4 フレア溶接
4-5 その他

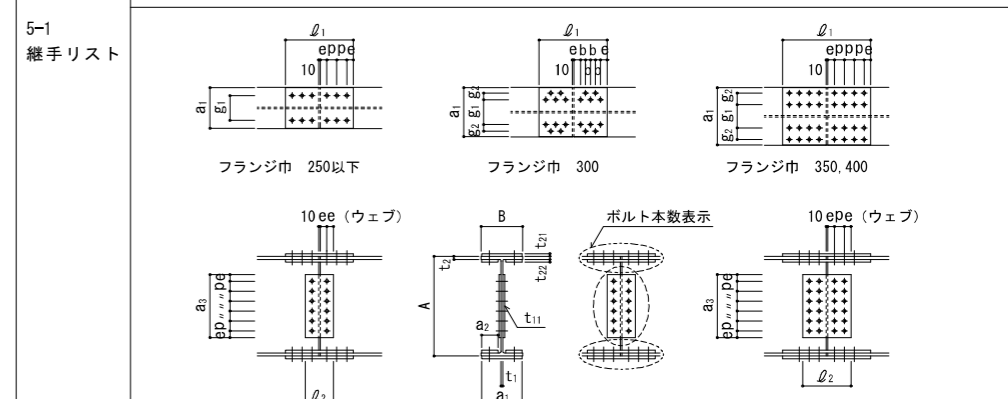
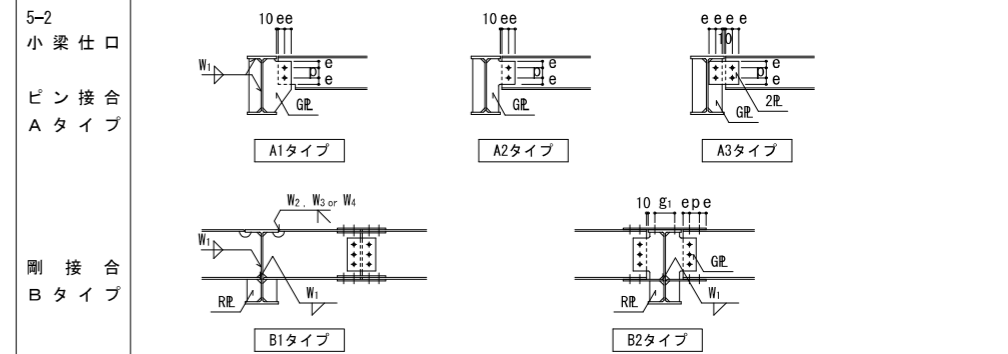


Table with 5 columns: 材種, 主材, 高力ボルト径, フランジ (ボルト総本数, 外側添板, 内側添板), ウェブ (ボルト総本数, 添板). Rows include MC-BL-B1, MC-BL-2, MC-BK-2, WS.

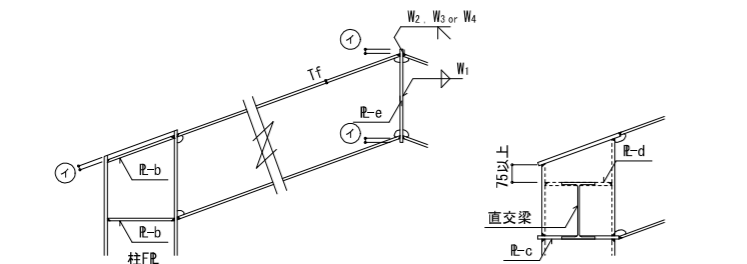
1. フランジE面もしくはウェブE面で、段差1mmを超える場合は、フィラーEを入れて調整すること。
2. a3は原則として梁成の2/3以上確保すること。



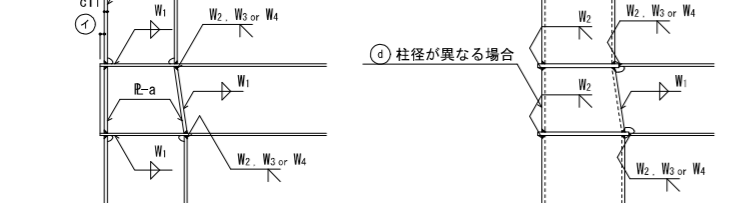
1. GR, RLは材種、版厚とも小梁のWEと同等級以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

§6 柱梁接合部及び継手

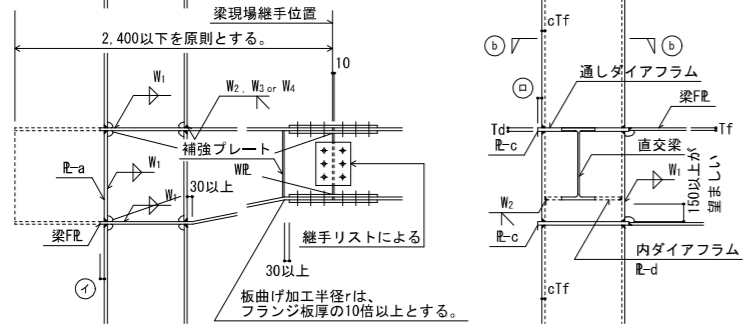
6-1
勾配屋根



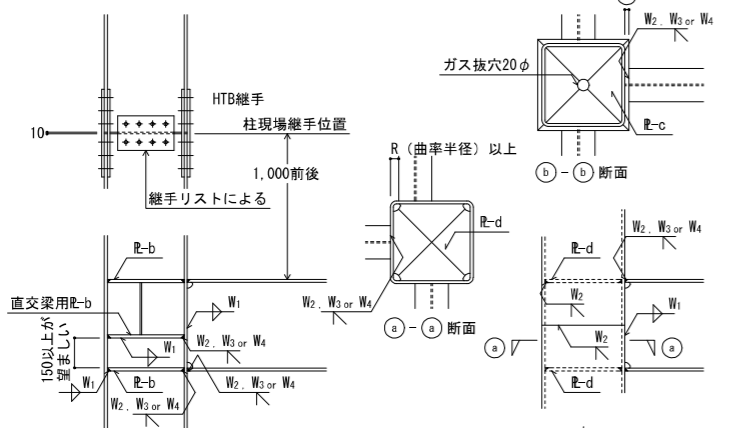
6-2
梁通し



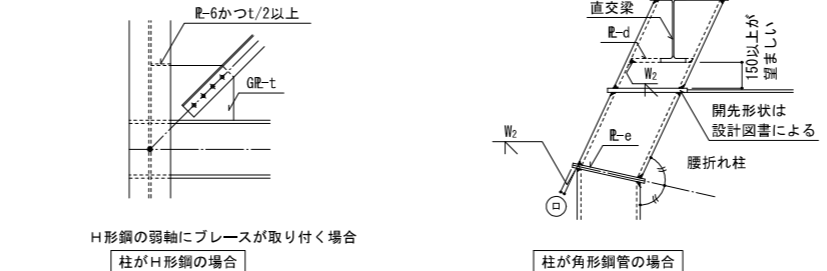
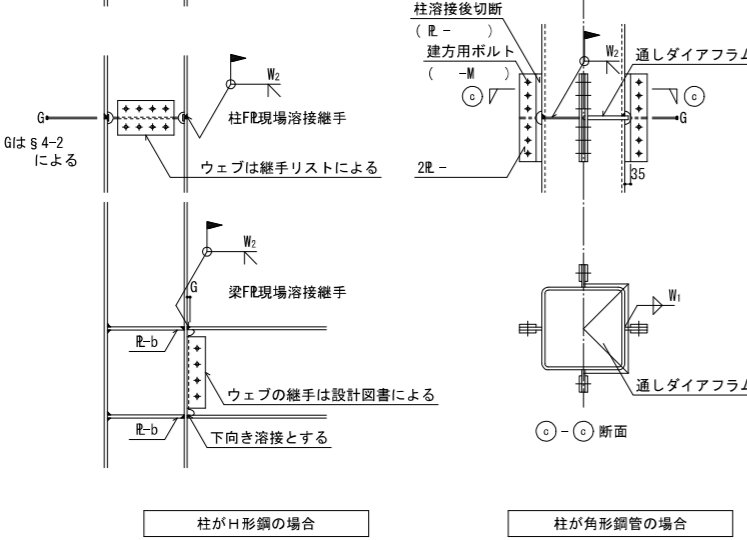
6-3
仕口と継手



6-4
柱通し



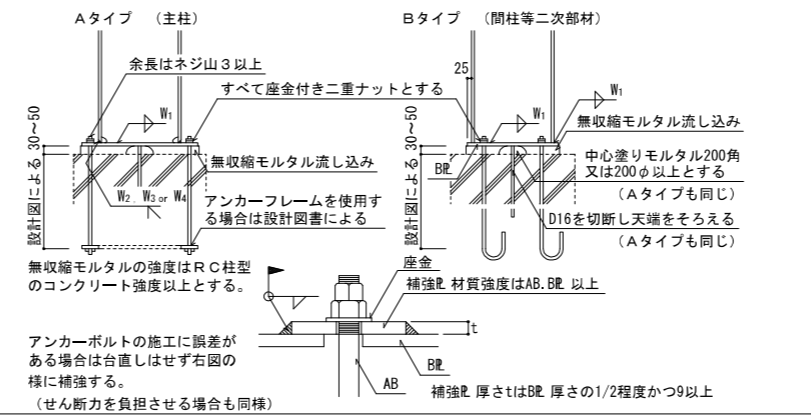
6-5
現場溶接継手



- H形鋼の弱軸にブレースが取り付け場合
柱がH形鋼の場合
- 柱が角形鋼管の場合
- パネルゾーンのRの厚さ
 - 1. R-a (鉛直スチフナ) 上下柱のFRの厚い方より1サイズUP以上
 - 2. R-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大FRより1サイズUP以上
 - 3. R-c (通しダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大FRより2サイズUP以上かつ柱のFR以上
 - 4. R-d (内ダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大FRより2サイズUP以上
 - 5. R-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFRより1サイズUP以上
 - 出寸法
 - ① 25mmかつcTf以上
 - ② cTf ≤ 25の場合 25
 - cTf ≥ 28の場合 30
 - 注記
 - ダイヤフラムの材質は特記仕様による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 - ④(6-2項)上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
 - ハンチ部でFRを折曲げる場合はR ≥ 10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 - ダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイヤフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 - 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

§7 柱脚

7-1
一般柱脚



§8 壁面ブレース

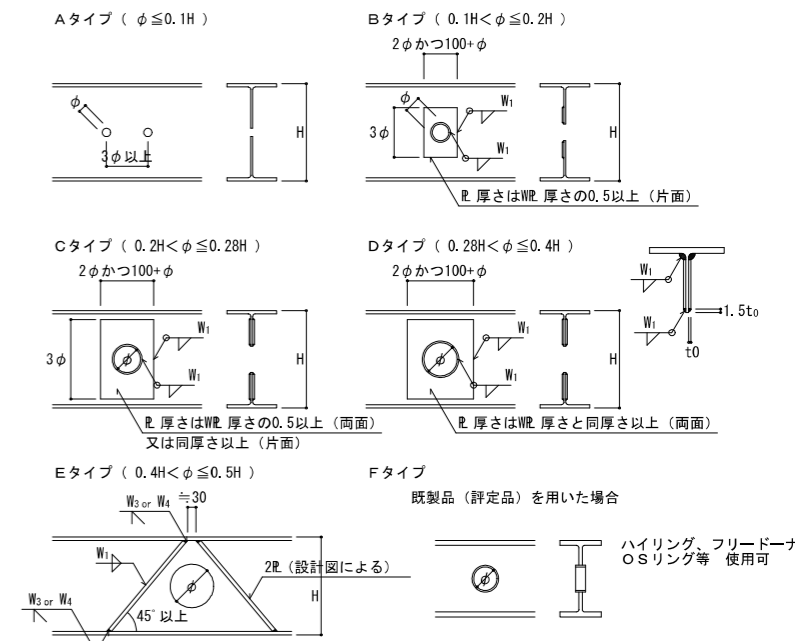
8-1
ブレースリスト

符号	部材	高力ボルト		GR		溶接	
		径	本数	t	ℓe	脚長	Σℓ

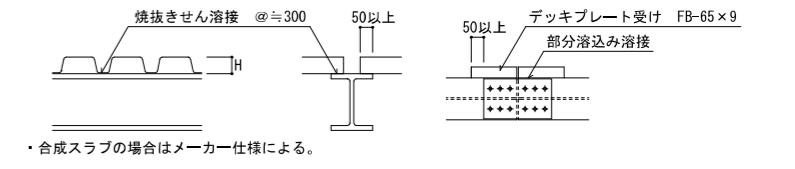
- GRの最小幅ℓeが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
- 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
- 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§9 その他

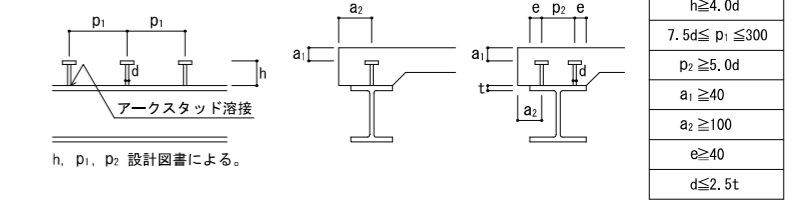
9-1
貫通補強



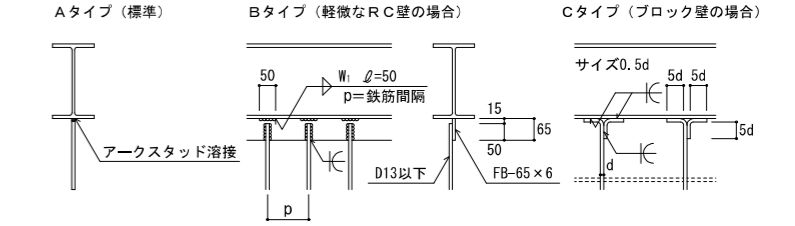
9-2
デッキプレート



9-3
スタッドジベリ



9-4
壁筋の溶接



ニューフェローデッキ 設計標準仕様書 (鉄筋トラス付捨て型枠床版工法) 株式会社 富士昭技研

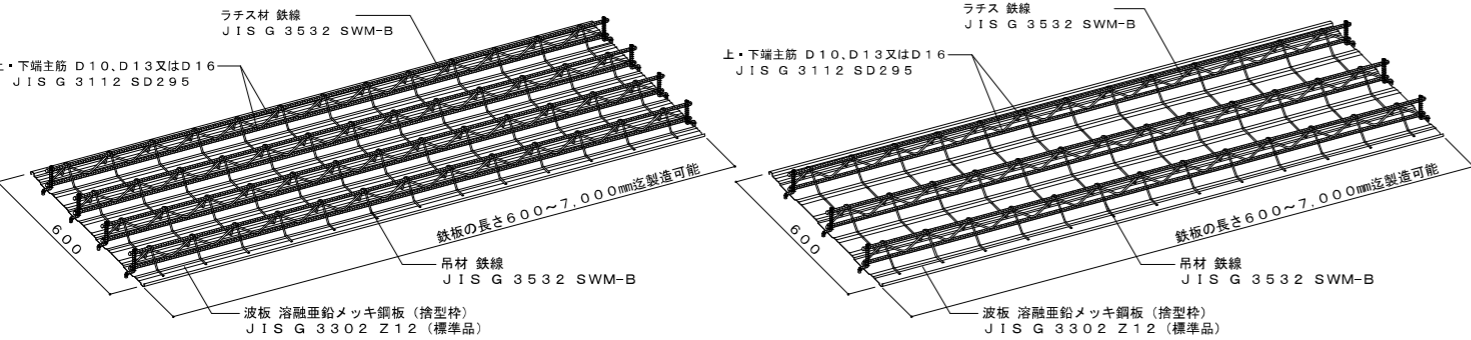
標準納まり図<S造>

株式会社 富士昭マテック
 本社：大阪本店 〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前1丁目4番12号 (大阪天神橋ビル3階)
 東京本店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目3番7号 (近江金館ビル4階)
 名古屋支店 〒460-0008 愛知県名古屋市中区東2丁目13番1号 (名古屋ハークレイス4階)
 九州支店 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅1丁目6番8号 (1Tビル6階)

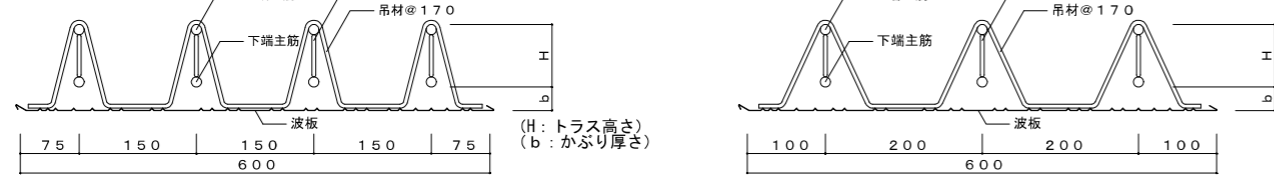
1. 工法の概要

本構造は、上端主筋と下端主筋の両者をつなぐラチス材および吊材、波板で構成するニューフェローデッキに、必要な現場施工部材を設置し、コンクリートを打設することにより、コンクリート硬化後ニューフェローデッキの上端主筋および下端主筋とコンクリートが一体となるスラブである。
 本工法特性：下端定着筋及び下端配筋を設けない工法として日本建築総合試験所建築技術性能証明を取得。
 (日本建築総合試験所：GBRC性能証明 第22-12号)

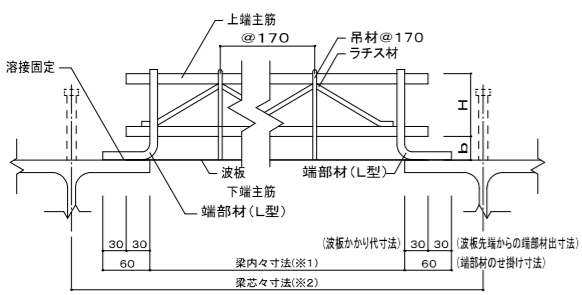
2. 形状と材質



3. 断面図



4. 標準納まり図



(※1) 仮設時許容スパンは、梁内～内間とする。
 (※2) 本設時許容スパンは、梁芯～芯間とする。

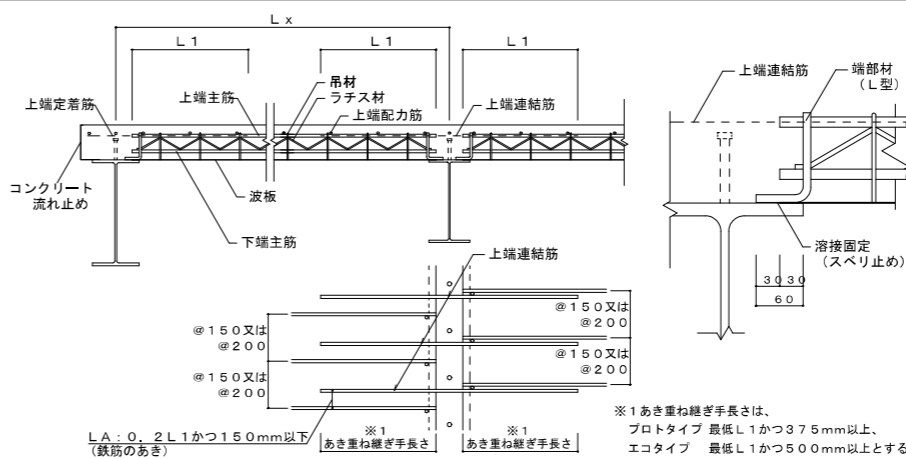
5. 施工手順及び留意事項

- 搬入・荷揚げ・仮置**
 - 搬入は、当該現場の工区、工程に応じて作成された荷姿図および合番図と、積荷を照合し、施工計画に従って行う。
 - 荷揚げは、現場クレーンに応じ、専用の用具等を用いて4点吊りにて行うものとする。専用の用具には、トラックから地面に荷下ろしするものと、躯体(上部)に荷揚げするものがある。その際波板、吊材等ニューフェローデッキの部材を変形、破損させないよう注意する。
 - 仮置きする場合は、端部材のかり代を確認するとともに、風散養生を十分にを行い、ニューフェローデッキ梱包および副資材の落下を防止
- 敷込み・加工・固定**
 - 敷込みは、割付け計画に従ってあらかじめ墨出しを行い、所定の位置に不陸を生じないように注意して敷込む。
 - デッキのかり代については下の表に示す
- 留意事項**
 - トラス筋は施工時の支保工の役目を持つ構造材である為、部材の切断はしないこと。
 - 設備・配管工事の為、コン打以前に切断の必要がある場合は事前に対応策を設けること。
 - 開口部は、大きさにより定められた補強筋を配筋すること。
 - 仮設時有効スパンを超える場合は、必ず適切な位置に仮設サポートを設けること。

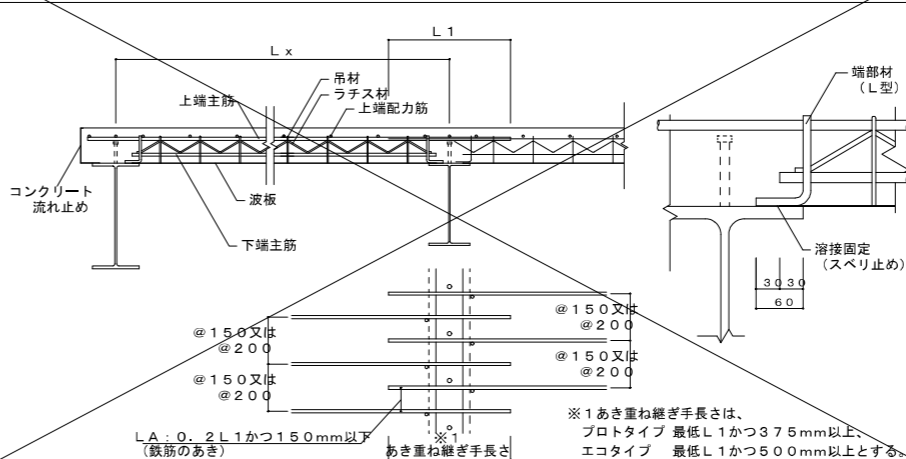
S造	
波板のかり代	評定基準 標準設定 30mm
施工安全上の 端部材かり代	評定基準 標準設定 30mm以上 60mm

※上記の寸法で納まらない場合は、施工者と協議の上決定する。
 ・加工は、柱廻りや梁継手部分の切り欠き加工を行い、端部材を切断した場合には、所定の位置に新たに端部材をアーク溶接にて取り付け直す。

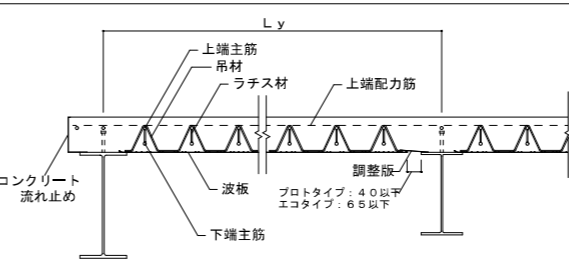
主筋方向納まり図- (1) ニューフェローデッキ標準品



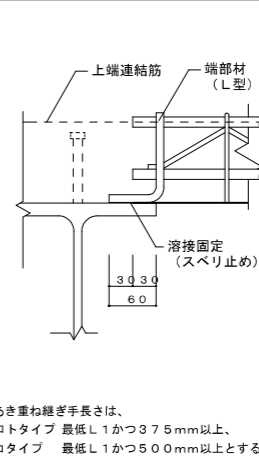
主筋方向納まり図- (2) ニューフェローデッキソノ出し品



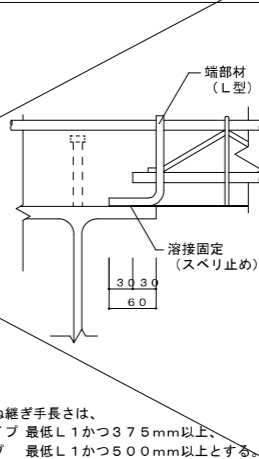
配筋方向納まり図



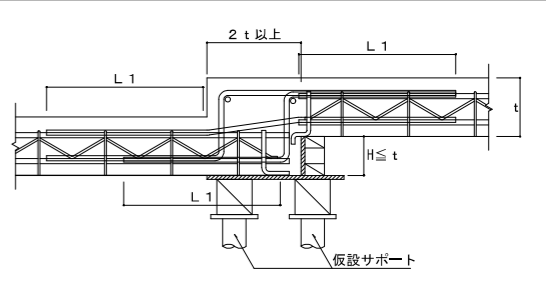
主筋方向端部納まり詳細図



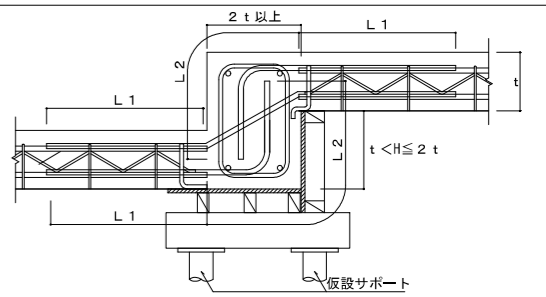
主筋方向端部納まり詳細図



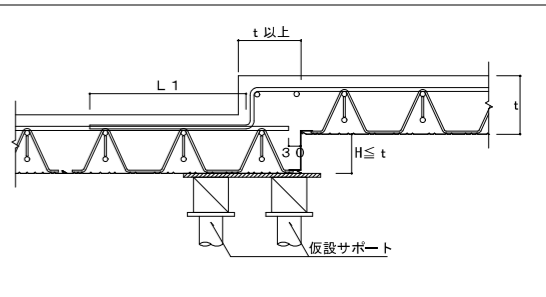
主筋方向段差納まり図<参考> 段差 (H) ≤ t



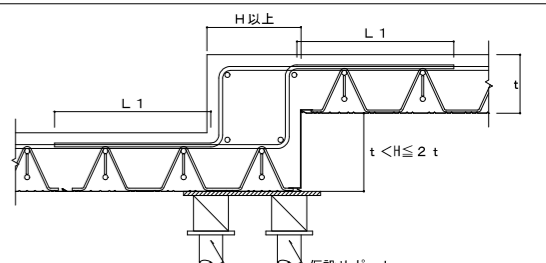
主筋方向段差納まり図<参考> t < 段差 (H) ≤ 2t



配筋方向段差納まり図<参考> 段差 (H) ≤ t



配筋方向段差納まり図<参考> t < 段差 (H) ≤ 2t



ニューフェローデッキ使用部分スラブリスト

符号	デッキタイプ	スラブ厚 増打ち厚	位置	短辺方向				長辺方向※1		備考	
				デッキ主筋	現場配筋		端部	中央部	端部		中央部
					連結筋・定着筋	追加補強主筋					
FDS1	EB80-110	150 0	上端筋 下端筋	D13 @ 200 D13 @ 200	D13 @ 200	---	---	D10 @ 200 D10 @ 200	D10 @ 200 D10 @ 200	※1 長辺方向上端の配筋については「通し配筋」を基本とする。 端部と中央部で鉄筋径・ピッチが異なる場合は『』内の配筋とする。	
FDS2	B100-130	175 150	上端筋 下端筋	D13 @ 150 D13 @ 150	D13 @ 150	---	---	D10 @ 170 D10 @ 170	D10 @ 170 D10 @ 170		
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								
			上端筋								
			下端筋								

ニューフェローデッキ開口補強要領

補強を行わない開口

開口幅・スリーブが小さく、主筋・配筋共に鉄筋の切断が無くかぶり確保出来る場合は補強しない。
 但し、吊り材は溶接部を含め、切断しないこと。
 吊り材・鉄筋を切断する場合は支保工を設置するなど、仮設計画を確実にを行い、開口の形状に応じた補強を行うこと。

連続する開口の補強

(補強筋のかぶりを確保出来る場合)
 [上筋下筋とも]
 主筋側補強筋
 切断した鉄筋と同径・同量

大開口の補強

開口幅・開口長さとも700を超える場合は、開口の位置・大きさにより各辺からの片持ちスラブ・3辺固定スラブとするなど、実状に応じた設計を行う。
 但し、トラス直交方向下部に配筋する場合は、施工時の作業性や開口部周辺のトラスの損傷防止を考慮して、D13以下の鉄筋を使用すること。

開口部の施工

ニューフェローデッキは仮設時にも構造材として機能している。従って、トラスの切断は開口の大きさに関わらず、開口部を箱抜きし、コンクリートの硬化後に行う。止むを得ずコンクリートの硬化前に切断する場合は、開口周辺を支保工等により補強し、切断及びコンクリートの打設を行うこととする。

一般的な開口補強 (開口幅 ≤ 700)

開口を包絡した大きさによって、開口幅700以下の開口に準じて補強を行う。

(補強筋のかぶりを確保出来ない場合)

開口を包絡した大きさによって、開口幅700以下の開口に準じて補強を行う。

ジョイント部分

デッキ受FB-6×50 (鉄骨工事)

梁上間柱部分

間柱、梁、ササラ等が梁に取り付き、掛かり代を確保出来ない場合はデッキ受けを設ける。

デッキ受FB-6×50 (鉄骨工事)

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度	重ね継手長さ		
		L1	L2	Lb
SD295	18	45 d 直線又は35 d フック付き	40 d	15 d
	21	40 d 直線又は30 d フック付き	35 d	15 d
	24~36	35 d 直線又は25 d フック付き	30 d	15 d
	39~60	30 d 直線又は20 d フック付き	25 d	15 d

※ただし、軽量コンクリートの場合は表の長さ+5dとする。
 ※(注) 本表は、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事 (2018年版)」に準拠したものであり、本物件の設計図書(構造標準図、仕様書等)が上表と異なる場合は本物件の仕様を優先する。

ボーリング柱状図

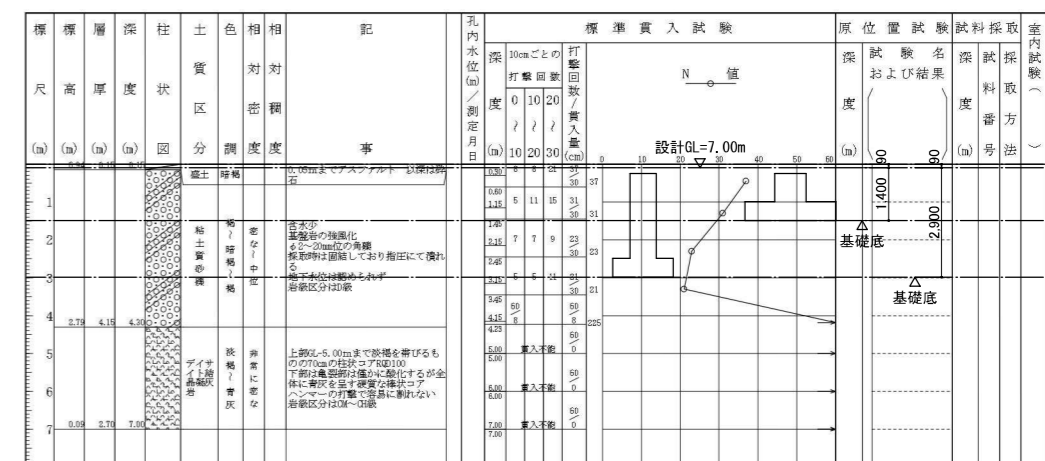
調査名 相生専門学校建設工事基本設計等業務

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	兵庫県相生市旭二丁目19番19号	北緯	34°48'11.39"
発注機関		調査期間	令和3年12月23日～3年12月24日	東経	134°28'19.10"
調査業者名	有限会社 明和技研 電話(078-914-5757)	主任技師	岡島 明宏	現代理人	コア 岡島 明宏
ボーリング責任者		ボーリング責任者	小谷 達也		
孔口標高	H=7.09m	角	180°	方	北 0° 東 90° 西 270°
総掘進長	7.00m	度	上 0° 下 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
試験機	KR50HCW	ハンマー落下用具	半自動モンケン		
エンジン	ヤンマーNFAD9	ポンプ	V6		



ボーリング柱状図

調査名 相生専門学校建設工事基本設計等業務

ボーリングNo.

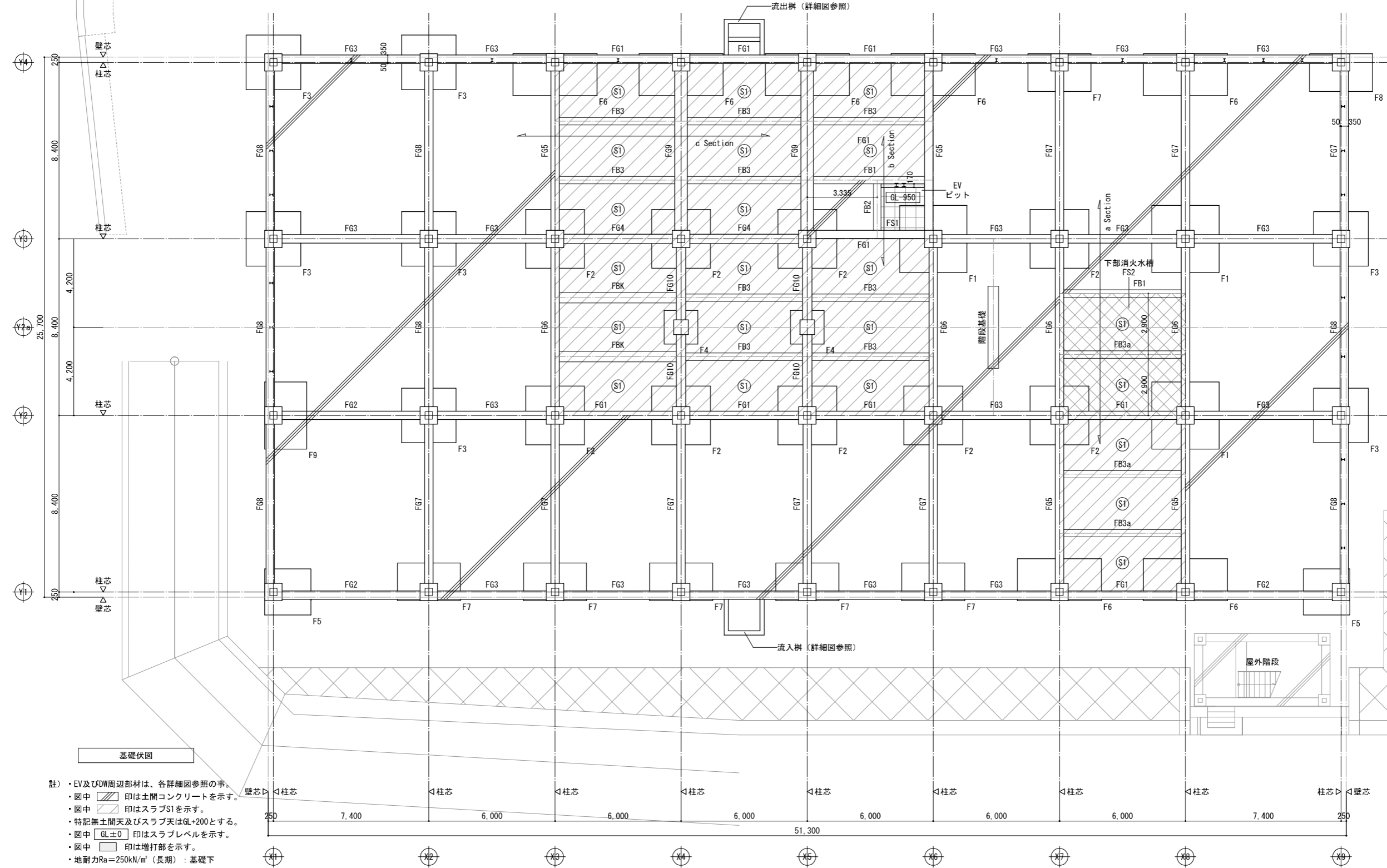
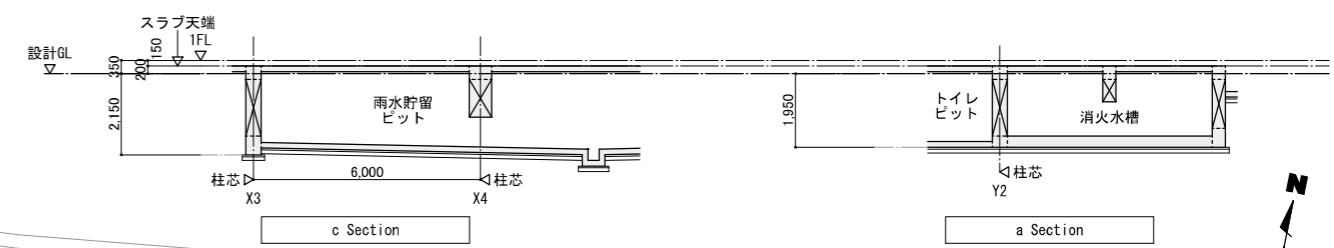
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.3	調査位置	兵庫県相生市旭二丁目19番19号	北緯	34°48'11.31"
発注機関		調査期間	令和3年12月24日～3年12月25日	東経	134°28'17.92"
調査業者名	有限会社 明和技研 電話(078-914-5757)	主任技師	岡島 明宏	現代理人	コア 岡島 明宏
ボーリング責任者		ボーリング責任者	小谷 達也		
孔口標高	H=7.09m	角	180°	方	北 0° 東 90° 西 270°
総掘進長	4.00m	度	上 0° 下 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
試験機	KR50HCW	ハンマー落下用具	半自動モンケン		
エンジン	ヤンマーNFAD9	ポンプ	V6		

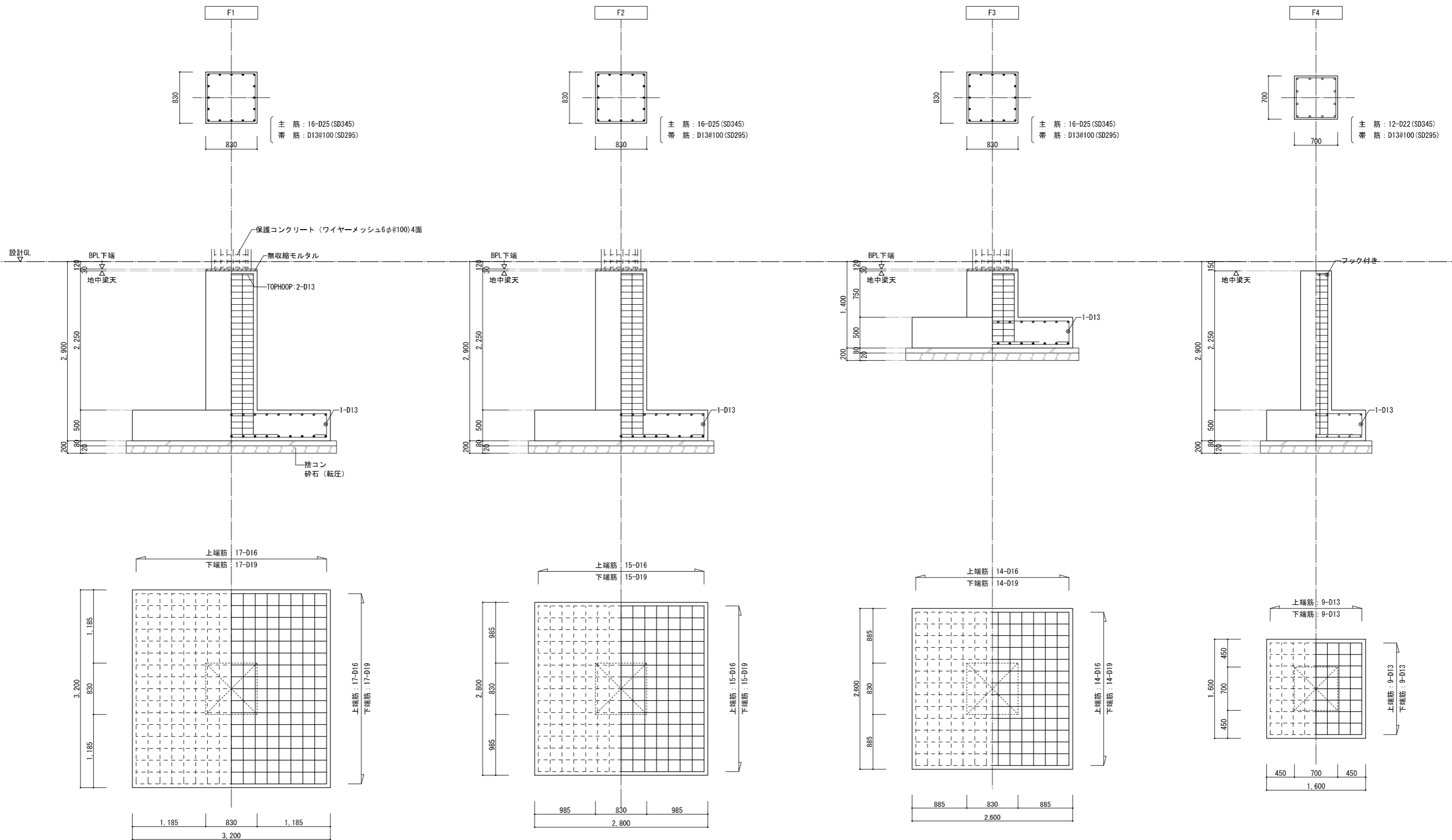


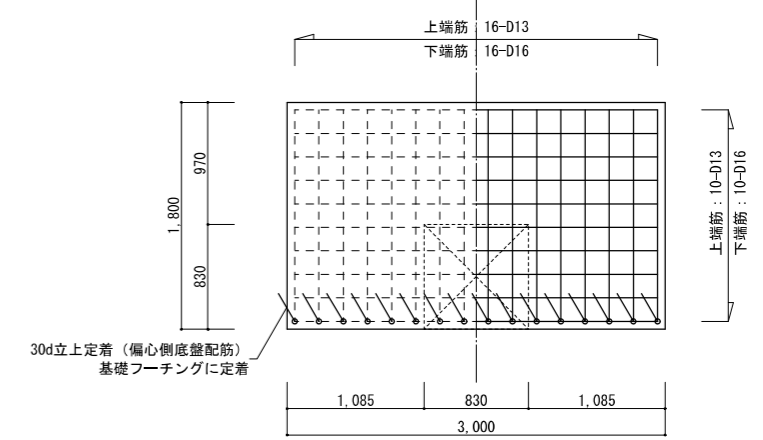
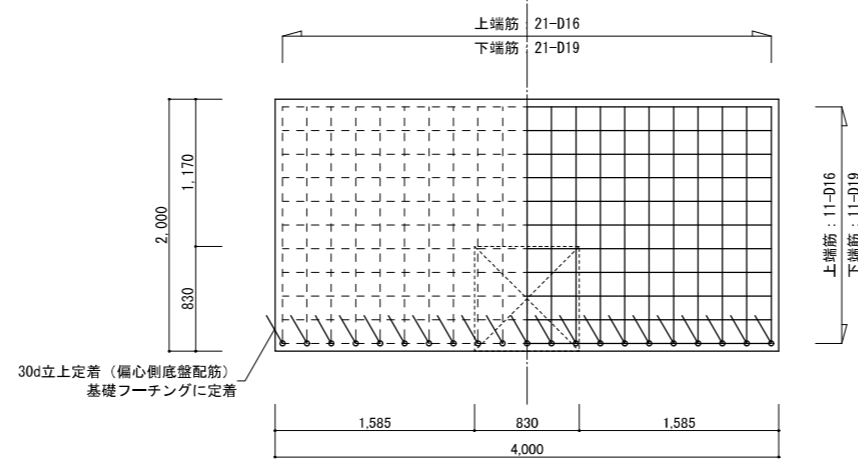
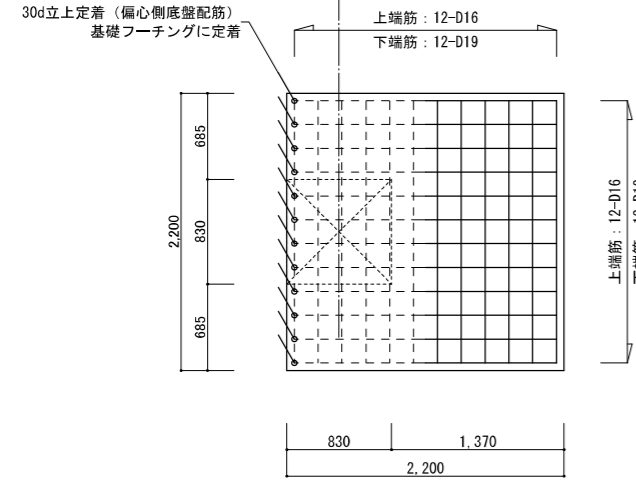
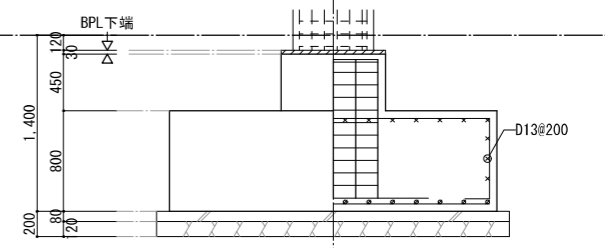
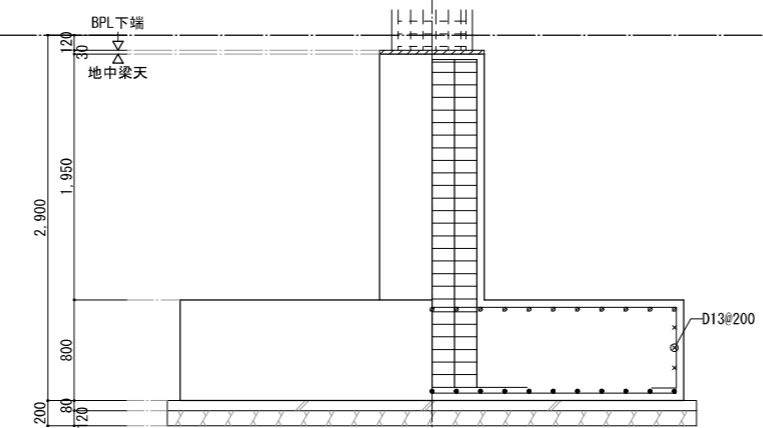
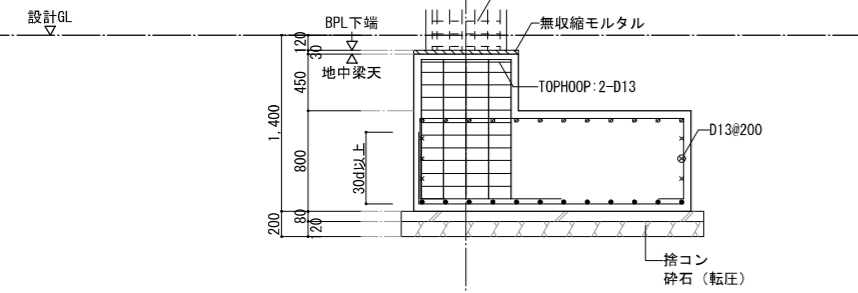
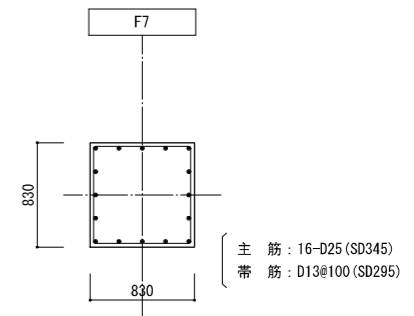
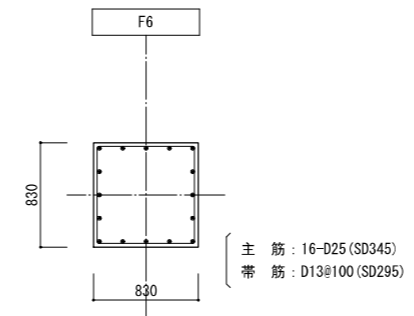
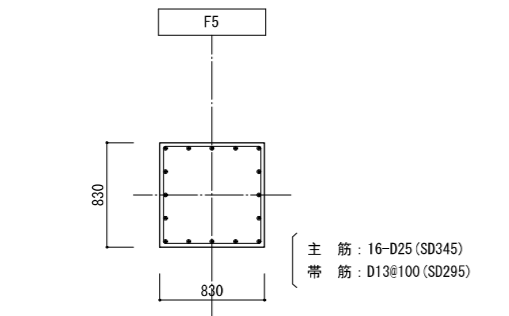
◆ ボーリング位置



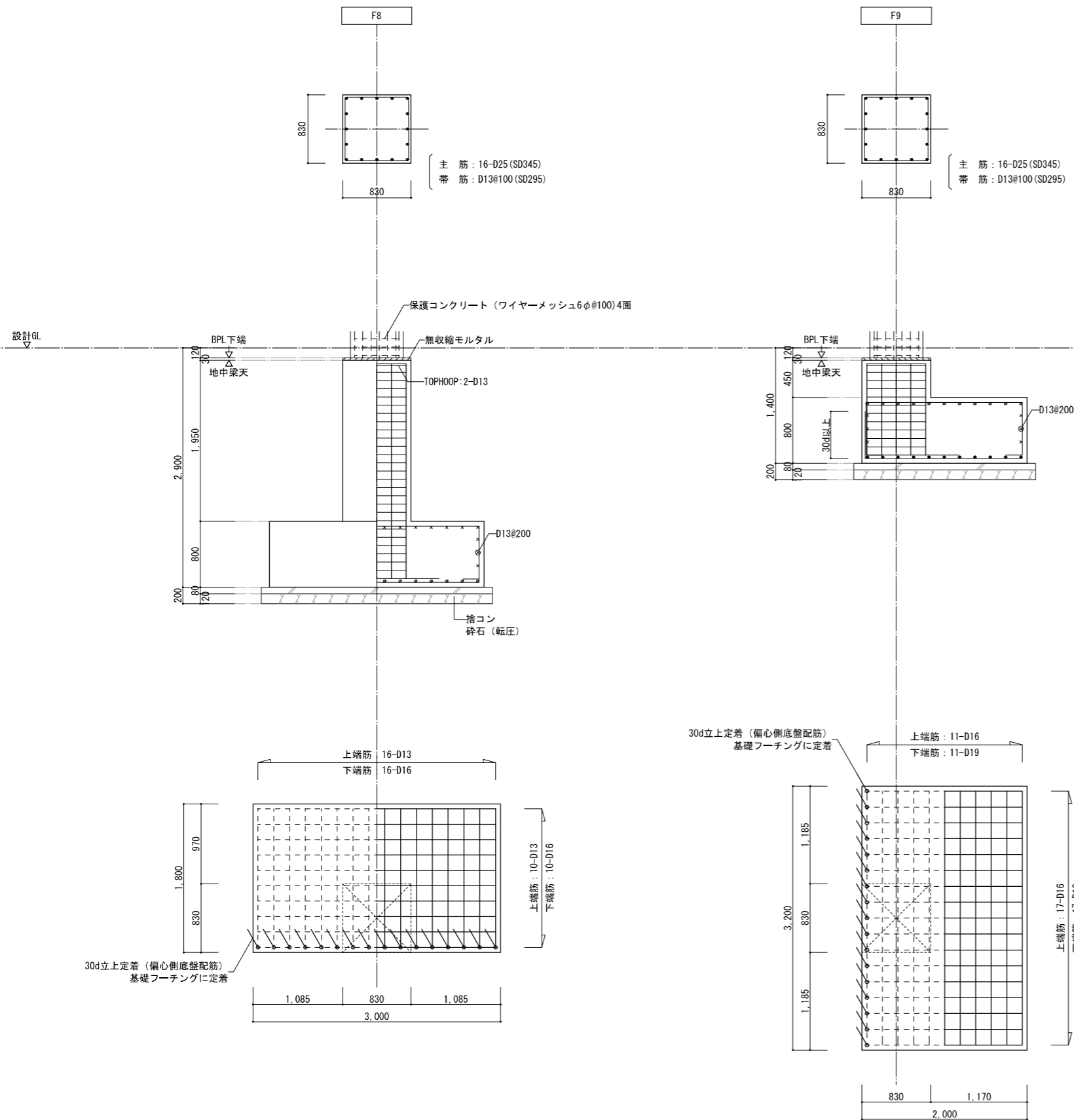
基礎伏図

- 註) ・EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・図中 印は土間コンクリートを示す。
 ・図中 印はスラブS1を示す。
 ・特記無土間天及びスラブ天はGL+200とする。
 ・図中 印はスラブレベルを示す。
 ・図中 印は増打部を示す。
 ・地耐力Ra=250kN/m²(長期)：基礎下





註) ・基礎偏心方向は基礎伏図による。

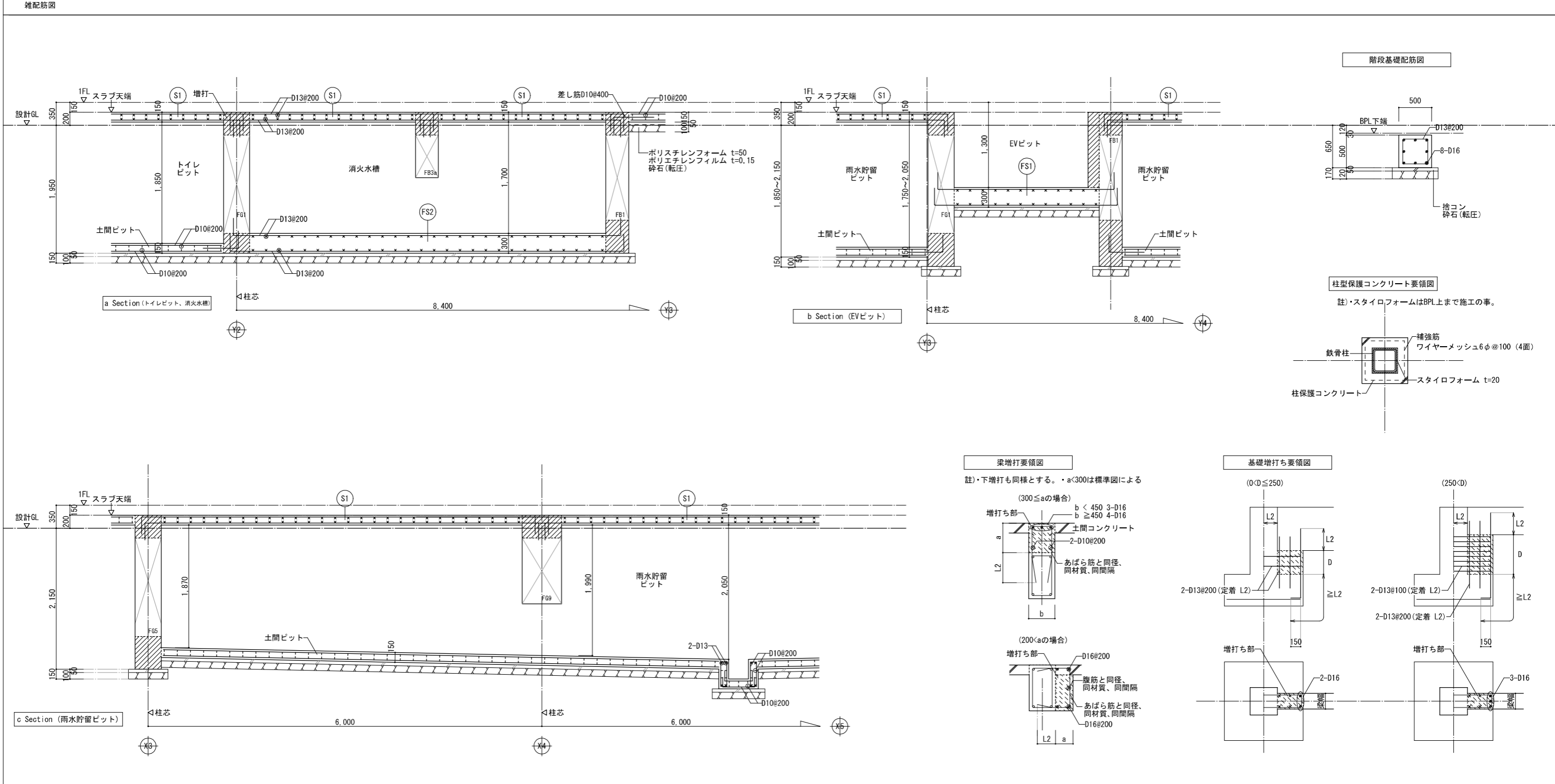


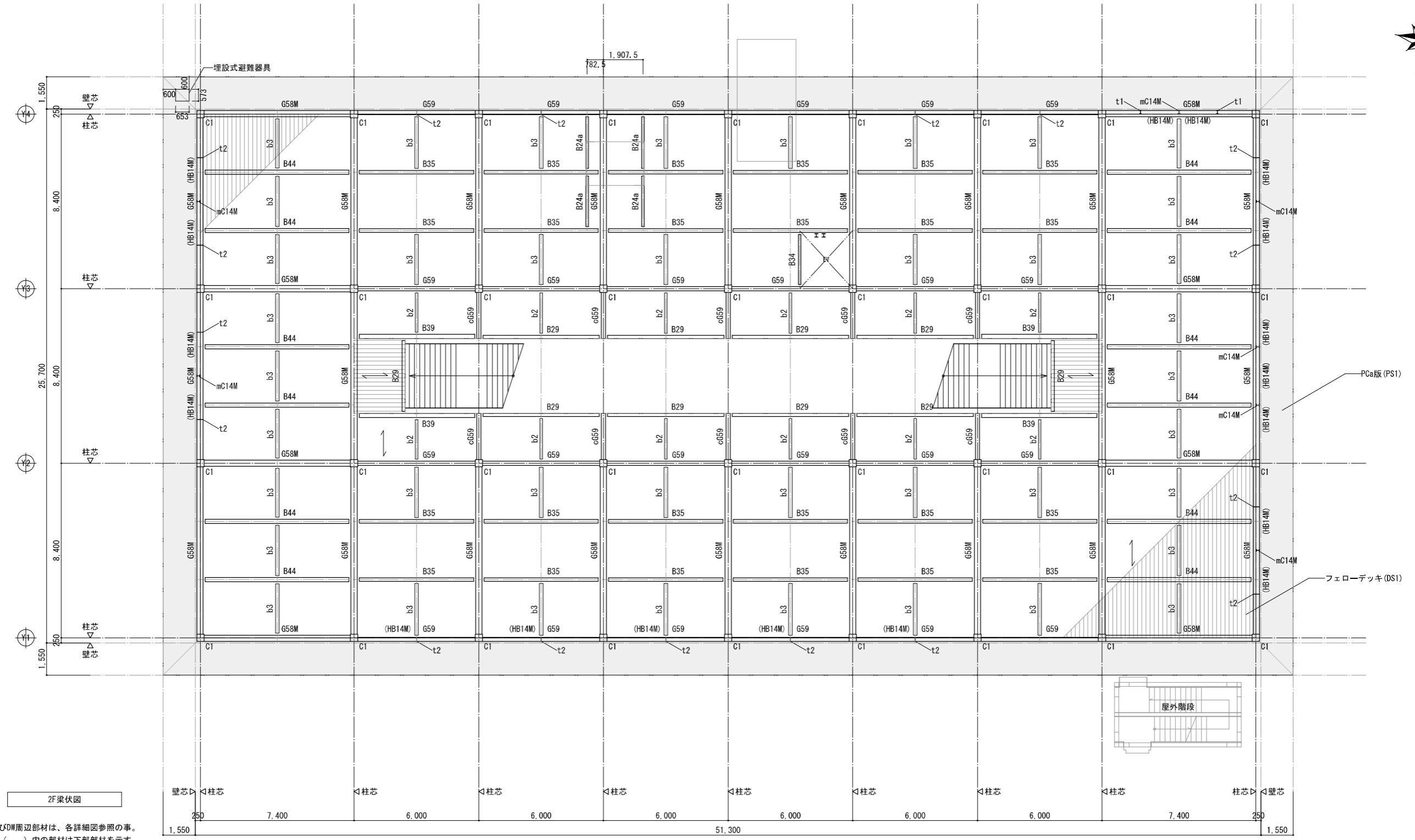
註)・基礎偏心方向は基礎伏図による。

符号	F61	F62	F63	F64		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面		
断面						
b × D	400 × 1,500	400 × 1,200	400 × 800	450 × 600		
上端筋	3+1 - D25	3+3 - D32	3+1 - D25	4+2 - D25		
腹筋	10 - D10	8 - D10	4 - D10	2 - D10		
下端筋	3+1 - D25	3+3 - D32	3+1 - D25	4+2 - D25		
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200		
符号	F65	F66	F67	F68	F69	F610
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面						
b × D	400 × 1,500	400 × 1,500	400 × 1,200	400 × 800	600 × 1,000	450 × 600
上端筋	3+2 - D32	3+1 - D25	3+3 - D32	3+1 - D25	6+6 - D32	4+2 - D25
腹筋	10 - D10	10 - D10	8 - D10	4 - D10	6 - D10	2 - D10
下端筋	3+2 - D32	3+1 - D25	3+3 - D32	3+1 - D25	6+6 - D32	4+2 - D25
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	3-D13 @200	2-D13 @200
符号	FB1	FB2	FB3	FB3a	FBK	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断面						
b × D	350 × 1,300	350 × 800	350 × 600	350 × 650	500 × 600	
上端筋	3 - D22	3+2 - D22	3+2 - D22	3+2 - D22	4 - D22	
腹筋	8 - D10	4 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10	
下端筋	3+2 - D22	3+2 - D22	3+2 - D22	3+2 - D22	4 - D22	
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	

スラブリスト (註)・スラブは地中梁に定着の事。ただし地中梁増打部に取り付く場合は増打部に定着としても良い。

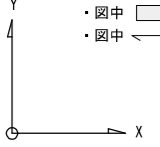
符号	S1	FS1	FS2
断面			
主筋 (短辺方向)	上端筋 D13@200 下端筋 D13@200	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200
配力筋 (長辺方向)	上端筋 D13@200 下端筋 D13@200	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200

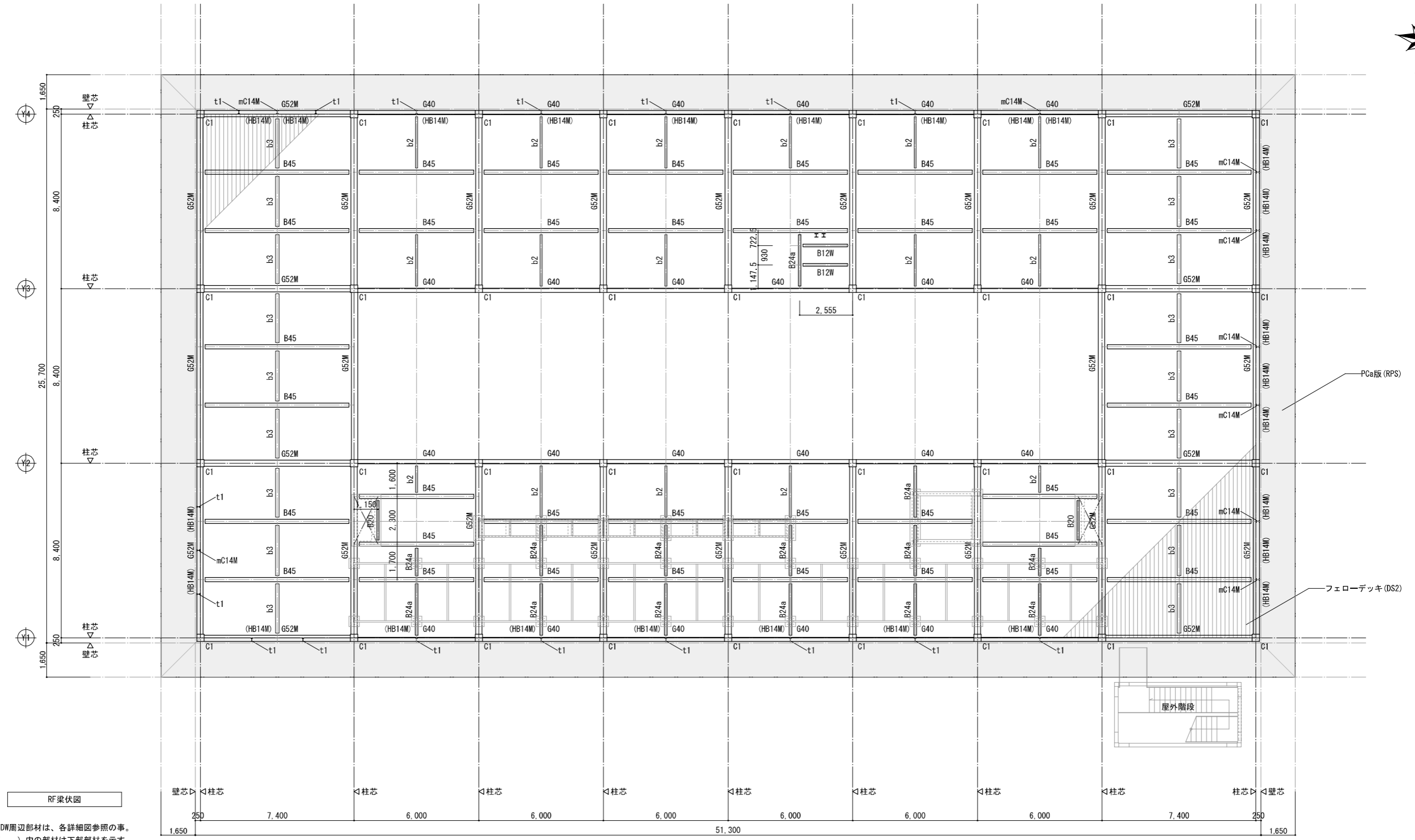





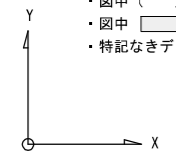
2F梁伏図

- 註) ・EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・図中 () 内の部材は下部部材を示す。
 ・図中 印はPCa版PS1を示す。
 ・図中 印はデッキスラブ主筋方向を示す。





註) ・EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
・図中 () 内の部材は下部部材を示す。
・図中  印はPc版RPSを示す。
・特記なきデッキスラブの主筋方向はY方向とする。



相生市看護専門学校建設工事設計図

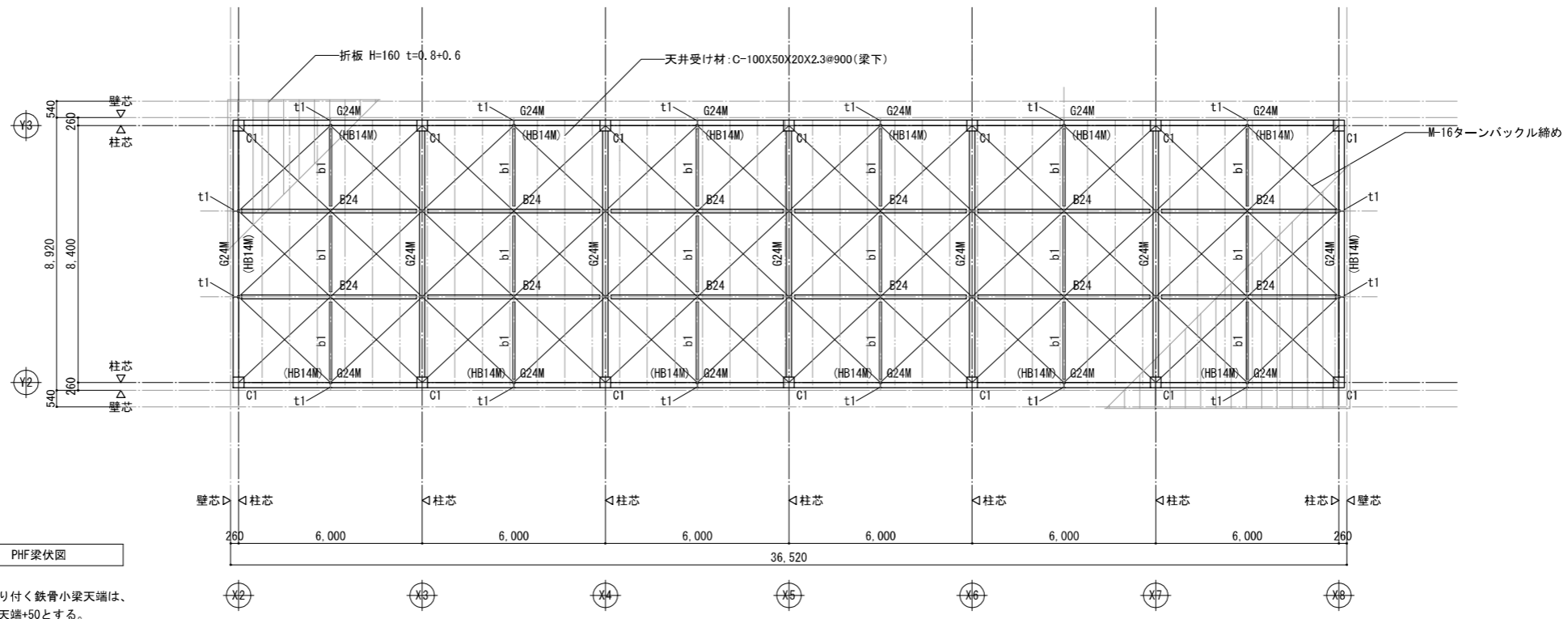
RF梁伏図 西暦 令和 6 年 1 月 SCALE S=1:100 (A1) S=1:200 (A3)

株式会社 小西建築設計事務所

一般建築士事務所
兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 龍機
一般建築士登録 第21567号 構造設計一般建築士 第2702号

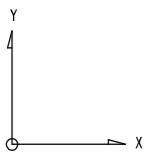
2024/2/6

PrjNo
Drawn S-016



PHF梁伏図

- ・折板の取り付け鉄骨小梁天端は、鉄骨大梁天端+50とする。
- ・EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
- ・図中 () 内の部材は下部部材を示す。



相生市看護専門学校建設工事設計図

PHF梁伏図

令和 6 年 1 月

SCALE S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

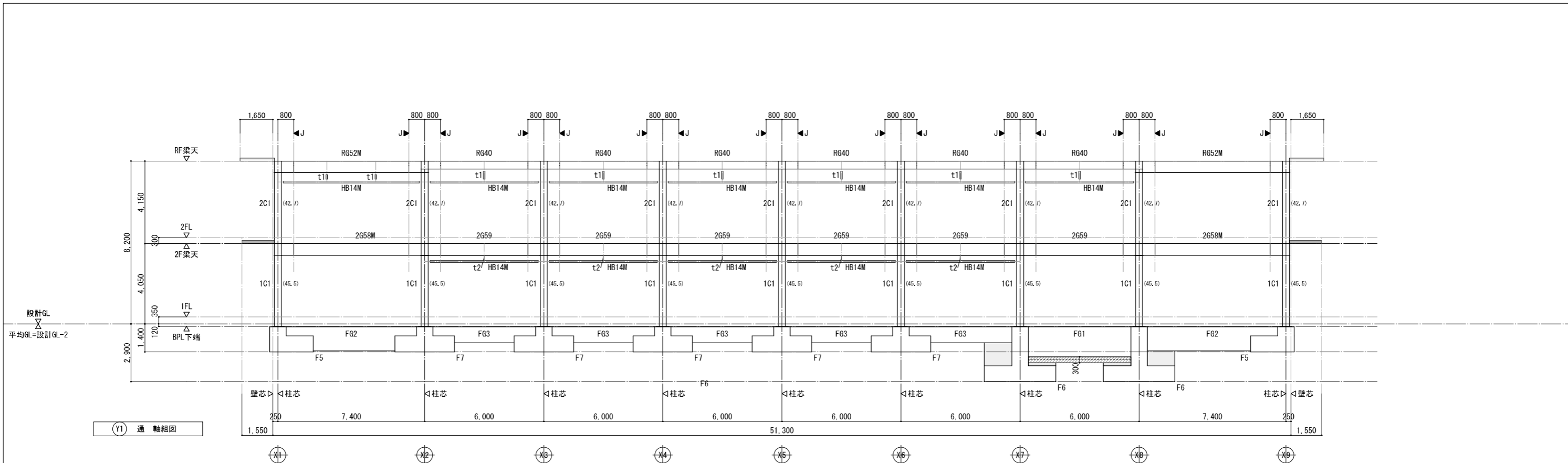
株式会社小西建築設計事務所

一般建築士事務所
兵庫県小野市上本町135-10小西ビル 小西 能機
一般建築士登録 第81567号 構造設計一般建築士 第2702号

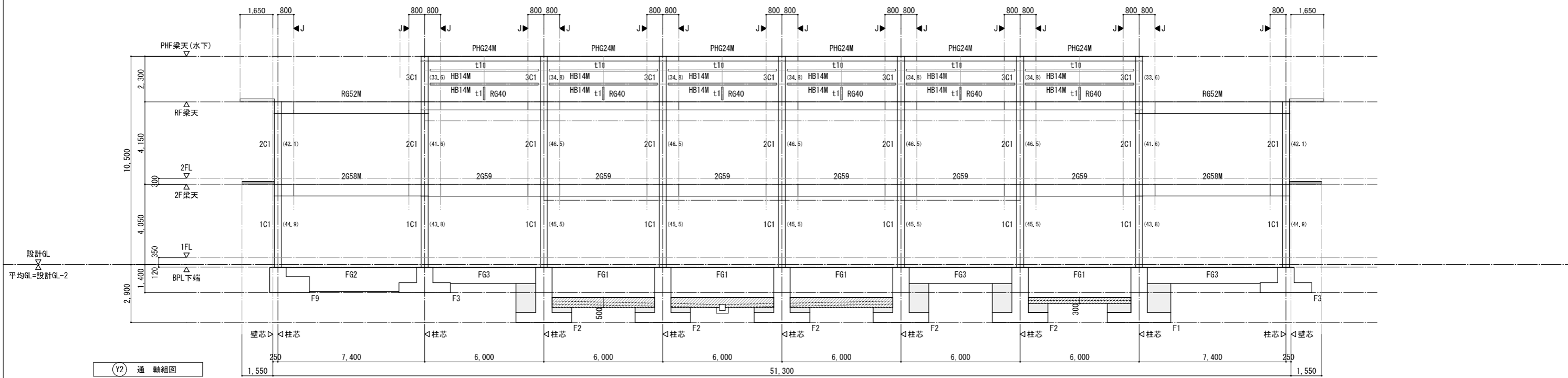
PrjNo

Drawn S-017

2024/2/6

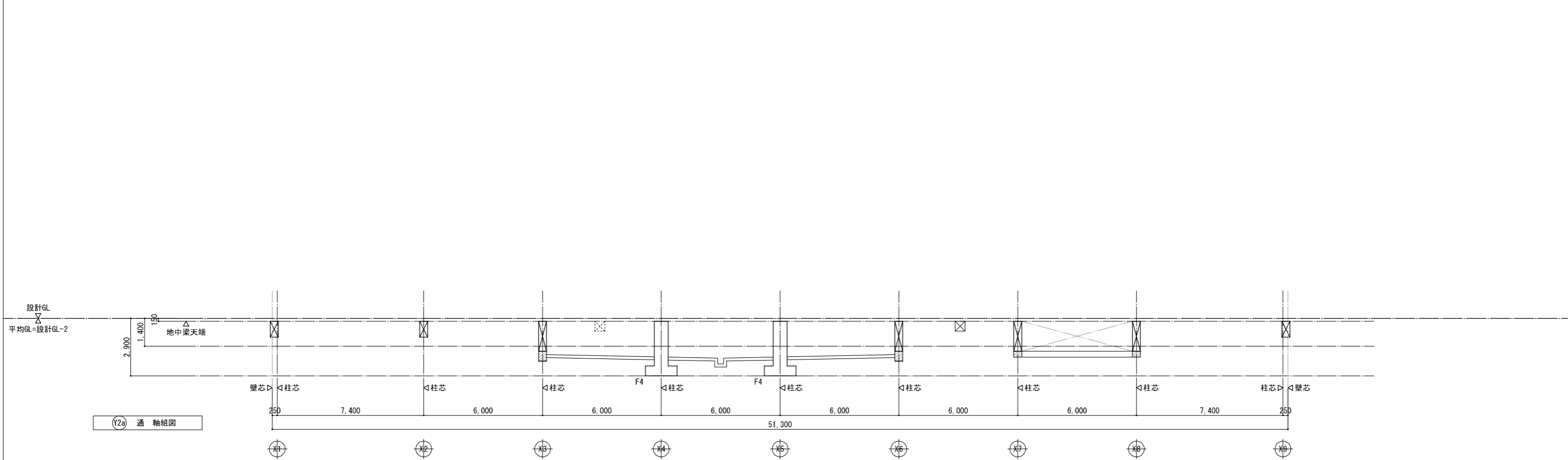


(Y1) 通 軸組図

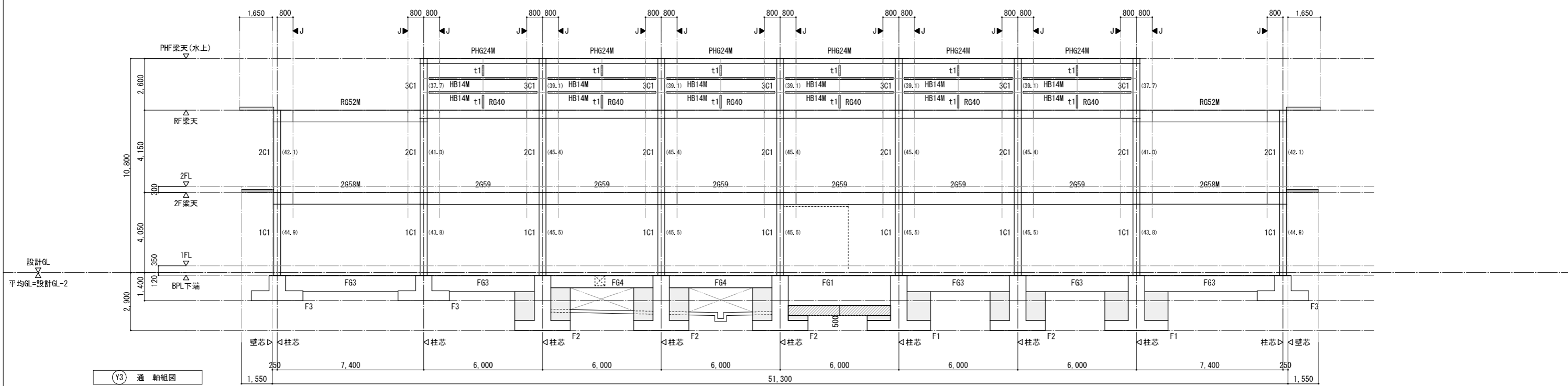


(Y2) 通 軸組図

- 註) ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 ・ 図中 () 内の値はλ: 細長比を示す。
 ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・ 図中 ◻ 印はPCe版を示す。
 ・ 図中 ◻ 印は基礎増打部を示す。
 ・ 図中 ◻ 印は梁下増打部を示す。
 ・ 図中 ◻ 印はパーテーション受け材を示す。(詳細は意匠図参照の事)

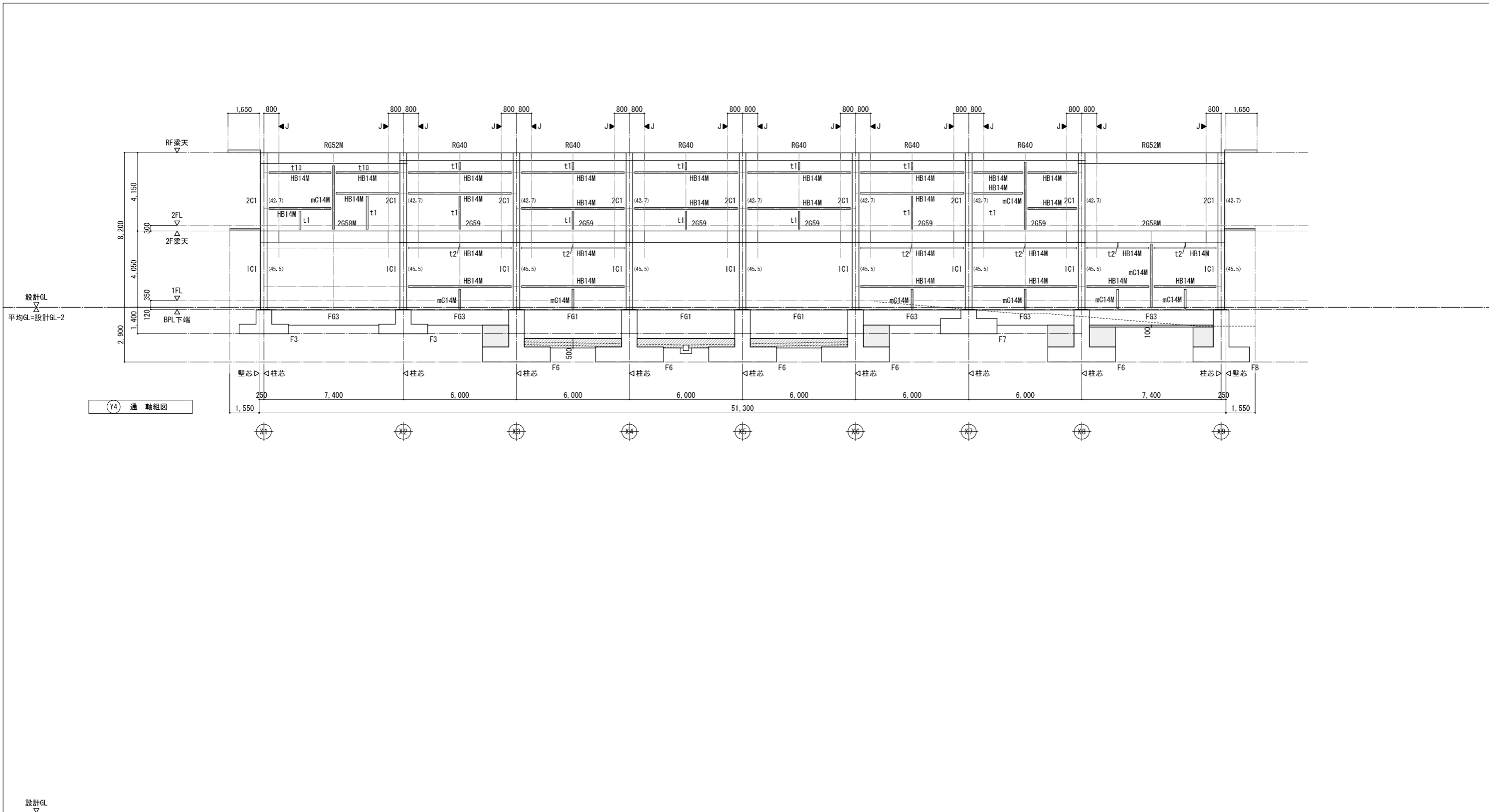


(Y2) 通 軸組図



(Y3) 通 軸組図

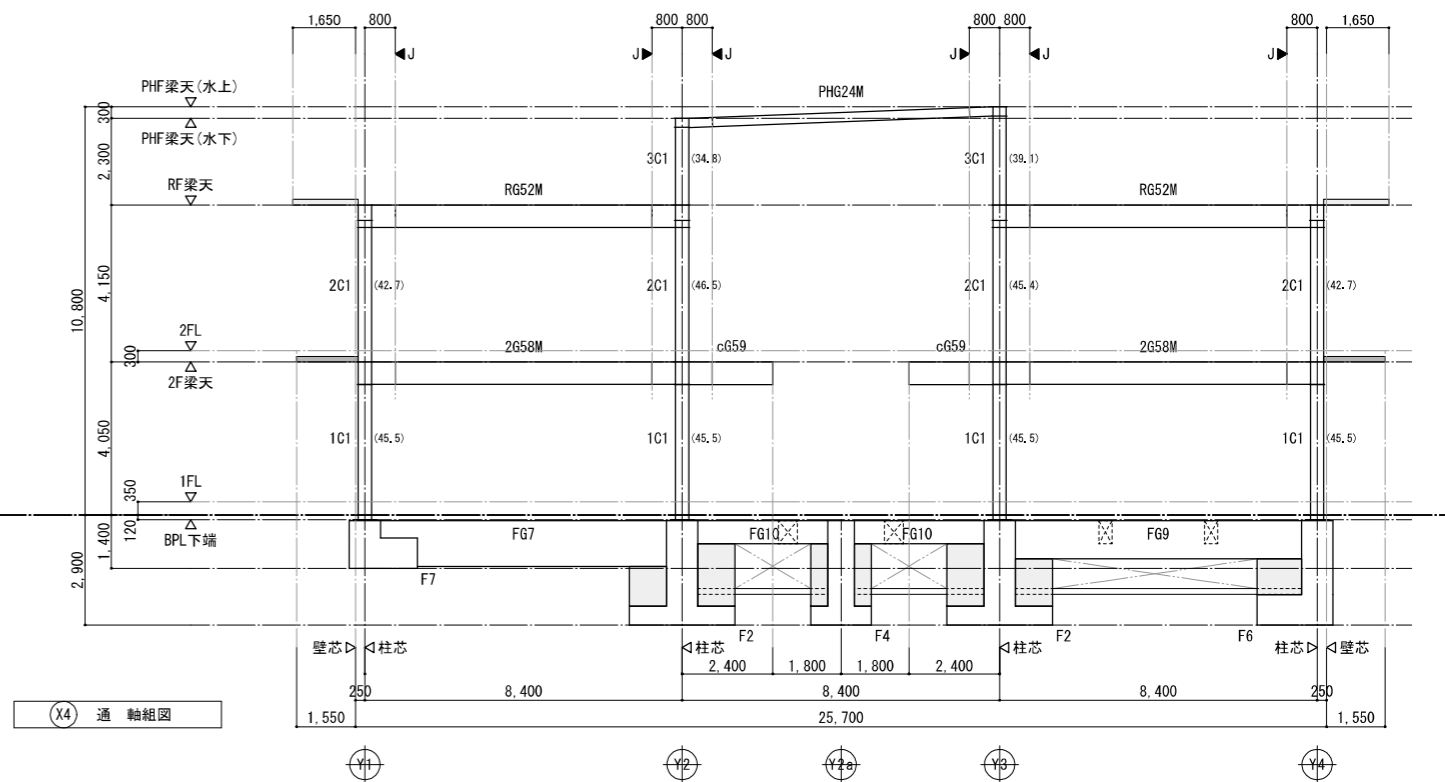
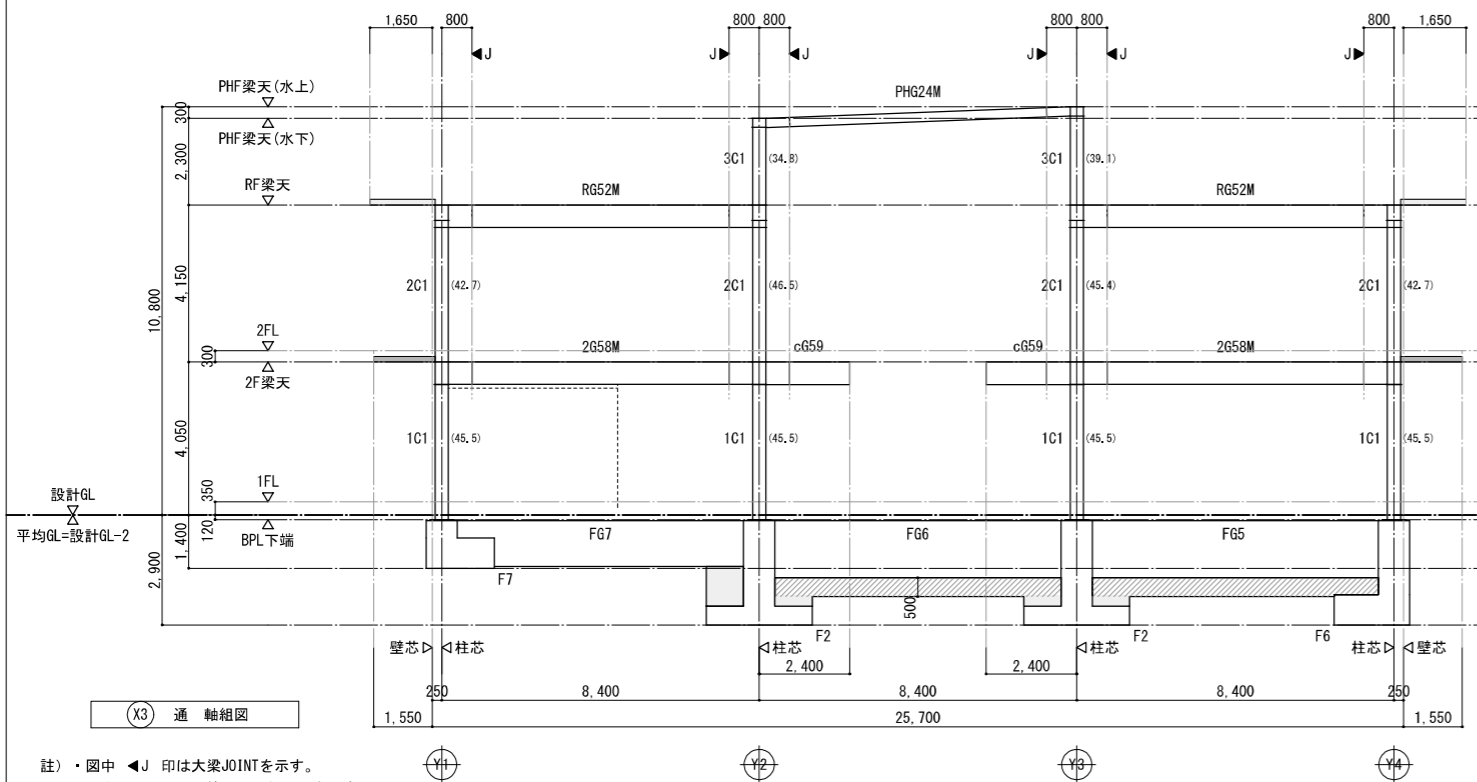
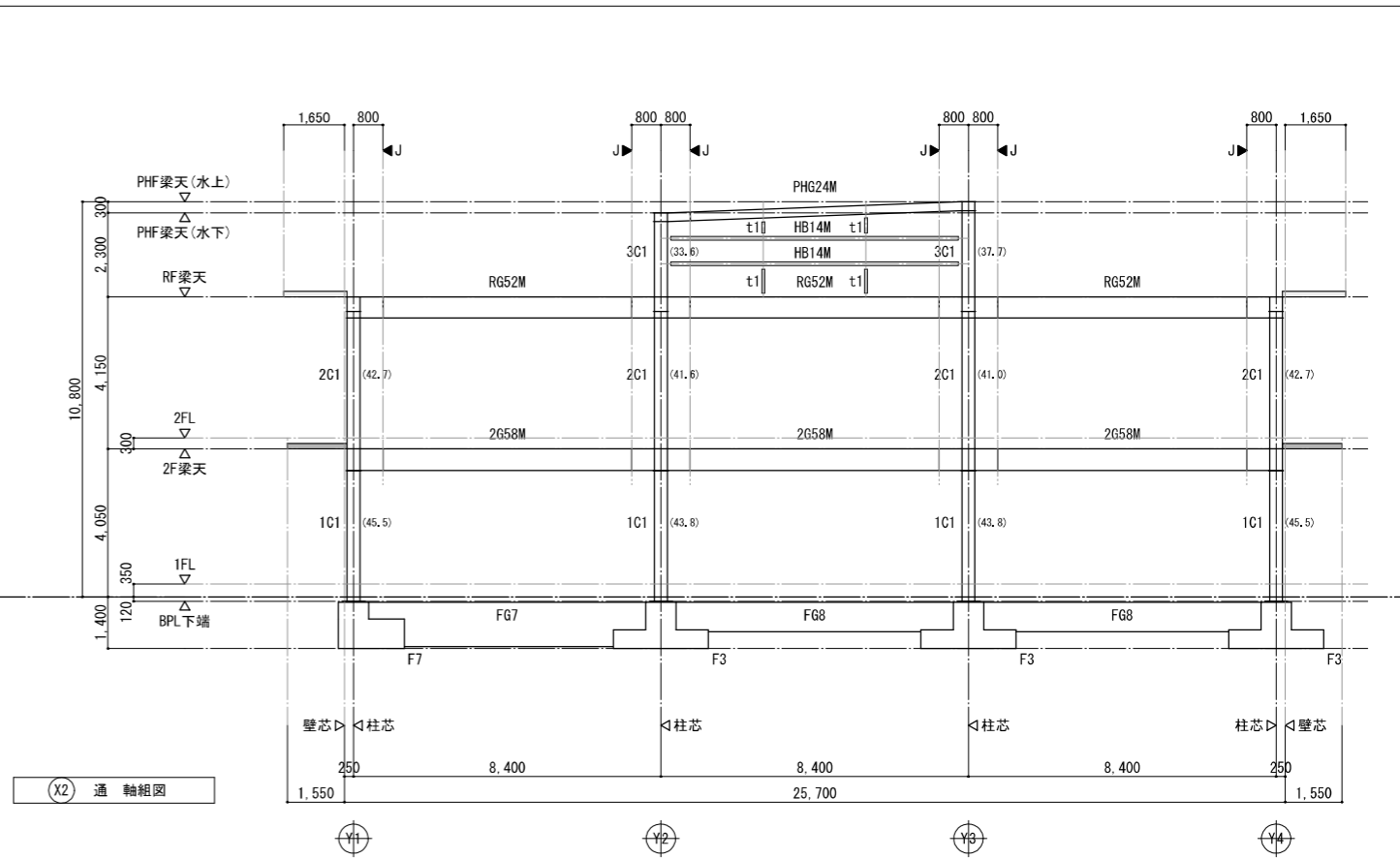
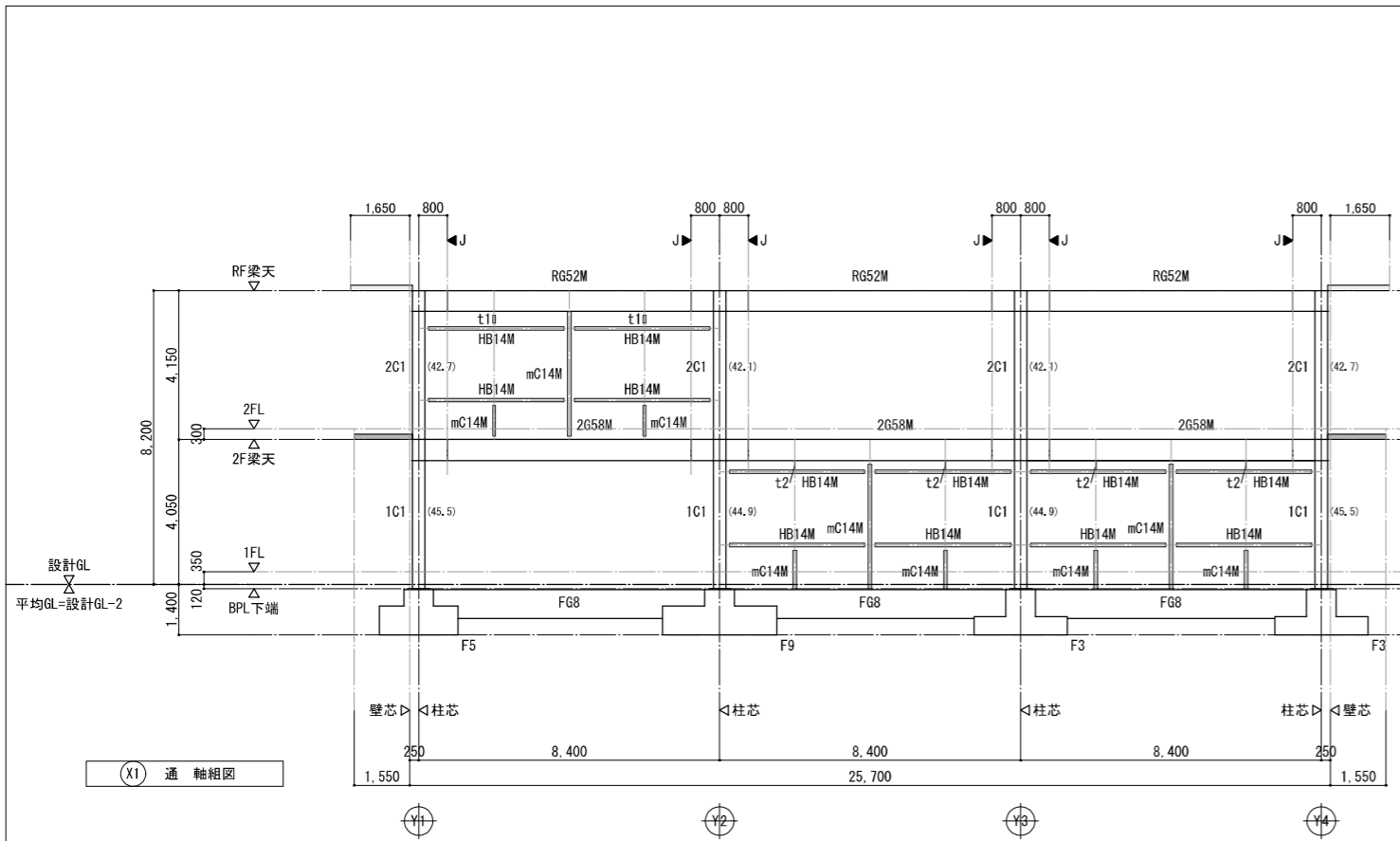
- 註) ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 ・ 図中 () 内の値はλ: 細長比を示す。
 ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・ 図中 ■ 印はPCe版を示す。
 ・ 図中 □ 印は基礎増打部を示す。
 ・ 図中 ▨ 印は梁下増打部を示す。
 ・ 図中 - - - 印はパーテーション受け材を示す。(詳細は意匠図参照の事)



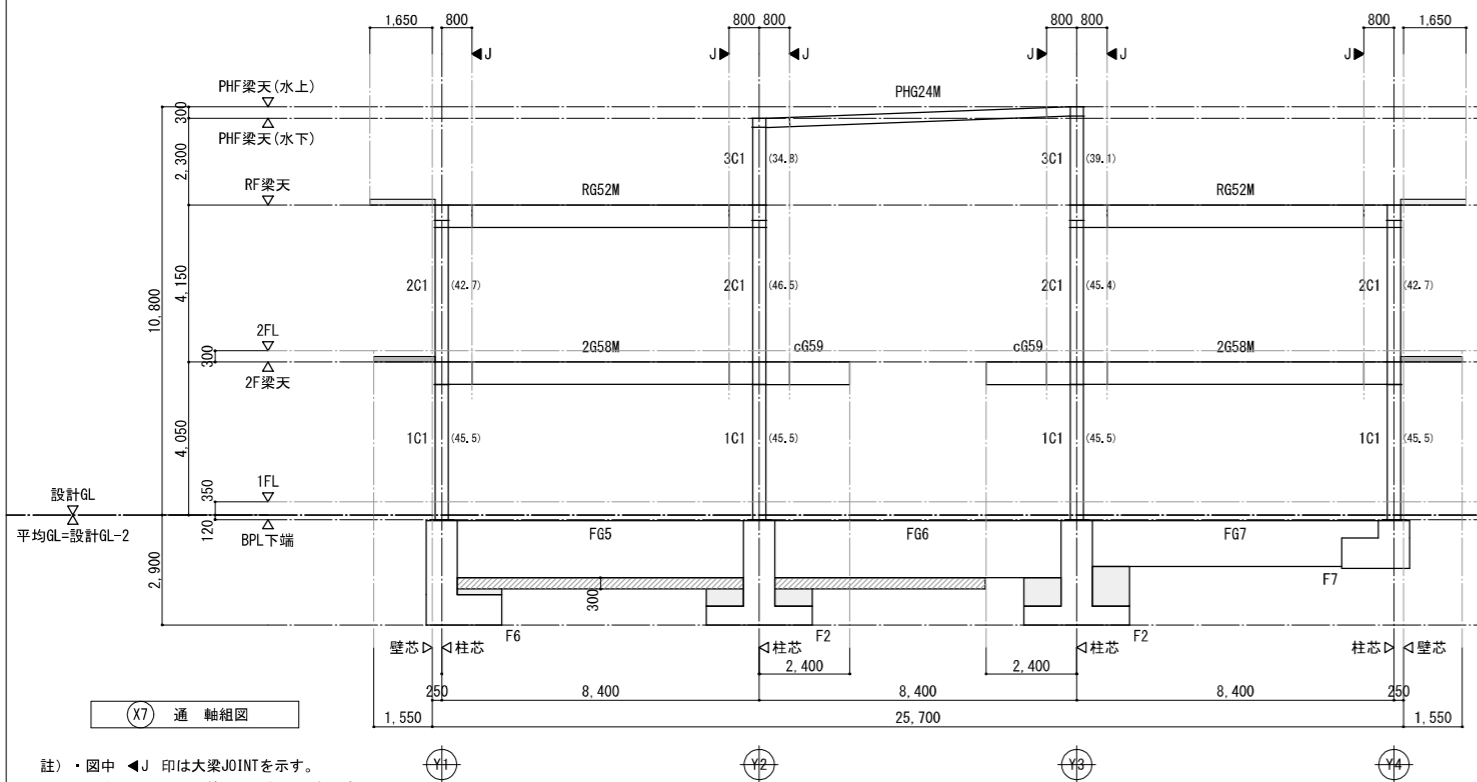
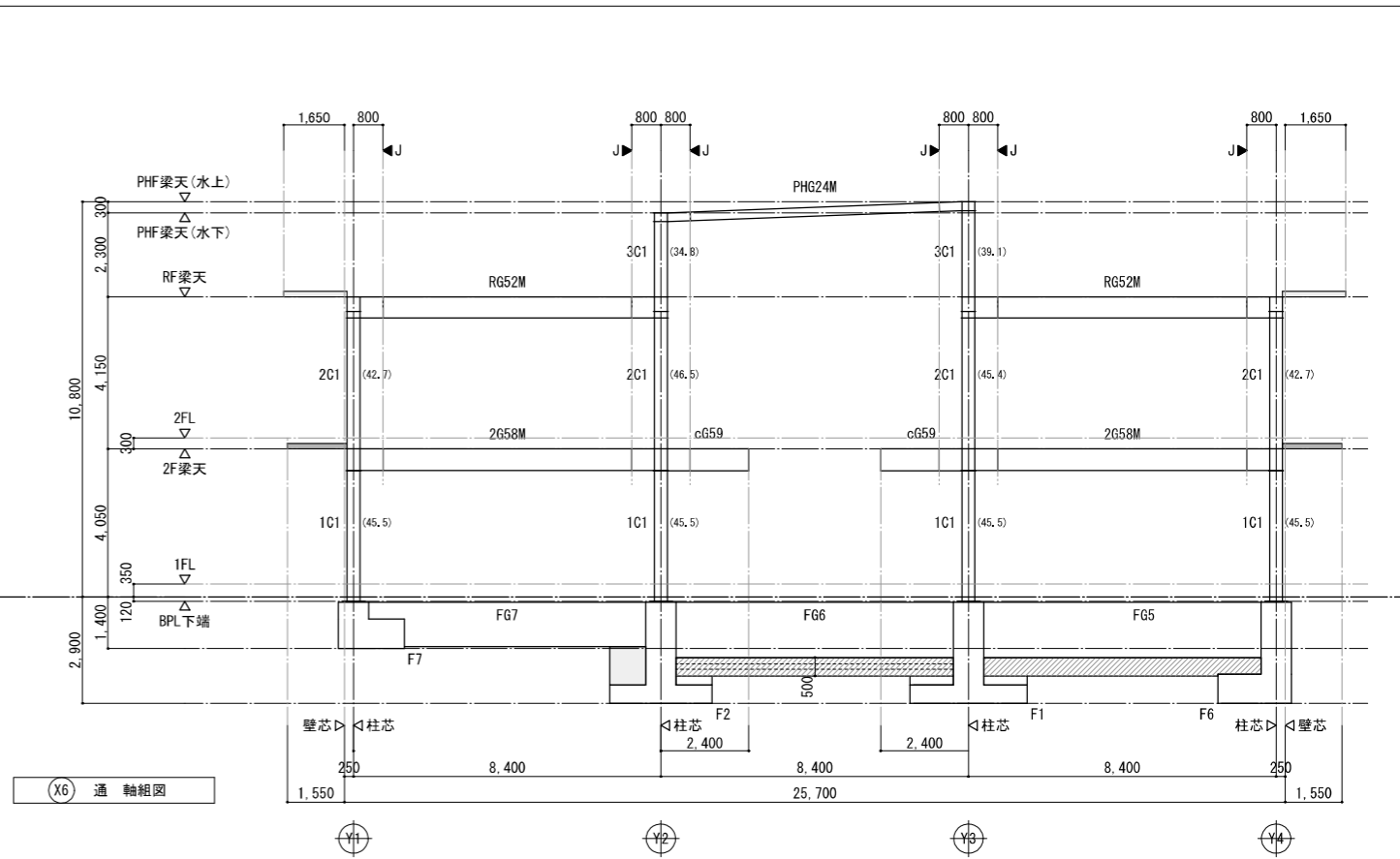
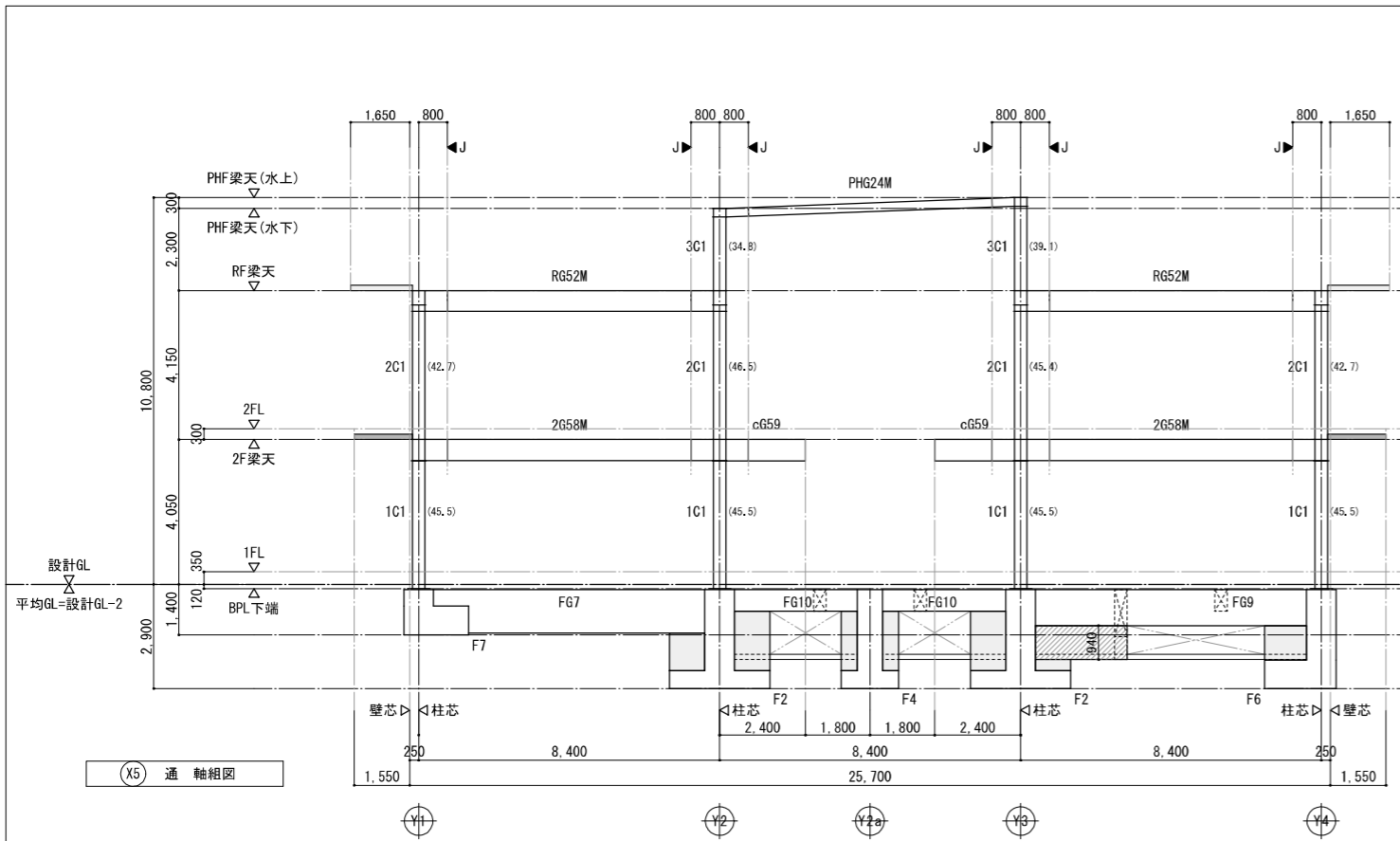
設計GL
平均GL=設計GL-2

設計GL
平均GL=設計GL-2

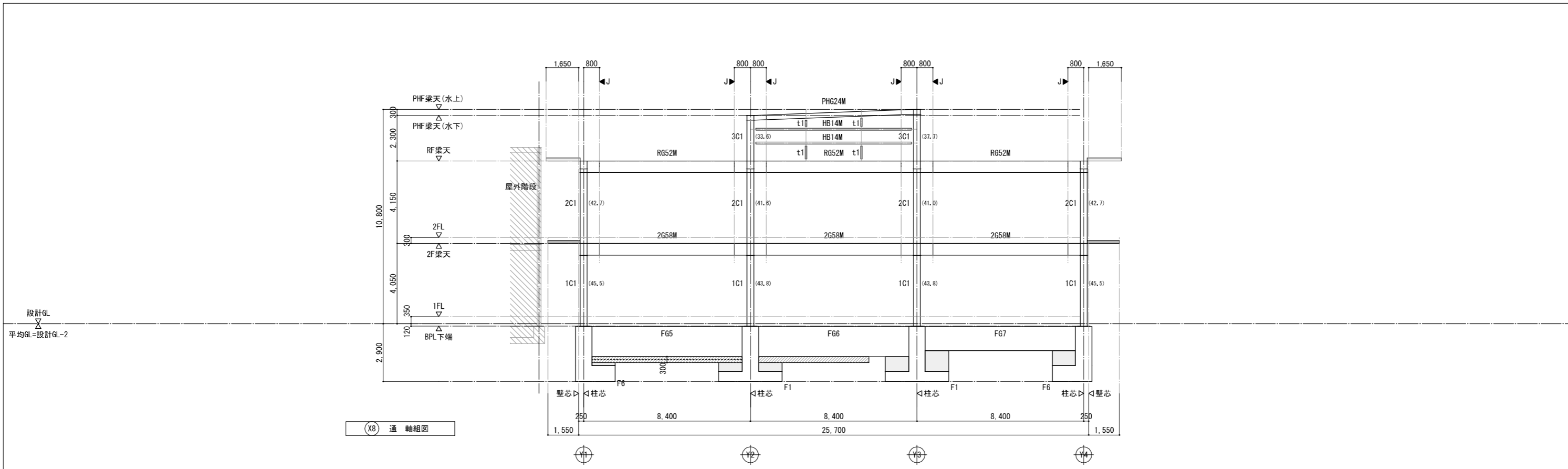
註) ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 ・ 図中 () 内の値はλ: 細長比を示す。
 ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・ 図中 印はPC版を示す。
 ・ 図中 印は基礎増打部を示す。
 ・ 図中 印は梁下増打部を示す。
 ・ 図中 印はパーテーション受け材を示す。(詳細は意匠図参照の事)



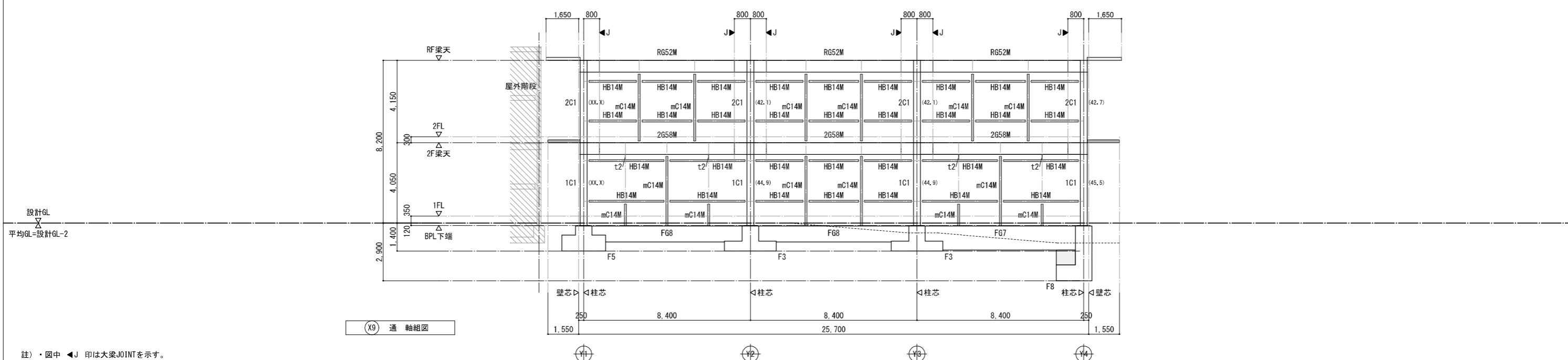
- 註)
- ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 - ・ 図中 () 内の値はλ:細長比を示す。
 - ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 - ・ 図中 ◻印はPCa版を示す。
 - ・ 図中 ◻印は基礎増打部を示す。
 - ・ 図中 ◻印は梁下増打部を示す。
 - ・ 図中 ◻印はパーテーション受け材を示す。(詳細は意匠図参照の事)



- 註) ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 ・ 図中 () 内の値は入 : 細長比を示す。
 ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・ 図中 ◻ 印はPCa版を示す。
 ・ 図中 ◻ 印は基礎増打部を示す。
 ・ 図中 ◻ 印は梁下増打部を示す。
 ・ 図中 ◻ 印はバーション受け材を示す。(詳細は意匠図参照の事)



(X8) 通 軸組図



(X9) 通 軸組図

- 註) ・ 図中 ◀J 印は大梁JOINTを示す。
 ・ 図中 () 内の値はλ: 細長比を示す。
 ・ EV及びDW周辺部材は、各詳細図参照の事。
 ・ 図中 印はPCa版を示す。
 ・ 図中 印は基礎増打部を示す。
 ・ 図中 印は梁下増打部を示す。

部材リスト				ジョイントリスト			
符号	部材	種別	(接合、継手、その他)	符号	部材	種別	(接合、継手、その他)
註)・頭付きスタッドはRCスラブ下の場合とする。・押出成形セメント板開口補強材は施工図作成の上決定とする。							
柱				水平材			
3C1	□-350 X 350 X 9	BCR295		HB14M	H-148 X 100 X 6 X 9 (横使い)	SS400	GPL-9 HTB 2-M20
2C1	□-350 X 350 X 16	BCR295					
1C1	□-350 X 350 X 19	BCR295	ジャストベース J350-19K	吊材			
				t1	H-150 X 75 X 5 X 7	SS400	GPL-6 HTB 2-M16
				t2	PL-9	"	GPL-9 HTB 2-M16
大梁							
PHG24M	H-244 X 175 X 7 X 11	SS400	(J1)	間柱			
RG40	H-400 X 200 X 8 X 13 頭付きスタッド	SS400	(J2)	mC14M	H-148 X 100 X 6 X 9	SS400	GPL-6 HTB 2-M20
RG52M	H-582 X 300 X 12 X 17 頭付きスタッド	"	(J4)	mC17W	H-175 X 175 X 7.5 X 11	SS400	GPL-9 HTB 2-M20
2G59	H-596 X 199 X 10 X 15 頭付きスタッド	SS400	(J3)				
2G58M	H-588 X 300 X 12 X 20 頭付きスタッド	"	(J4)	内部階段			
				ササラ桁	PL-16 X 400	SS400	GPL-16 HTB 4-M20
				踏板	PL-6 加工	"	
片持梁				屋根ブレース	M-16ターンバックル締め		GPL-9 HTB 1-M16
cG59	H-596 X 199 X 10 X 15 頭付きスタッド	SS400	(J3)				
小梁							
B12W	H-125 X 125 X 6.5 X 9	SS400					GPL-9 HTB 2-M16
B20	H-200 X 100 X 5.5 X 8	"					GPL-6 HTB 2-M20
B24	H-248 X 124 X 5 X 8	"					GPL-6 HTB 2-M20
B24a	H-248 X 124 X 5 X 8 頭付きスタッド	"					GPL-6 HTB 2-M20
B29	H-298 X 149 X 5.5 X 8 頭付きスタッド	"					GPL-6 HTB 3-M20
B34	H-346 X 174 X 6 X 9 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 4-M20
B35	H-350 X 175 X 7 X 11 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 4-M20
B39	H-396 X 199 X 7 X 11 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 4-M20
B44	H-446 X 199 X 8 X 12 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 5-M20
B45	H-450 X 200 X 9 X 14 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 5-M20
b1	H-150 X 75 X 5 X 7	SS400					GPL-6 HTB 2-M16
b2	H-200 X 100 X 5.5 X 8 頭付きスタッド	"					GPL-6 HTB 2-M20
b3	H-346 X 174 X 6 X 9 頭付きスタッド	"					GPL-9 HTB 4-M20
天井地下用部材	C-100 X 50 X 20 X2.3 @900	SSC400					GPL-4.5 中ボルト 2-M12

部材	(J1)	H-244 X 175 X 7 X 11	(J2)	H-400 X 200 X 8 X 13	(J3)	H-596 X 199 X 10 X 15	(J4)	H-582 X 300 X 12 X 17
姿図								
F	S.PL-9x290x175 2S.PL-9x290x70		HTB 8-M20	S.PL-9x410x200 2S.PL-9x410x80		HTB 12-M20	S.PL-12x410x199 2S.PL-12x410x80	
W	2S.PL-9x140x170		HTB 4-M20	2S.PL-9x260x170		HTB 8-M20	2S.PL-9x440x290	
部材	(J4)	H-588 X 300 X 12 X 20						
姿図								
F	S.PL-12x440x300 2S.PL-16x440x110		HTB 16-M22 千鳥					
W	2S.PL-9x440x170		HTB 14-M22					
部材								
F								
W								

符号	デッキタイプ	スラブ厚	位置	短辺方向				長辺方向		備考
				デッキ主筋	現場配筋		端部	中央部		
					連結筋・定着筋	追加補強主筋				
		増打ち厚								
DS1	EB80-110	150	上端筋	D13@200	D13@200	---	---	D10@200	D10@200	
		0	下端筋	D13@200	---	---	---	---	---	
DS2	B100-130	175	上端筋	D13@150	D13@150	---	---	D10@170	D10@170	
		150	下端筋	D13@150	---	---	---	---	---	

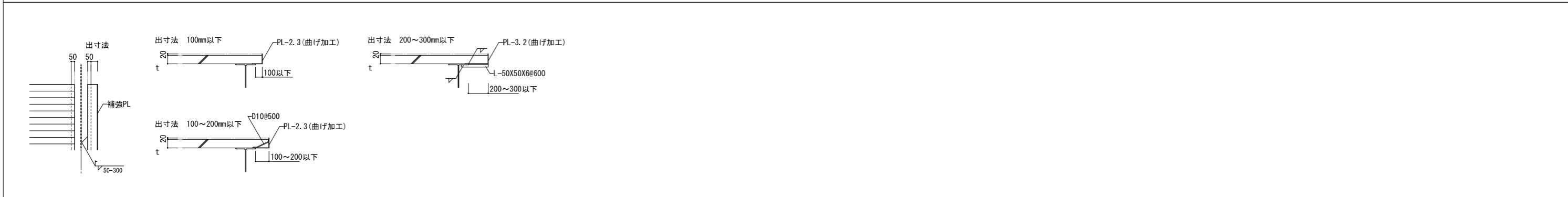
頭付きスタッド要領図	
<p>B 両方向</p> <p>フランジ幅 本数-径-ピッチ</p> <p>B>200 1-19φ-@300</p> <p>B≤200 1-16φ-@300</p>	

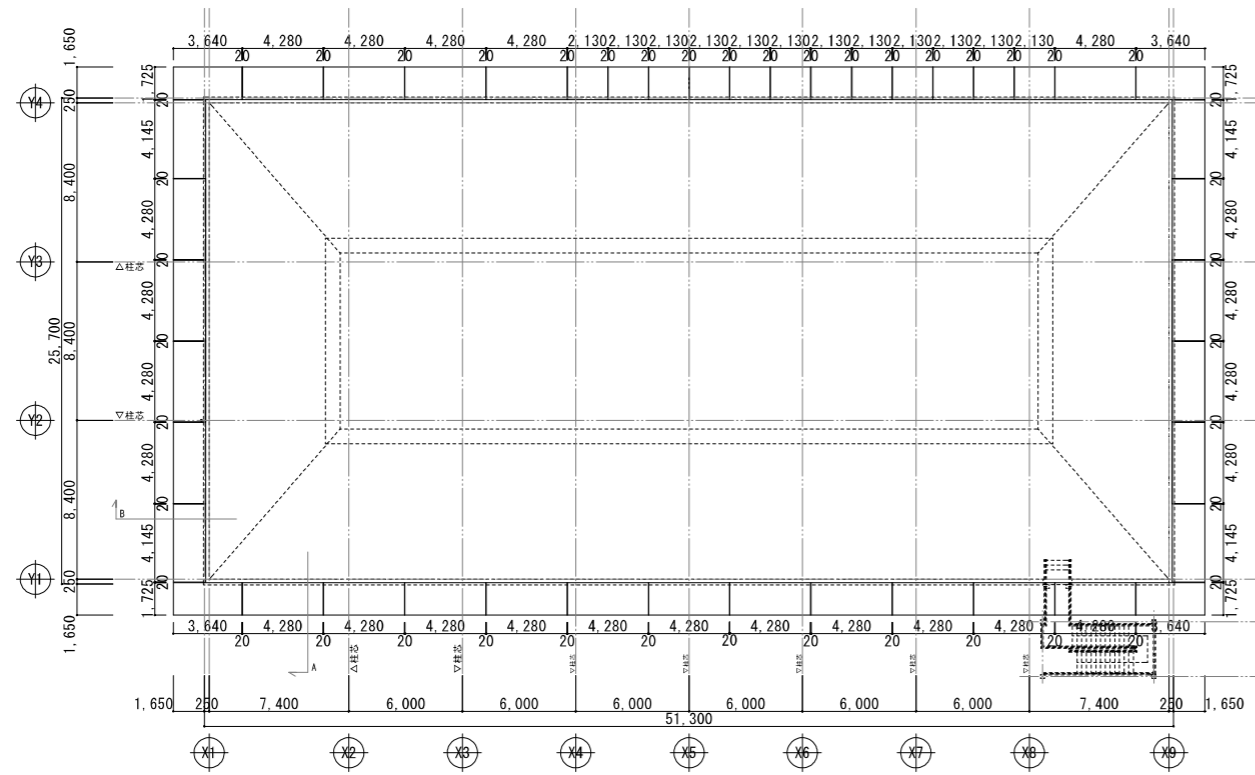
仕口リスト												
部材	B24	H - 248 X 124 X 5 X 8	B24a	H - 248 X 124 X 5 X 8	B34	H - 346 X 174 X 6 X 9	B35	H - 350 X 175 X 7 X 11	B44	H - 446 X 199 X 8 X 12	B45	H - 450 X 200 X 9 X 14
梁図												
部材	b1	H - 150 X 75 X 5 X 7	b2	H - 200 X 100 X 5.5 X 8	b3	H - 346 X 174 X 6 X 9						
梁図												

柱脚リスト												
部材	1C1	□ - 350 X 350 X 19			mC14M	H - 148 X 100 X 6 X 9	mC17W	H - 175 X 175 X 7.5 X 11	ササラ桁	PL - 16 X 400		
梁図												
	ジャストベース J350-19K 〔 BPL - 50 X 640 X 640 (TMCP325) A. Bolt 8-D38 (SD490) L=785 〕				〔 BPL-16 x 200 x 180 (SS400) A. Bolt 2-M20 (SS400) L=400WN フック付 〕		〔 BPL-16 x 210 x 220 (SS400) A. Bolt 2-M20 (SS400) L=400WN フック付 〕		〔 BPL-19 x 160 x 450 (SS400) A. Bolt 4-M20 (SS400) L=400WN フック付 〕			

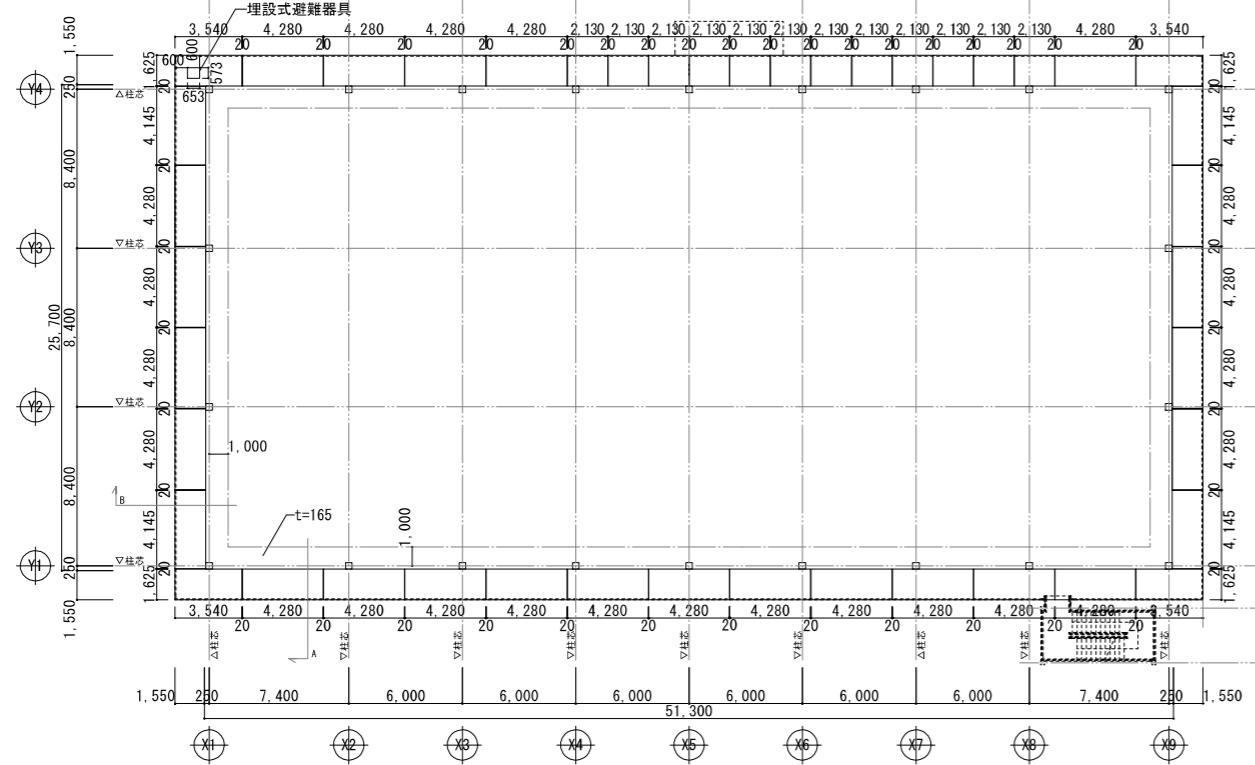
その他詳細図												
部材	M-16ターナックル締め											
梁図												

コンクリート止め詳細図 註)・特記なき片持部配筋はデッキ配筋を延長して配筋の事。

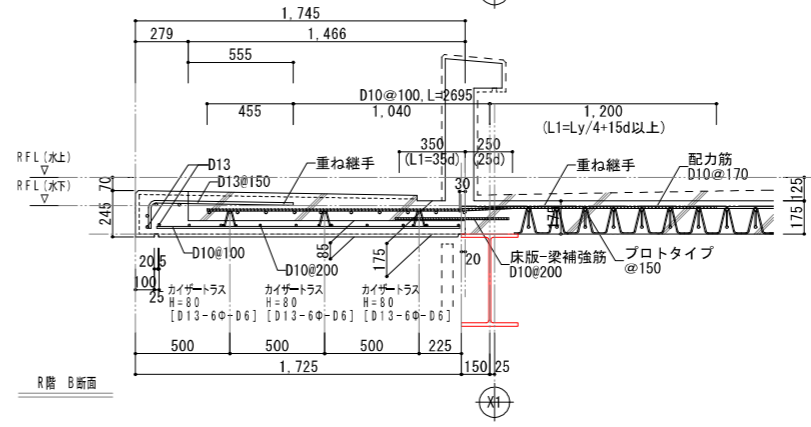
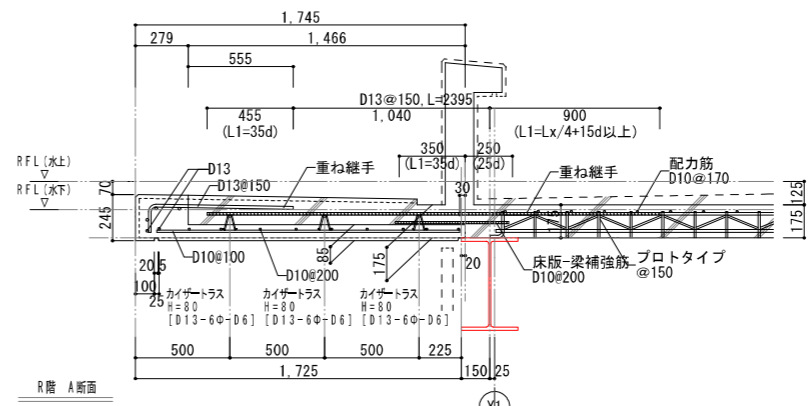




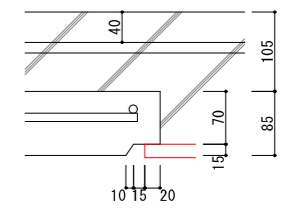
R階バルコニーPCa版 平面割付図 S=1:200



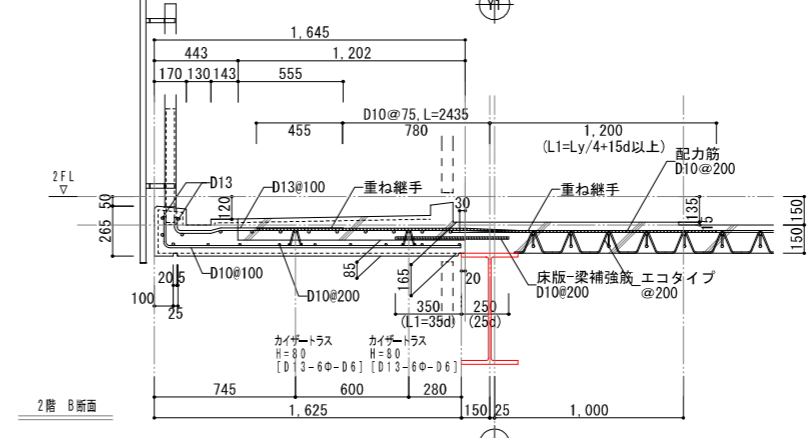
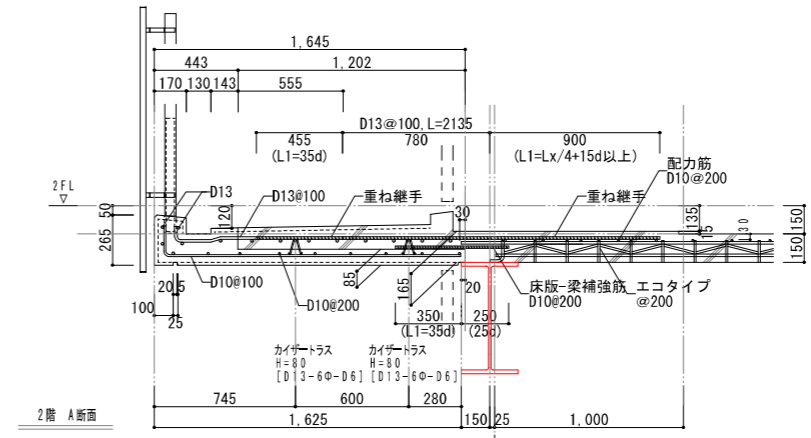
2階バルコニーPCa版 平面割付図 S=1:200



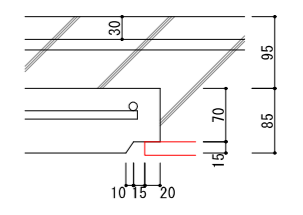
PC版 RPS S=1:20



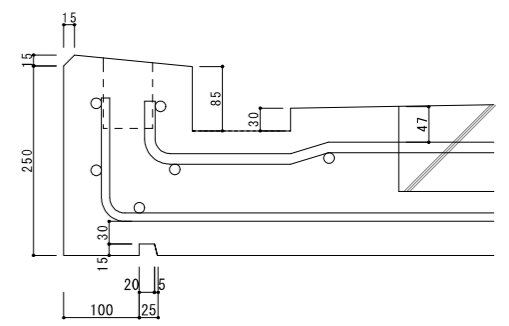
RPS 元端詳細図 S=1:5



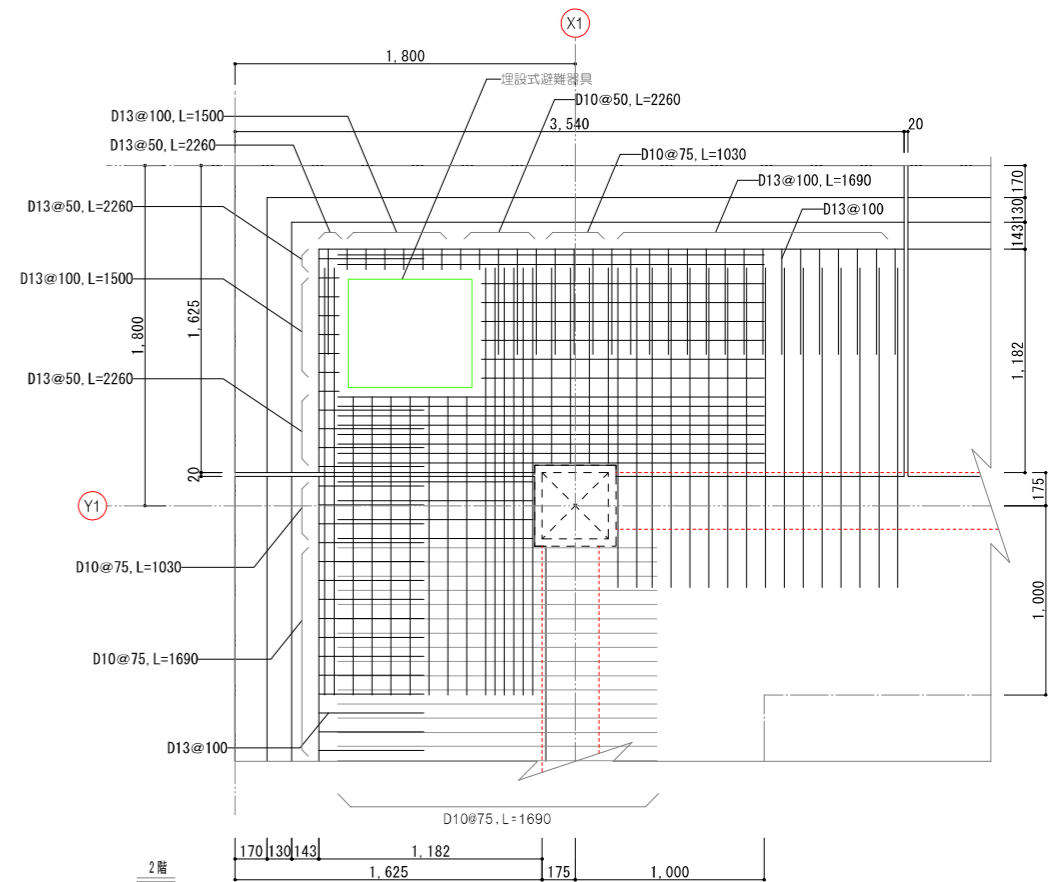
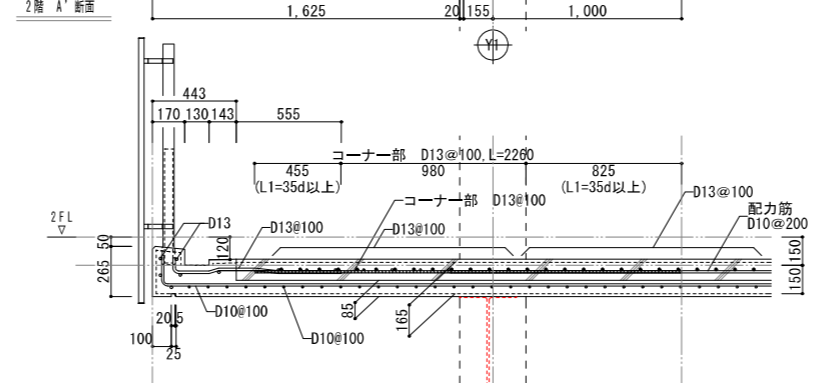
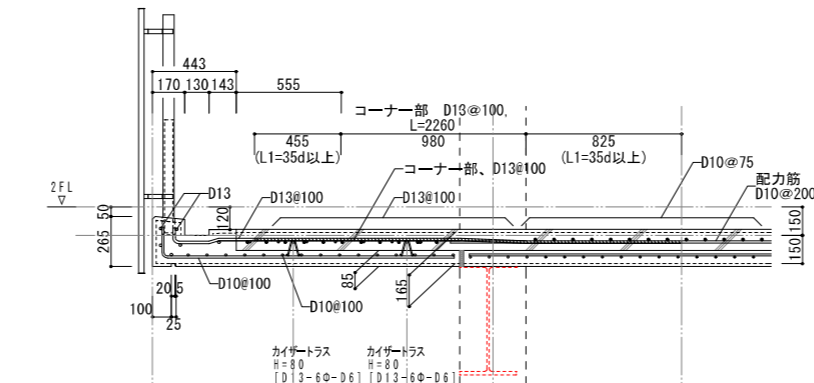
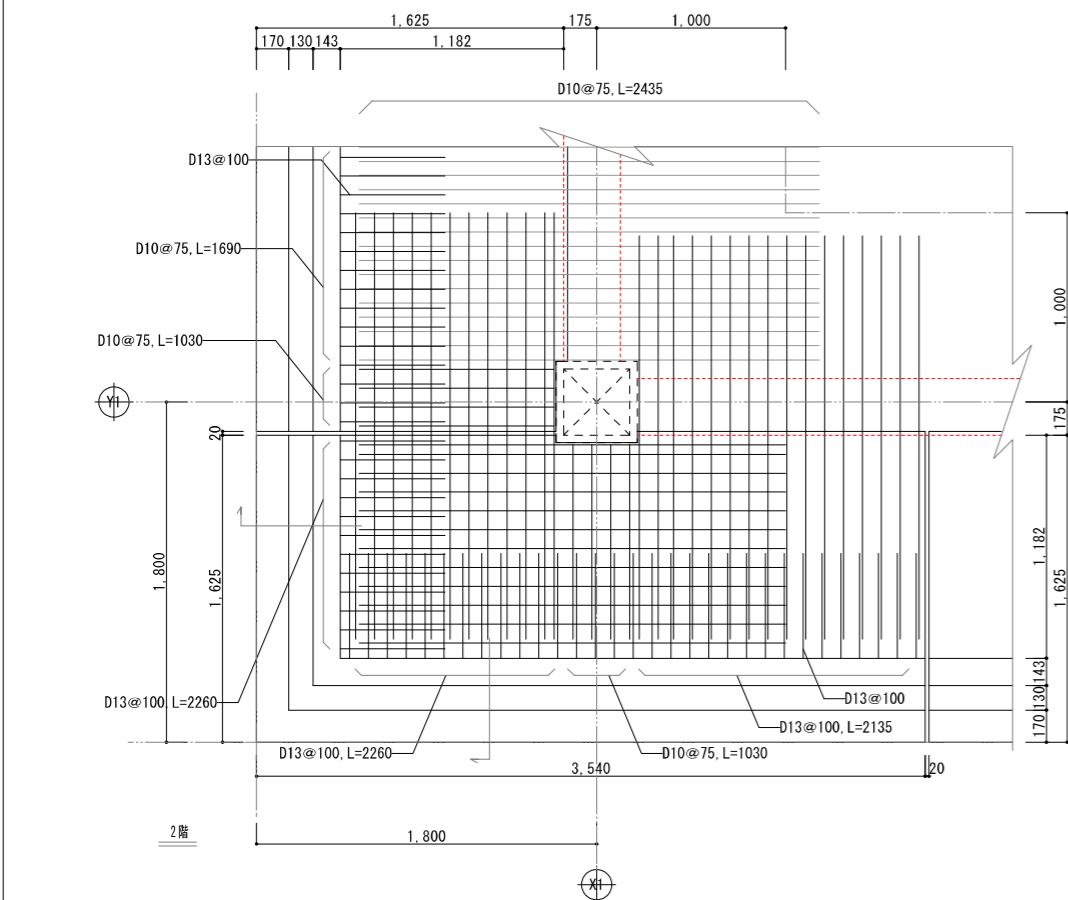
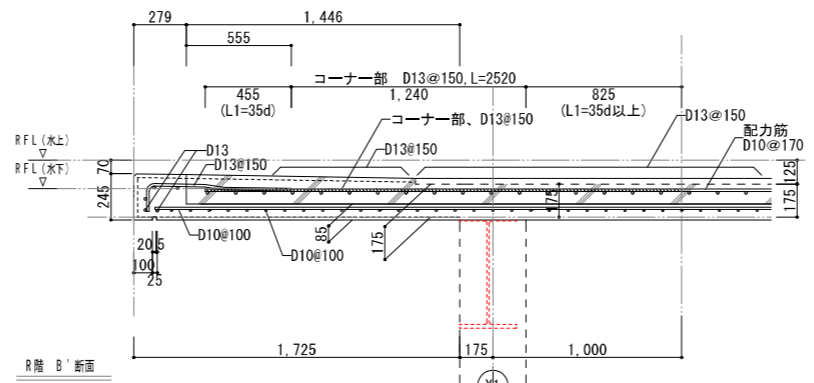
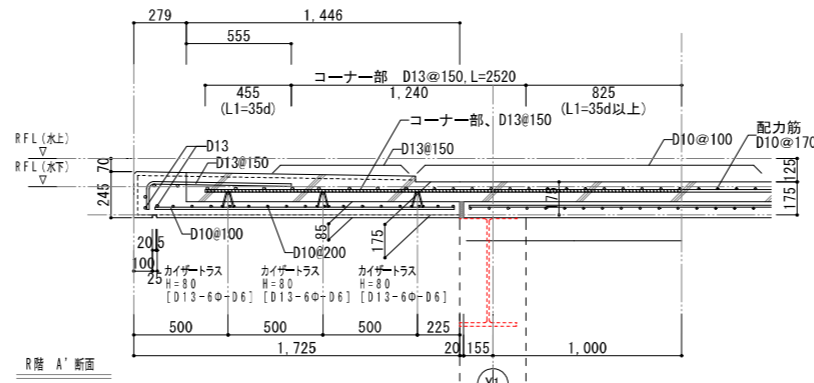
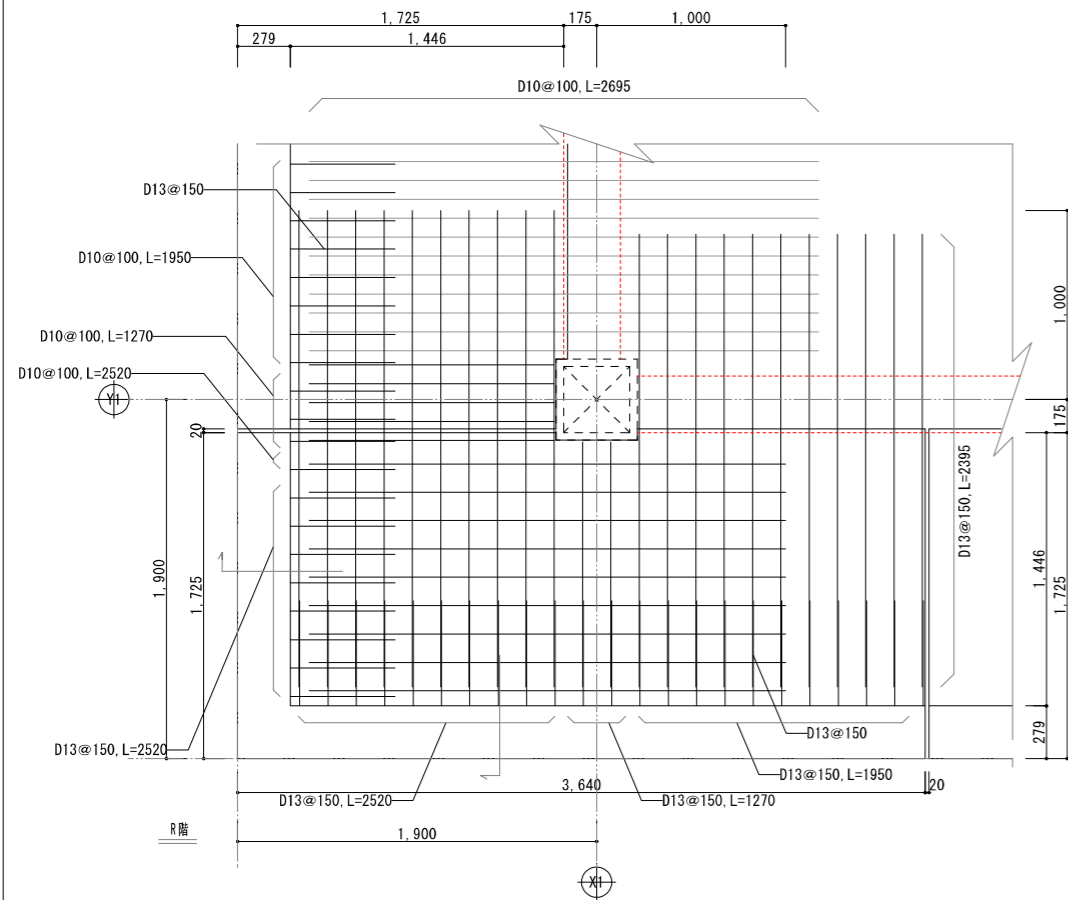
PC版 PS1 S=1:20



RP1 元端詳細図 S=1:5

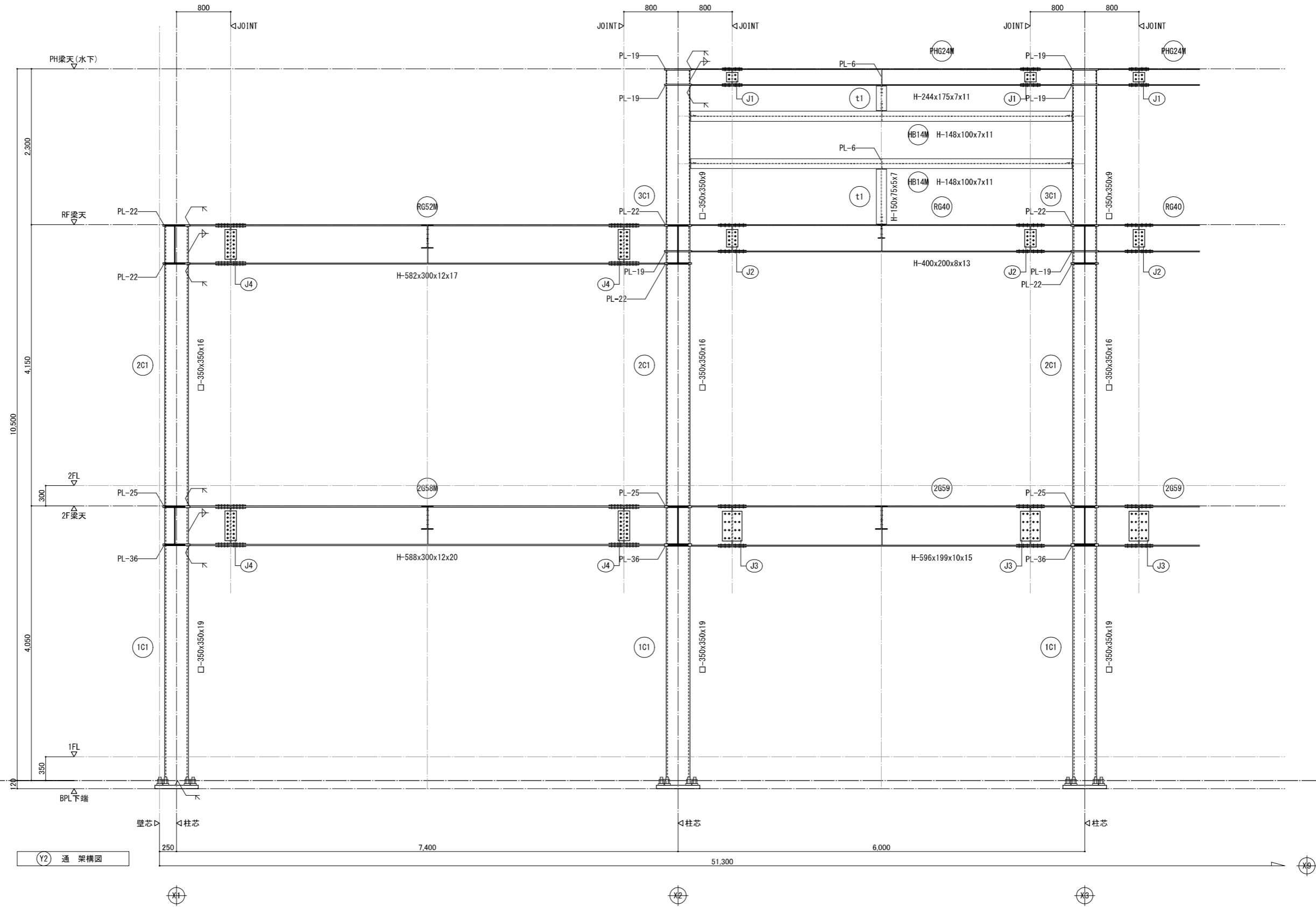


PS1 先端詳細図 S=1:5



コーナー部配筋要領 S=1:20

コーナー部配筋要領 (開口部) S=1:20



(Y2) 通 架構図

註) ・ 図中ダイヤフラムはSN490Cを使用。
 ・ 内ダイヤフラムに取りつく大梁は、柱Rを避けて施工のこと。

ジャストベース (JE II型) 柱脚工法設計施工標準図

(財) 日本建築センターBCJ 評定-STO153-07 (平成30年11月16日付)

(角形鋼管仕様)

- 柱材: 角形鋼管 (F値 235N/mm²) - STKR400, BCP235, SHC400B・C (F値 295N/mm²) - BGR295, JBCR295, TSC295 (F値 325N/mm²) - STKR490, BCP325, SHC490B・C
- 基礎コンクリート: 普通コンクリート (21・24N/mm²) 以上 30N/mm²以下
- 鉄筋: 異形鉄筋 SD295 (D10~D16) SD345 (D19~D25)

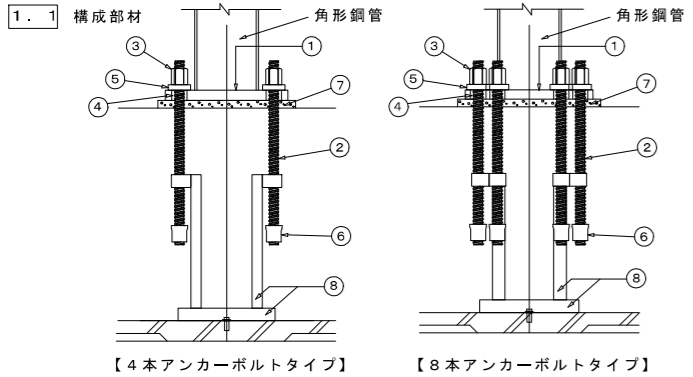
- 柱脚の選定: 別冊「ジャストベースカタログ」により設計者が選定する。
- 柱脚の溶接: 別冊「工場製作管理要領書」により鉄骨工場にて溶接施工を行う。
- 現場施工: 別冊「ジャストベース施工ガイド」によりジャストベース認定施工業者が行う。

資料番号: JB (JE II) - 03 - 02

コトブキ技研工業株式会社

広島 TEL 0823-70-0721 FAX 0823-70-0722

1. 柱脚構成部材及び基礎廻り標準図



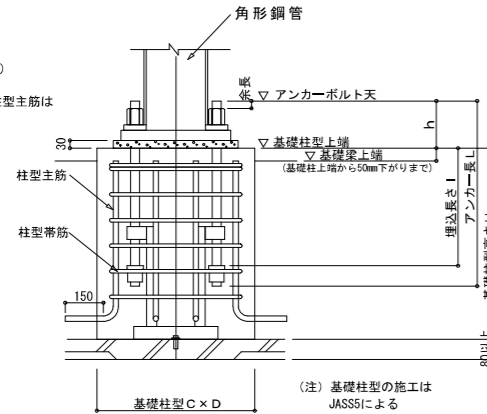
- ① ベースプレート
- ② アンカーボルト
- ③ ロックナット及び固定用クサビ
- ④ ジャストリング
- ⑤ 座金
- ⑥ 定着ナット及び固定用クサビ
- ⑦ 無収縮モルタル
- ⑧ フレーム部材 (テンプレート含む)

(注) 12本アンカーボルトタイプ図は省略

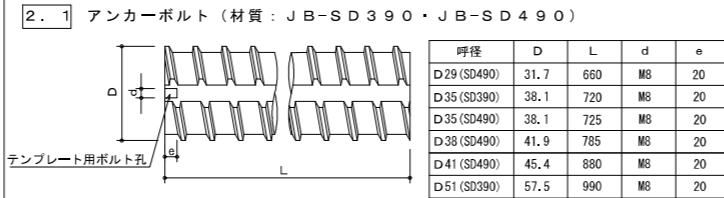
1.2 基礎廻りの標準図

※設計基準強度が21N/mm²以上と24N/mm²以上の仕様があります。(但しF_oの上限値は全機種30N/mm²)

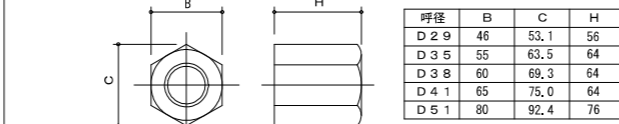
※ジャストベース (JE II型) 工法の柱型主筋は頂部フックが不要です。
※トップフープはダブルフープ。



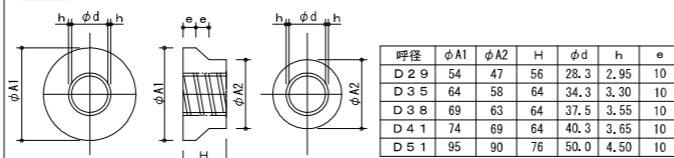
2. アンカーボルト・ロックナット・定着ナット・座金・ジャストリング



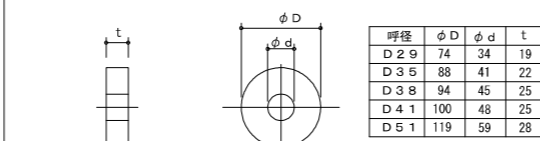
2.2 ロックナット (材質: S45C 熱処理H)



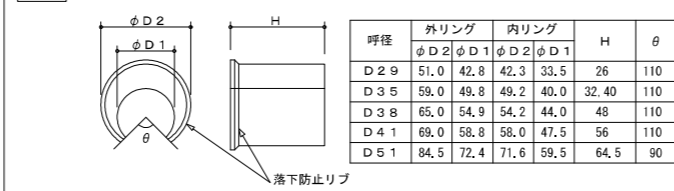
2.3 定着ナット (材質: S45C 熱処理H)



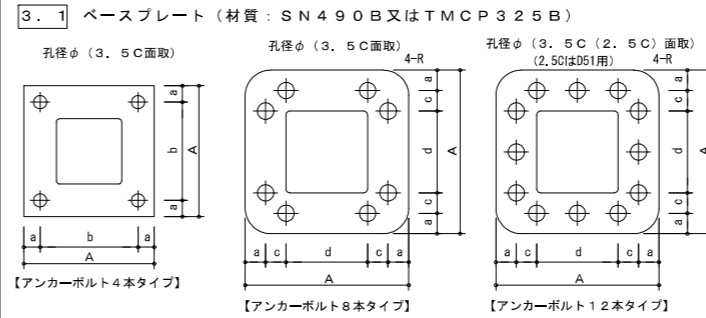
2.4 座金 (材質: SS400)



2.5 ジャストリング (材質: S25C又はFCD450-10)

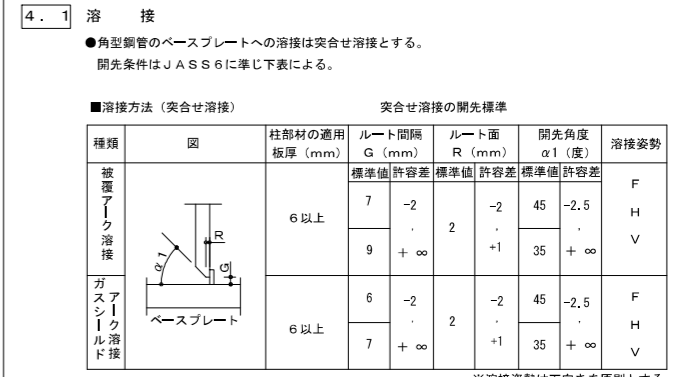


3. ベースプレート



ジャストベース記号	タイプ	t	A	a	b	c	d	φ	コーナーR
J150-12K	4本	28	300	45	210	—	—	52	—
J175-12K	4本	32	325	45	235	—	—	52	—
J200-09K	4本	32	350	45	260	—	—	52	—
J200-12K	4本	32	380	55	270	—	—	60	—
J250-09K	4本	36	430	55	320	—	—	60	—
J250-12K	4本	40	430	55	320	—	—	60	—
J250-16K	8本	40	480	50	—	75	230	60	80
J300-09K	4本	40	480	55	370	—	—	60	—
J300-12K	4本	40	510	55	—	75	270	60	80
J300-16K	8本	40	540	60	—	75	270	60	80
J300-19K	8本	45	540	60	—	75	270	60	80
J350-12K	8本	40	580	55	—	75	320	60	80
J350-16K	8本	50	600	55	—	75	340	60	80
J350-19K	8本	50	640	75	—	85	320	66	80
J350-22K	8本	55	640	70	—	85	310	70	80
J400-12K	8本	40	640	60	—	75	370	60	80
J400-16K	8本	45	670	70	—	85	360	66	80
J400-19K	8本	50	710	75	—	95	370	70	80
J400-22K	12本	60	710	70	—	85	400	66	80
J400-25K	12本	60	710	70	—	85	400	66	80
J450-16K	12本	50	710	65	—	85	410	66	80
J450-19K	12本	55	740	75	—	85	420	66	80
J450-22K	12本	60	760	80	—	95	410	70	80
J450-25K	12本	60	760	80	—	95	410	70	80
J500-19K	12本	55	800	80	—	95	450	70	80
J500-22K	12本	60	840	85	—	95	480	70	80
J500-25K	12本	65	840	85	—	105	460	85	80
J550-19K	12本	60	850	75	—	95	510	70	80
J550-22K	12本	65	920	75	—	95	580	70	80
J550-25K	12本	65	920	90	—	105	530	85	80

4. 溶接施工



4.2 溶接部の検査

●超音波探傷検査とし、合否の判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・解説」による。

5. 現場施工

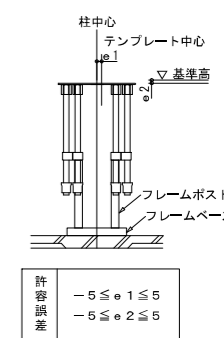
特記以外は元請会社の施工とする。

5.1 捨てコンクリート地業 (元請施工)

●基礎柱下部の捨てコンクリートは厚さ80mm以上とし、上面をコテで平滑に仕上げる。上面レベルのチェックを行う。

5.2 フレーム及びアンカーボルトの設置 (※1)

- ① フレームベース設置: 柱中心地墨に対し、平面位置を調整する。レベル調整用ボルトでフレームベースを水平にする。
- ② アンカーボルト設置: フレームポスト上部の部材にアンカー調整ボルトにて固定し垂直を確認する。
- ③ テンプレート設置: テンプレートをアンカーボルトに上部からボルトにて固定し、テンプレート中心線を、柱中心地墨に調整後、フレームベースをホールインアンカーにて固定する。
- ④ 定着ナット固定措置: 定着ナットをアンカーボルト下部位置に取り付け、アンカーボルトと定着ナットの隙間に鋼製クサビを打ち込む。



5.3 基礎柱型配筋及びコンクリート打設 (元請施工)

5.4 鉄骨柱の建入れ (元請施工)

5.5 ジャストリング設置及びロックナット本締め (元請施工)

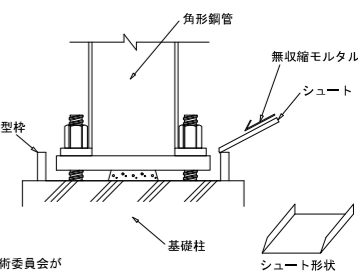
●ジャストリングを全数設置し、レンチ等でロックナットを本締める。トルク値は300N・mとする。(マーキング等による確認推奨)

5.6 固定用クサビの設置 (元請施工)

●鋼製クサビをロックナットとアンカーボルトの隙間に全数セットし、打ち込む。

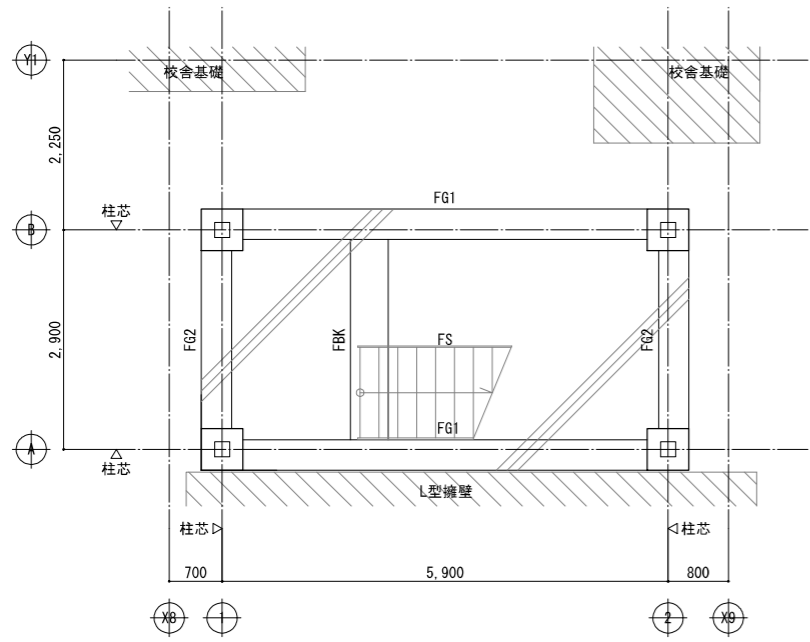
5.7 無収縮モルタル注入

- ① 無収縮モルタル用型枠施工 (元請施工)
- ② 基礎コンクリート清掃・水洗いの後、無収縮モルタルをシュートにより一方から注入する。(※1)

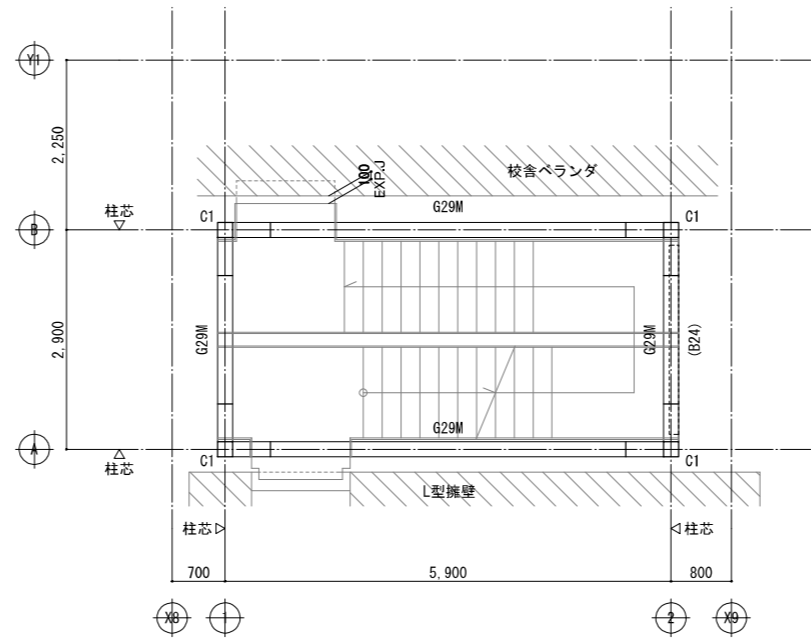


※1: 現場施工及び施工管理は、ジャストベース施工技術委員会が認定した有資格者が行う。

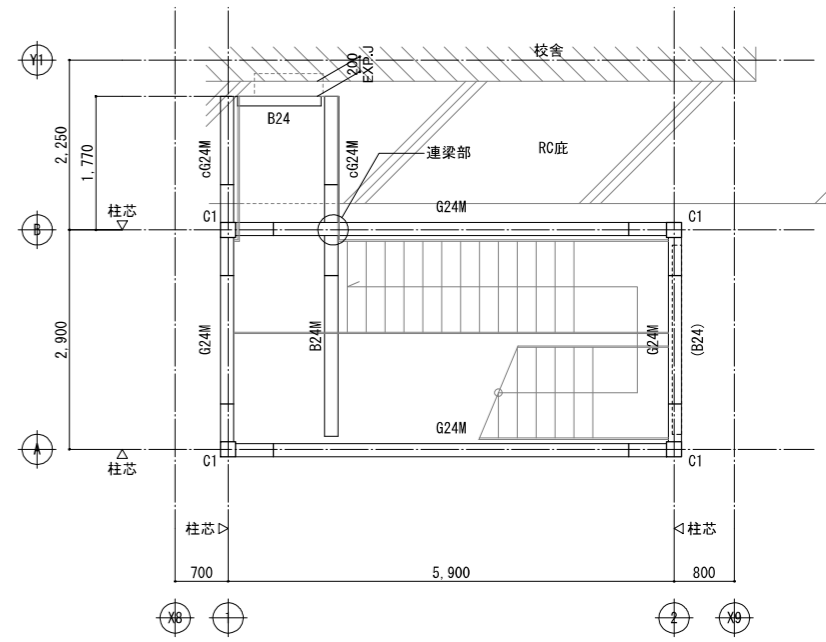
適用 (○印)	ジャストベース記号	サイズ	適用角形鋼管 (該当するF値 ○印) ※ () はBCPのみ適用			柱脚構成部材		RC基礎柱型 (下記の寸法・配筋とする)				柱脚回転剛性 kN・m/rad	備考			
			F=235N/mm ²	F=295N/mm ²	F=325N/mm ²	アンカーボルト	ベースプレート	座金	寸法 (mm)	H	主筋			帯筋	設計基準強度 (N/mm ²)	
ジャストベース (JE II型) 柱脚工法 (角形鋼管)	J150-12K	150×150	6・9・12	6・9・12	6・9	4-D29×660	SD490 165	28×300×300	19×74	500×500	620×620	550	12-D16	D13 # 150	21以上 30以下	12,000
	J175-12K	175×175	6・9・12	6・9・12	6・9	4-D29×660	SD490 165	32×325×325	19×74	530×530	650×650	550	12-D16	D13 # 150	21以上 30以下	17,000
	J200-09K	200×200	6・8・9	6・8・9	6・8	4-D29×660	SD490 165	32×350×350	19×74	550×550	670×670	600	12-D16	D13 # 150	21以上 30以下	21,000
	J200-12K		6・8・9・12	6・8・9・12	6・8・9	4-D35×720	SD390 180	32×380×380	22×88	560×560	680×680	600	12-D19	D13 # 150	21以上 30以下	30,000
	J250-09K	250×250	6・8・9	6・8・9	6・8	4-D35×720	SD390 180	36×430×430	22×88	620×620	740×740	600	12-D19	D13 # 150	21以上 30以下	47,000
	J250-12K		6・8・9・12	6・8・9・12	6・8・9	4-D35×725	SD490 185	40×430×430	22×88	620×620	740×740	600	12-D19	D13 # 150	21以上 30以下	47,000
	J250-16K	300×300	6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12	4-D35×720	SD390 180	40×480×480	22×88	650×650	850×850	600	16-D22	D13 # 150	21以上 30以下	61,000
	J300-09K		6・8・9・(12)	6・8・9	6・(9)	4-D35×725	SD490 185	40×480×480	22×88	680×680	800×800	600	12-D19	D13 # 150	21以上 30以下	66,000
	J300-16K	300×300	6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12・(16)	4-D35×720	SD390 180	40×540×540	22×88	740×740	940×940	600	12-D22	D13 # 150	21以上 30以下	89,000
	J300-19K		6・8・9・12・16・19	6・8・9・12・14・16・19	6・8・9・12・16・(19)	4-D35×725	SD490 185	45×540×540	22×88	740×740	940×940	600	16-D25	D13 # 150	21以上 30以下	90,000
J350-12K	350×350	9・12・(16)	9・12	9・(12)	4-D35×720	SD390 180	40×580×580	22×88	780×780	980×980	700	12-D22	D13 # 150	21以上 30以下	119,000	
J350-16K		9・12・16・19・(22)	9・12・14・16	9・12・(16)	4-D35×725	SD490 190	50×600×600	22×88	800×800	1,000×1,000	750	16-D22	D13 # 150	21以上 30以下	129,000	
J350-19K	350×350	9・12・16・19・22	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	4-D38×785	SD490 200	50×640×640	25×94	830×830	1,030×1,030	750	16-D25	D13 # 150	21以上 30以下	148,000	
J350-22K		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	4-D41×880	SD490 210	55×640×640	25×100	830×830	1,030×1,030	750	24-D25	D13 # 150	21以上 30以下	156,000	
J400-12K	400×400	9・12	9・12	9・(12)	4-D35×725	SD490 185	40×640×640	22×88	850×850	1,050×1,050	800	16-D22	D13 # 150	21以上 30以下	159,000	
J400-16K		9・12・16・19・(22)	9・12・14・16	9・12・(16)	4-D38×785	SD490 200	45×670×670	25×94	870×870	1,070×1,070	800	16-D25	D13 # 150	21以上 30以下	182,000	
J400-19K	400×400	9・12・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・16・(19)	4-D41×880	SD490 210	50×710×710	25×100	900×900	1,100×1,100	800	20-D25	D13 # 150	21以上 30以下	207,000	
J400-22K		9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・16・19・(22)	12-D38×785	SD490 200	60×710×710	25×94	900×900	1,100×1,100	800	24-D25	D13 # 150	21以上 30以下	220,000	
J400-25K	400×400	9・12・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22・25	9・12・16・19・22・(25)	12-D38×785	SD490 200	60×710×710	25×94	920×920	1,120×1,120	800	24-D25	D13 # 150	21以上 30以下	219,000	
J450-16K		450×450	9・12・16・19	9・12・14・16	9・12・(16)	12-D38×785	SD490 200	50×710×710	25×94	920×920	1,120×1,120	800	24-D25	D13 # 150	21以上 30以下	248,000
J450-19K	9・12・16・19・22・(25)		9・12・14・16・19	9・12・16・												



基礎伏図



2F 梁伏図

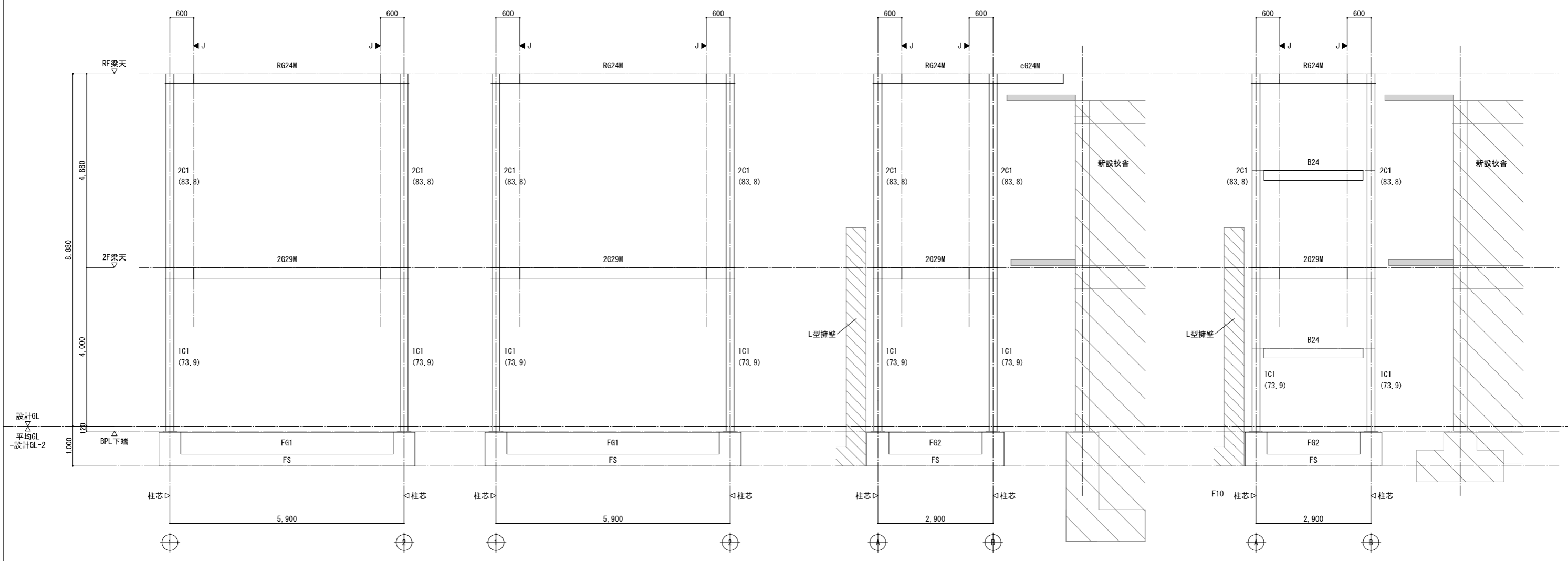


RF 梁伏図

註) ・ 図中 印は土間コンクリートを示す。
 ・ 土間レベルは意匠図による。
 ・ 地耐力Ra=250kN/m²(長期)

註) ・ 図中 () 内の部材は下部部材を示す。

註) ・ 図中 () 内の部材は下部部材を示す。



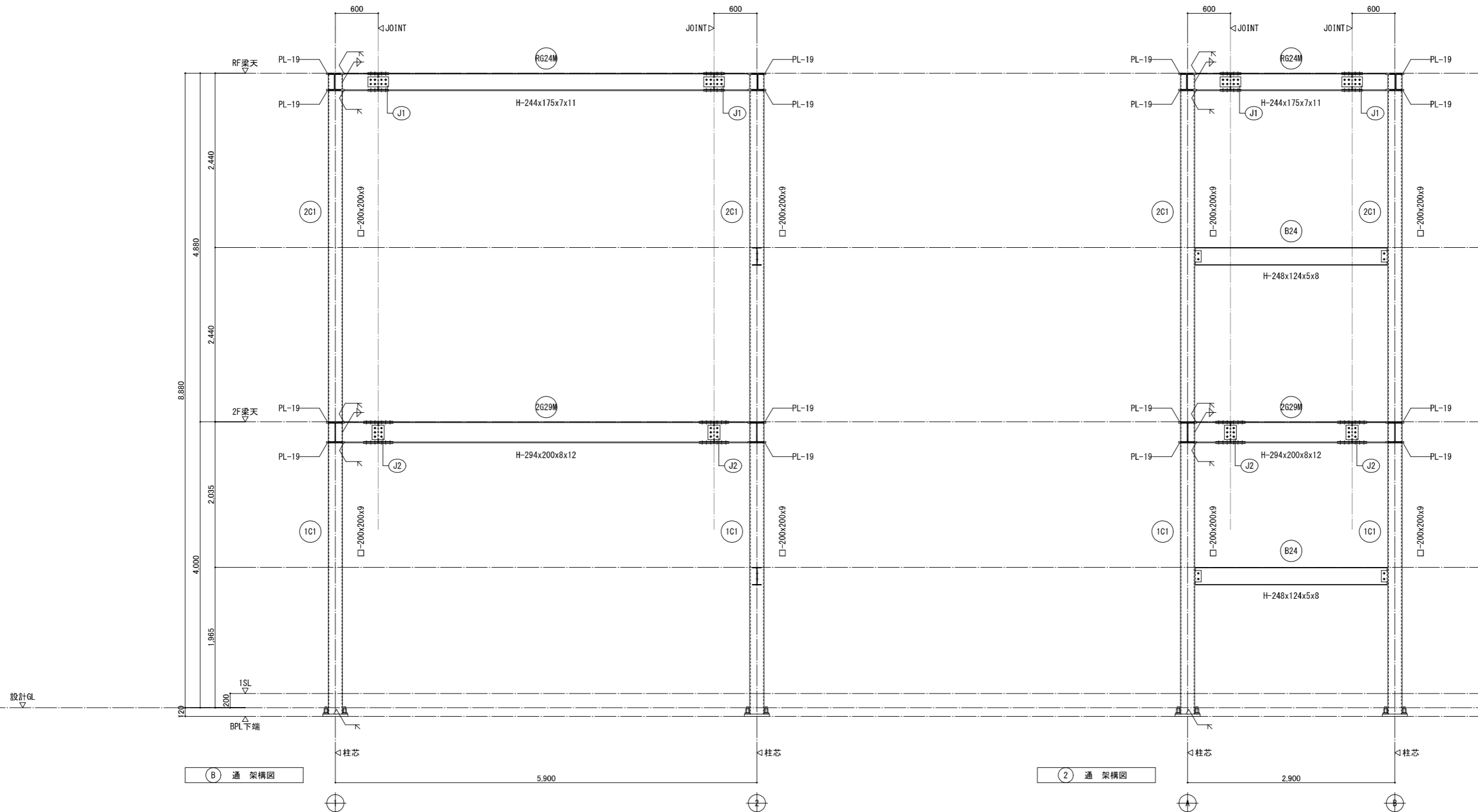
(A) 通軸組図

(B) 通軸組図

(1) 通軸組図

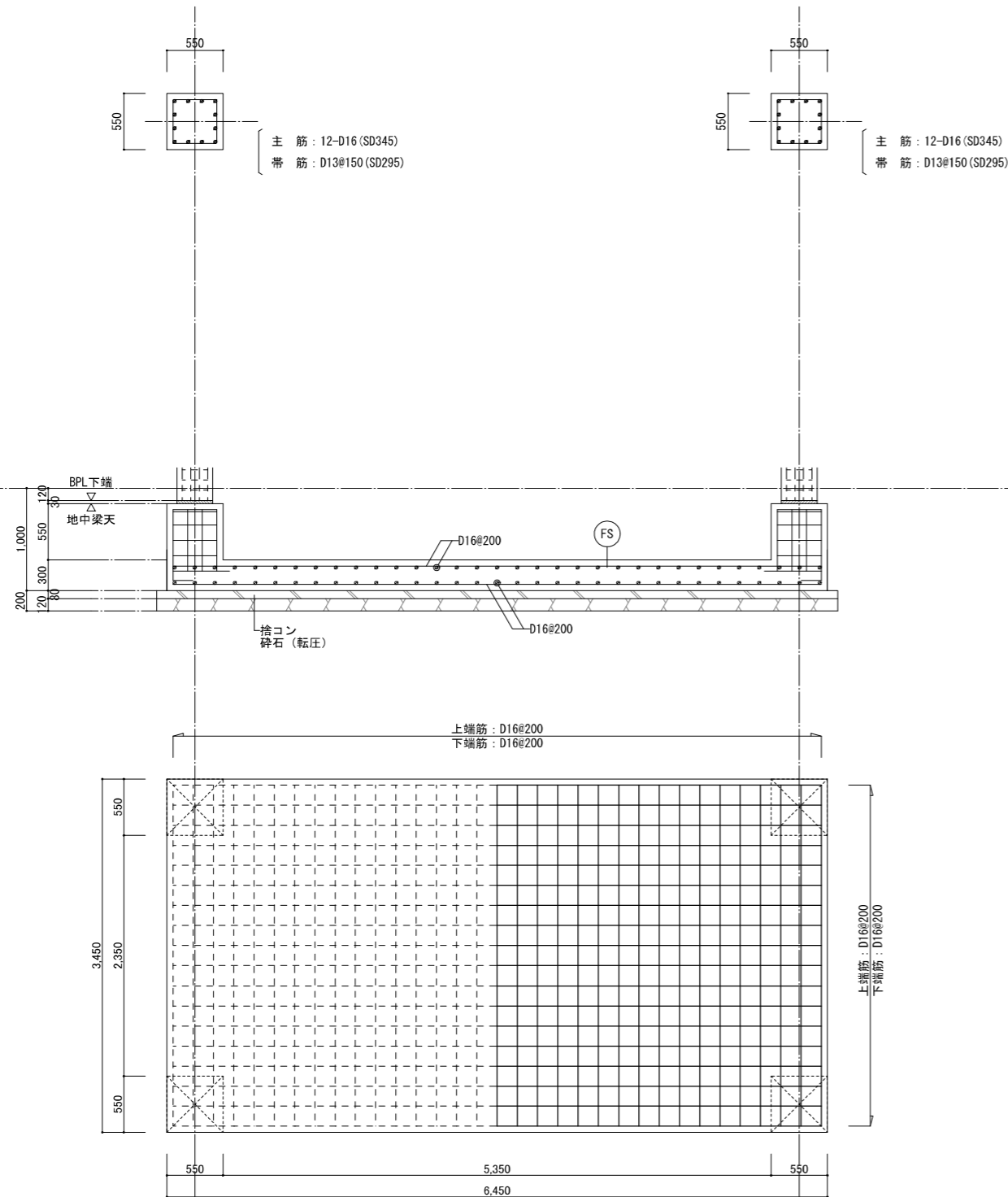
(2) 通軸組図

註) ・ 図中 J▶ 印はジョイント位置を示す。
 ・ 図中 () 内の値は入 : 細長比を示す。



註)・圓中ダイヤフラムはSN490Cを使用。

基礎詳細図



部材リスト 註)・鉄骨部溶融亜鉛メッキとする。(HTBはF8T使用)

符号	部材	種別	接合、継手、その他	符号	部材	種別	接合、継手、その他
柱				片持梁			
2C1	□-200 X 200 X 9	BCR295		cG24M	H-244 X 175 X 7 X 11	SS400	(J1)
1C1	□-200 X 200 X 9	"	ジャストベース J200-09K				
				階段			
大梁				ササラ桁	PL-12 X 300	SS400	
G24M	H-244 X 175 X 7 X 11	SS400	(J1)	踏板	PL-6 加工	"	
G29M	H-294 X 200 X 8 X 12	"	(J2)				
小梁							
B24M	H-244 X 175 X 7 X 11	SS400	GPL-6 HTB 2-M20 (J1)				
B24	H-248 X 124 X 5 X 8	"	GPL-6 HTB 2-M20				

ジョイントリスト

符号	(J1) H-244 X 175 X 7 X 11	(J2) H-294 X 200 X 8 X 12
梁図		
F	S. PL- 9 x 290 x 175 HTB 8-M20	S. PL- 9 x 410 x 200 HTB 12-M20
W	2S. PL- 9 x 290 x 70 HTB 8-M20	2S. PL- 9 x 410 x 80 HTB 6-M20

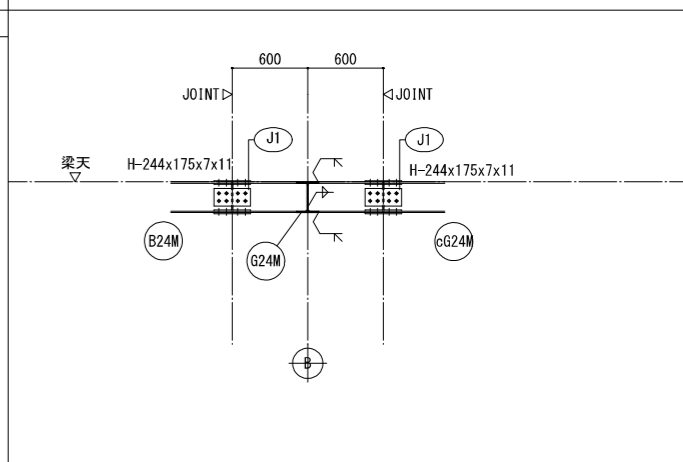
仕口リスト

符号	B24M H-244 X 175 X 7 X 11	B24 H-248 X 124 X 5 X 8
梁天		

柱脚リスト

符号	1C1 □-200 X 200 X 9	ササラ桁 PL-12 X 300
梁図		
	ジャストベース J200-09K	
	BPL-32 X 350 X 350 (SN490B) A. Bolt 4-M29 (SD490) L=660	BPL-19 X 160 X 350 (SS400) A. Bolt 2-M20 (SS400) L=400WNフック付

B24M-cG24M連梁部詳細図



地中梁リスト

符号	FG1	FG2	FBK
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
b x D	400 x 850	400 x 850	500 x 550
上端筋	3+2 - D19	3 - D19	3 - D19
腹筋	4 - D10	4 - D10	2 - D16
下端筋	3+2 - D19	3 - D19	3 - D19
スターラップ	D13@200	D13@200	D13@200

雑配筋図

